令和５年度

# 北上川『流域圏』推進交流会議

～多様な交流と連携によるネットワークづくり～

## 報　告　書

Photo:湯田ダム直下の和賀川

北上川「流域圏」フォーラム実行委員会

本交流会議は、北上川流域において、川をテーマに活動しているＮＰＯ、研究者、行政などが集い、相互の交流と連携を深める機会として、今回で６回目を迎えました。

多様な主体の参画と連携による活気ある流域社会を目指して、今後の北上川流域のあり方や取組について意見交換を行いました。

# 目　次

## 令和５年度　北上川「流域圏」推進交流会議


（１）挨　拶 …… 1

主催者挨拶　実行委員長　平山 健一 ---------- 1
来賓挨拶　東北地方整備局河川部長　成田 秋義 氏 ---------- 2
石巻市長　齋藤 正美 氏 ---------- 3
北上市長　八重樫 浩文 氏 ---------- 4

（２）流域活動発表 …… 7

①「北上川を活用した川下り舟艇体験」
登米市中田Ｂ＆Ｇ海洋センター　前所長　本宮 秀年 氏 ---------- 8

②「胆沢川、和賀川、北上川を繋いだウォーターランド構想」
（一社）いわて流域ネットワーキング　代表理事　内田 尚宏 氏 ------- 12

③「盛岡舟運による街の賑わい創出事業の検証及び今後の可能性」
岩手大学 理工学部 システム創成工学科　教授　南 正昭 氏 ---------- 20

④「近年のカワウ飛来状況」
西和賀淡水漁業協同組合　代表理事組合長　佐井　守 氏 ---------- 27

⑤「木賊川遊水地予定地における環境保全」
岩手県立大学 研究・地域連携本部　地域連携ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　渋谷 晃太郎 氏 -- 31

⑥「北上川を活かした流域自治体の連携をめざして」
一関市建設部　部長　渡辺 敏彦 氏 ---------- 43

（３）河川行政の取組報告（国、県） …… 52

①「北上川における川づくり」
岩手河川国道事務所　所長　近藤　修 氏 ---------- 53

②「事務所取り組みの紹介」
北上川下流河川事務所　所長　斉藤　喜浩 氏 ---------- 59

③「北上川５ダムの最近の話題」
北上川ダム統合管理事務所　所長　小田桐 淳司 氏 ---------- 69

④「岩手県の流域治水の取組
岩手県県土整備部河川課　総括課長　馬場　聡 氏 ---------- 80

⑤「日本一長いみやぎの運河群の取組」
宮城県土木部河川課　課長　長谷川 清人 氏 ---------- 86

（４）意見交換　～ 流域圏の活動や今後のあり方等について ～ …… 96


## 参 考 資 料


参考資料 …… 107

① 意見交換用資料 ---------- 108
② 新聞掲載記事 ---------- 115
③ 実行委員会 規約・名簿 ---------- 116

**開催日** 令和6年2月3日（土）　**会場** 展勝地レストハウス（北上市）

## □ 13:30　開　会

**主催者挨拶**　実行委員長　平山 健一

**来賓挨拶**　東北地方整備局河川部長　成田 秋義 氏

石巻市長　齋藤 正美 氏

北上市長　八重樫 浩文 氏

## □ 13:50　流域活動発表

① 「北上川を活用した川下り舟艇体験」

登米市中田Ｂ＆Ｇ海洋センター　前所長　本宮 秀年 氏

② 「胆沢川、和賀川、北上川を繋いだウォーターランド構想」

（一社）いわて流域ネットワーキング　代表理事　内田 尚宏 氏

③ 「盛岡舟運による街の賑わい創出事業の検証及び今後の可能性」

岩手大学理工学部　教授　南 正昭 氏　大学院生　小室 祐人 氏

④ 「近年のカワウ飛来状況」

西和賀淡水漁業協同組合　代表理事組合長　佐井　守 氏

⑤「木賊川遊水地予定地における環境保全」

岩手県立大学研究・地域連携本部　地域連携ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　渋谷 晃太郎 氏

⑥ 「北上川を活かした流域自治体の連携をめざして」

一関市建設部　部長　渡辺 敏彦 氏

**～ 休憩 ～**

## □ 15:15　河川行政の取組報告

① 「北上川における川づくり」

岩手河川国道事務所　所長　近藤　修 氏

② 「事務所取り組みの紹介」

北上川下流河川事務所　所長　斉藤　喜浩 氏

③ 「北上川５ダムの最近の話題」

北上川ダム統合管理事務所　所長　小田桐 淳司 氏

④ 「岩手県の流域治水の取組」

岩手県県土整備部河川課　総括課長　馬場　聡 氏

⑤ 「日本一長いみやぎの運河群の取組」

宮城県土木部河川課　課長　長谷川 清人 氏

## □ 15:50　意見交換　～発表・報告を受けて～

コーディネーター：　実行委員長　平山 健一

発表・報告の質疑応答後に、流域圏の活動や今後のあり方等について意見交換

## □ 17:00　閉　会

〔主催者挨拶〕

実行委員長　　平山　健一

皆様、ご無沙汰しておりました。北上川流域圏フォーラム実行委員会の平山でございます。今年もよろしくお願いいたします。本日は、令和５年度、北上川流域圏推進交流会議に参加いただきましてありがとうございます。

また御来賓として、国土交通省東北地方整備局河川部長 成田秋義様、流域の自治体連携を推進されております石巻市長 斎藤正美様、地元北上市の八重樫浩文市長様をお迎えいたしておりますが、後程、ご挨拶を賜りますこと、誠に有難うございます。

今年は新年早々に能登半島地震が発生し、多くの方がお亡くなりになっており、石川県を中心に被害が広がっていますが、一日も早く、被災地が日常を取り戻し、被災者の皆様の「心の復興」が成し遂げられますよう、お祈り申し上げたいと思います。

また、本フォーラム実行副委員長の軽石 昇さんが、昨年９月 21 日逝去されましたのでご報告申し上げ、心からお悔やみ申し上げます。

軽石さんはこの展勝地レストハウスの前社長でありますが、平成７年、「北上川流域連携交流会」の誕生以前から、北上川の上下流連携に取り組んでおりました。川だけでなく「バザール街道 107」などの横軸連携も手掛けて、「みちのく」の地域連携の先駆者として地域資源の発掘に尽力されて参りました。

北上川舟運の主役であったひらたの復元は、軽石さんの熱意なしではありえなかった夢の実現でした。資金集めを魔法の様にクリアーし、船頭さんの育成や、航路の調査などを短期間に成し遂げ、「平成の連携号」は、平成 13 年の春、勇躍、石巻に向けて展勝地を出航することができました。

北上川を下る「ヒラタの懐かしい姿」に、沿川各地で、人々が土手に溢れ、石巻では、日高見太鼓で盛大な歓迎を受けました。流域の「一体感」を再確認した最高のイベントでありました。

また平成 16 年（2004）には、軽石さんを大会委員長として展勝地で開催された「川と共に生きる全国大会 in 北上川」は文化・医療・福祉といった新しい視点からの川の「役割」を提案する大規模な集会となり、北上川の活動のゆるぎない評価と展勝地を全国に印象付けることになりました。

また平成の後半、我々の運動が「流域」という大きな視点を失いかけた時期がありました。軽石さんは川の仲間一人一人に、「川の友、舟の友の集い」の開催を呼びかけて、この「北上川流域圏フォーラム実行委員会」の発足に導き、その副代表を務めていたところです。

軽石さんとの 30 年の思い出は尽きませんが、気さくな笑顔といつも若々しかったリーダーシップを発揮して北上川の市民運動を引っ張って頂きました。その大きな貢献に、心からの感謝を捧げます。

我々は、軽石 昇さんや、３年前に亡くなった新井偉夫さん達の想いを大切にして、しっかりと北上川の愛する風土を守り続けていきたいと念願しているところです。

さて、本日の「北上川流域圏 連携推進会議」は、北上川に関わる活動組織と官民の交流の場として、毎年、展勝地で開催しており、コロナで２回中断していますが、本年で第６回目を迎えます。

本日も例年のプログラムに従い進めて参りますが、最近の活動の成果として、大学からの支援、流域自

治体の連携の動きなど、6つ報告・発表があります。

続いて国土交通省 北上川関係3事務所と岩手・宮城両県からの最近の川づくりや流域治水、ダム・運河・などについての話題の提供を頂きます。

最後に、会場の皆さんと一緒に、発表や報告等についての質疑応答や、日頃お気づきの話題について、自由に意見交換をしたいと思います。出来れば、今回6回目を迎え、新しい発展が期待されているこの会の在り方や、添付資料にありますが、昨年度初めての試みた「北上川流域研修ツアー」に対する御意見なども、お伺いしたいと願っています。

盛り沢山の内容ですが、皆様の活発な発言により、本日の会議が有意義なものとなりますよう、ご協力をお願いして、開会のあいさつに代えさせて頂きます。有難うございました。

**〔来賓挨拶①〕**
**東北地方整備局河川部長　成田 秋義 氏**

ご紹介いただきました、国土交通省東北地方整備局で河川部長を拝命しております、成田といいます。よろしくお願いします。

本日は、北上川『流域圏』推進交流会議の開催、誠におめでとうございます。

私が昨年4月に着任以降、この関連するいろんな会議、研修会等々に私自身も参加させていただいて、この地域、この会議の熱心な活動に改めて、敬意を表するところでございます。

先ほど平山先生からもお話がありましたけれども、能登半島地震に関しては、現在も地域の方々の復旧・復興への取組が続いており、国土交通省としても必死になって支援を、今、取り組んでいます。東北地方整備局管内からも現在12班40名ほどお手伝いするということで、現地に派遣しているところです。多分、復旧・復興の取組には、長い期間を要することかなと思っておりますので、我々も東日本大震災で全国から受けたいろいろなご支援に感謝しているところの恩返しをぜひしたいということで、今、取り組んでおります。

さて、本交流会議につきましては、私、今、河川部長をしておりますけれども、以前は北上川ダム統合管理事務所の所長をしてございまして、平成29年、平成30年と展勝地、この会場で皆さんと同じような場で議論させていただいたことを覚えております。あの頃から比べると、一旦コロナの状況を挟んだので、なかなか難しかったかもしれませんけれども、私が着任以降も、昨年、秋口からの活動は、すごく熱心な活動をされているなと思いました。流域の研修会では、ダムにも行っていただきましたし、川の現場を見ていただいたところですし、その後、本日、お見えになっていますけれども、齋藤石巻市長の発案等によりまして、自治体の連携会議というのを11月 30 日に一関市で7つの自治体にお集まりいただいて、北上川を中心とした連携の在り方などを議論されているという状況にございます。

北上川流域は、半導体工場など、いろんな水との関係でも注目が集まっているところです。人が多く集まってくるということは、その傍を流れる川に対する期待も大きくなろうかと思っています。コロナ禍の中で、なかなか人の動きが途絶えていた時期がございますけれども、東北管内、ダムで言えば、国土交通省だけで18ダムございますけれども、令和元年には、コロナ前は35万人ぐらいダムに来ていただいたのが、やっぱりずっと減ったのですけれども、令和5年に、また大分V字回復して、人も多く来るよ

うになっていますし、川の整備で言えば、北上川は、特に石巻市、それから盛岡におけるかわまちづくり等々で、たくさんの方においでいただいているところです。こういう場所等もだんだん整備されておりますので、国土交通省東北地方整備局としても、北上川に関係する皆さんとこのような場を通じて、一緒になって盛り上げていきたいと思っています。

今日は、地元の事務所からいろんなお話もさせていただきますので、皆様からもいろんなお話をいただいて、ますます、この地域の活性化につながるような議論ができればと思っています。本日は本当にお招きいただきまして、ありがとうございました。よろしくお願いします。

〔来賓挨拶②〕

**石巻市長　　齋藤 正美 氏**

どうも皆さん、こんにちは。ただいまご紹介を賜りました石巻市長の齋藤正美です。昨年に続き、またこうして皆さんにご挨拶できますこと、大変うれしく思っております。去年は雪でしたね。今日は天気よくて何よりだなと思っております。

本日の北上川『流域圏』推進交流会議にお招きいただきましたこと、心から厚く御礼申し上げます。何よりも平山先生が気持ち入って、気合いが入っているのが、我々には大きな励みでございまして、先生、本当にありがとうございます。

初めに、今年１月１日の能登半島地震を受けまして、皆様も東日本大震災当時を思い出して大変胸を痛めていることかと思います。犠牲になられた方々に心からご冥福を申し上げますとともに、被災された皆様にお見舞いを申し上げる次第であります。

我が石巻は、東日本大震災において最大の被災地でございまして、先んじて事に当たる、先んじて支援に当たる、そういう思いでいち早く、実は物資をお願いしているイオンに頼んだら、いつになるか分からない、かなり時間がかかりますというのですが、それはそれで頼みました。でも、備蓄品をかき集めて、珠洲市と能登市と、それから志賀町、２市１町に５日に送って６日に届けさせていただき、たまたま志賀町に私の学生時代の後輩で町会議員をやっているのがおりまして、連絡を取り合ってやっていたのですけれども、早く届けていただいてありがたいということで感謝の電話が来ましたこと大変うれしく思いましたが、そのほかにも職員の派遣、そして保健師２名と、あとは避難所運営の２名、４名を１パーティーとして、３パーティーを志賀町に送らせていただきました。その結果、愛知県から支援で入った方が避難所の運営等をやろうと思ったが、何をどうすればいいか分からなくて、地元の人たちも整理がつかない状態だったらしいのですが、石巻という名前を見られて、どうしたらいいのと言われていろいろアドバイスしたら、かなり皆さん喜んでくれたと。それから、石巻という防災服を着ているだけで声をかけられて、こういうときはどうすればいいのと言われて、適切にアドバイスできたということで、少しはお役に立ったかなと思っております。

あと、ご存知のとおり、日本製紙が石巻にありますので、日本製紙にお願いして、紙が足らないというのでトイレットペーパー、ティッシュペーパー、それから濡れティッシュ等を大量に石巻市から送らせていただいたり、とにかくこれからが本番でございますから、支援をいろんな形で要請に従ってやっていく、そのことが石巻市の使命であり、責務である、そういう思いで市民一丸となって取り組んでお

りますことを皆さんに報告させていただきます。そして、我々は東日本大震災で多くの皆様から支援をいただいた、その恩返しだという気持ちでやらせていただきます。

ところで、この北上川『流域圏』推進交流会議でございますが、昨年も参加させていただきましたが、皆様から発表される北上川流域という新たな枠組みでの交流や賑わい創出について、大変喜ばしく感じておりますとともに、またこの活動にご尽力賜っていることに厚く御礼申し上げます。

本日の流域活動発表の中で、一関市から発表があると存じますが、自治体連携会議について、去年は一関市で２回目をやらせていただきましたが、本当に一関市の皆さんにはご苦労をおかけいたしました。そして、この自治体連携会議について、当市といたしましても特に積極的に活動を行いながら、北上川流域全域の交流推進等、取り組んでまいりたいと考えている次第であります。

さて、本日は北上川に関連して皆様にご報告がございます。当市の東日本大震災からの復興事業、そして地域の皆様をはじめ、国土交通省東北地方整備局及び北上川下流河川事務所、それから学術機関の皆様と取り組んでおりました。それが令和４年４月に完成いたしました。両岸で 15 ㎞、事業費 1,100 億円、巨額な投資をしていただいて、石巻、無堤地区だったのですけれども、立派な堤防を造っていただきました。それが令和４年４月に完成いたしまして、旧北上川の復興かわまちづくりが 2023 年の土木学会デザイン賞において最優秀賞を受賞しました。その場所はかわまち大賞もいただいております。そして、このデザイン賞受賞のため、先日の土木学会において、私が賞状を頂いてまいりましたことを、ここにご報告させていただきます。皆様と取り組んでまいりました北上川のかわまちづくりが栄えある最優秀賞を受賞したことに深く感謝申し上げますとともに、昨年頂戴したかわまち大賞と併せ、このすばらしい環境を十二分に活かし、さらなる北上川流域の発展につなげられるよう尽力してまいりますので、流域圏の皆様におかれましても、今後も引き続き連携とご協力をお願いさせていただき、ご報告を兼ねたご挨拶とさせていただきます。

本日はおめでとうございます。どうぞ本日はよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

**〔来賓挨拶③〕**

**北上市長　　八重樫 浩文 氏**

**（代理）都市整備部道路環境課長　鎌田　伸 氏**

皆さん、こんにちは。本日、市長にご案内をいただいておりましたが、別件公務と重なってしまいまして、どうしても来ることができませんでしたので、代理で私、北上市都市整備部道路環境課長をしております鎌田と申しますが、代理で出席させていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

北上川『流域圏』推進交流会議の開催に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

この会議につきまして伺ったところ、きっかけとなる北上川流域における交流会は平成７年度まで遡るということで、北上川流域の連携活動が約 30 年近く続いているという歴史を伺いました。

また、北上川「流域圏」フォーラム実行委員会におかれましては、岩手、宮城両県の流域自治体や国、県担当者の皆様、河川関係の多種多様な主体の参画と連携による活気あふれる流域を目指した活動など、関係各位のご尽力に心から敬意を表します。

北上市は、北上川の恩恵を存分に受けながら発展してきたまちでございます。北上川というものを考えると、流域のまちですし、また岩手県、宮城県に共通する地域の資源でもございます。

そのような中で、北上市博物館で過去に、令和元年度になりますが、特別展で「北上川舟運と海」を開催いたしました。また、昨年 11 月には北上市立博物館開館 50 周年記念シンポジウム「北上川舟運がつないだもの」を開催いたしまして、流域の振興や宮城県石巻市の稲井石の運搬、あと大河と海をつないだ石巻港と北上川の産物をテーマに歴史をひもときました。

また、北上市立博物館の入口脇のテラスには、令和元年度より河口石巻まで北上川運航で行いました、ひらた舟の断面模型を現在も設置しております。皆様にその大きさを実感してもらい、当時の技術や知恵で自然環境と対峙したことに思いを馳せてもらう機会の場を提供しております。

あと、本日、河川行政の取組報告がございますが、その中で岩手県様より報告の案件となっておりますが、現在国土交通省では気候変動の影響による降雨量の増大に対しまして、早期に減災を実現するため、流域治水プロジェクト 2.0 の策定が進められております。近年、降雨量は増加しており、水害は激甚化していくことが予想されておりますので、北上市においても北上川流域での水害のリスクを考慮した防災指針を策定し、立地適正化計画の策定、見直しなどをしている状況でございます。

流域治水の取組は、自治体が行う対策だけでは難しく、今後住民や企業の皆様にも水害リスクを認識してもらうことがさらに重要になってきている状況でございます。この北上川『流域圏』推進交流会議の開催をきっかけに、北上川流域の新たな魅力の発信を継続しつつ、官民一体となった連携の交流事業、それぞれの地域活性化につながる賑わい創出に向けた事業などについて、流域活動の事例を伺いながらご一緒に勉強させていただきたいと考えております。

最後になりますが、本日の交流会議を機に、北上川流域圏の連携活動が今後ますます活発になることをご祈念申し上げ、挨拶といたします。

〔挨拶〕

**北上市長　　八重樫 浩文 氏**

**河川行政の取組報告の前に、急遽駆けつけていただき、ご挨拶をいただきました。**

地元の北上市長の八重樫と申します。今日は皆様お忙しいところ、展勝地に来ていただきまして、誠にありがとうございます。

本日、市の主催の行事が 1 時半ということで、すっかりバッティングしていまして、大変遅くなりまして申し訳ございません。

あと、先ほど一関市の部長からも、11 月 30 日の自治体連携会議、何かこう見ると出てないのは私だけかなと思いましたが、実は議会でどうにもなりませんで、一関市に行けなくタイミングが悪くて大変失礼しております。

先ほど私の代理で鎌田課長が挨拶したのだと思いますけれども、当市も北上川の周辺、先ほど石巻市長とはちょっとすれ違いになりましたけれども、昔から文化もそうですし、物流、舟運もまさにそういうことで、宿場町黒沢尻のまちづくりが始まっております。歴史もあるところですし、また今災害あるいは産業関係、この後も農業とか工業用水の話もちょっと今資料見たらあるようですけれども、本当に

北上川と北上市は切っても切れない、昔、古代から本当にそういう関係、今現在もこの展勝地は観光拠点でもございますし、農業、工業も含めて、本当に北上川とともにこの北上市も発展してまいりました。

また、夕方にも予定があって参加できず申し訳ないのですけれども、皆様方と一緒に今後また連携交流会議をしっかりと北上市も参加いたしまして、この北上川の管理あるいは開発を一緒に盛り上げてまいりたいと思います。本当によろしくお願いいたします。ありがとうございました。

# 流域活動発表

① 登米市中田Ｂ＆Ｇ海洋センター

② （一社）いわて流域ネットワーキング

③ 岩手大学 理工学部

④ 西和賀淡水漁業協同組合

⑤ 岩手県立大学 研究・地域連携本部

⑥ 一関市建設部

**流域活動発表①**

**「北上川を活用した川下り舟艇体験」**

**登米市中田Ｂ＆Ｇ海洋センター**

**前所長　本宮 秀年 氏**

初めまして。登米市中田海洋センター前所長の本宮と申します。この北上川と関わり合って、約 40 年近くになります。

まず、北上川の活動ですが、中田海洋センターというのは、中田町が昭和 53 年にＢ＆Ｇ財団の事業を取り入れて、体育館、武道館、プール、それから艇庫を設置しました。私は、昭和 57 年から海洋センターの指導員として、沖縄に３か月間、カヌー、ヨット、ボート等の指導員の資格を取りに行ってきて、それ以降、このＢ＆Ｇ海洋センターと関わりを持ってきました。

実は、中田Ｂ＆Ｇ海洋センターとして、北上川下りを昭和 56 年から行っています。一番最初は朝日橋上流のイギリス海岸から中田まで約 118 ㎞を１泊２日で、私どものところに中田中学校という学校があるのですが、その学校にたまたま海洋クラブという部がありまして、カヌー、ボート、それからヨット等を子供たちに教えるということで行っていました。その授業の一環として川下りを行ったということです。

それで、中田まで下ったのが、昭和 56 年から平成 12 年まで行いました、１泊２日で。ただ、一関市で遊水池事業があって、川を思うように通ることができなくなりまして、それ以降につきましては、前沢に同じようにＢ＆Ｇ財団の施設がありまして、そちらまで下るというようなことで、中田まで下っていたのは平成 12 年までです。こちらのレストハウスには平成 12 年以降、ここにカヌーを止めさせていただいて、ここからちょっと下流にキャンプ場があります。そちらに１泊して前沢まで下ったと、それを平成 24 年まで行っております。中田町としては、北上川とそういう関わりを持ってきたということをご理解いただければと思います。

それ以降、子供の数の減少に伴って、なかなか海洋クラブ、カヌー部というのが存続できかねて、平成 24 年で中田中学校のカヌー部はなくなったということで、それ以降については、なかなか子供たちと一緒に川下りができない状況になっているというところです。

ただ、皆さんの資料を見ていただいて分かるように、中田の艇庫にはシングルカヌーが全部で 18 艇、それからこのローボート、５人乗りなのですが、これが 12 艇、それから去年からこの SUP を、今皆さん SUP ブームで、その SUP をシングル 10 艇、それから８人乗り用のビッグ SUP、１艇を今準備しております。１家族以上で中田海洋センターに申し込んでいただければ、救助艇が最低２艇つきます。２艇でフォローしながら川下りするということを、今ＰＲして活動しているところです。今回、これに示してありますように、１番目になかだスポーツクラブ“パティオ”さん、これは中田のスポーツクラブが実際に子供たちを集めて、川に親しむという体験をやっています。６月から８月まで年４回実施することにしています。それで、残念ながら、どういうわけか土日になると川が増水するのです。どういうわけか不思議なの。これだけ、ふだんは渇水なのですが、こちらで遠野山とか、雫石山とか、和賀山とかで雨が降られると、次の日２日間ぐらいかかって中田のほうにやってくるのですね。そうすると増水になって、川下りができない状況が結構あるのです。危険を冒してまでやるわけにいかないので、去年は、パティオさんは１回きりの実施でした。

次の米谷公民館、これは河川事務所米谷出張所のところにある公民館です。そちらの公民館事業として、地域の児童を集めて、川下りの大冒険の体験という形で、どこからどこまでかというのは、皆さんにお配りしている資料の裏側にあります。見ていただくと分かるのですが、冠木船着場、これは令和３年まで埋もれていた状態だったのです。そうしたら、河川事務所に使えるようにとお願いしたらすぐやっていただけたということで、去年から、この部分からスタートするように、やっと約５km、２時間かけて中田の艇庫まで、下流から右岸 46 km付近から右岸の 41 km付近までの約５kmを先ほど見ていただいたカヌー、SUP、ローボート等で実際に下っているということです。

それで、44 km付近、ちょっと下流のところの錦桜橋というのがあるのですが、錦桜橋下流に夏場になると砂場が出るのです。大体砂場が川幅 80ｍから100ｍあるのですが、そのうち半分は私が立っていても半分以上歩けるという状況の浅瀬になります。ここで子供たちに、水の流れる場所によって流れ方が違うのですよ、深さによって肌に感じる水温が違うのですよというようなことを体験してもらう。それともう一つは、ライフジャケットを着ていますので、ライフジャケットで浮遊体験してもらう。そこで休憩時間を大体 30 分間取るのですが、下り始めて、その 30 分間でそれを遊びながら体験してもらうというような内容の事業をしている。最初、カヌーで下ってきた者は、次は SUP に乗るとか、ローボートに乗ってもらうとか、とにかく半分はカヌーに乗った者は、次はローボートとか SUP に乗ってもらうような、そういった体験で今実際に行っているというような内容です。

資料の後ろを見ていただくと分かるように、登米市Ｂ＆Ｇスポーツ協会というのがあります。これは指導員の会です。指導者の登録者が全部で 52 名います。実際に活動に参加してもらっているのが 27 名、その 27 名が、私も去年でなぜ退職したかというと還暦を迎えまして退職になったのです。私と同じように指導員そのものが年々、年を取るだけ動きがだんだん鈍くなっていく。今後どうしたら若者をうまく取り入れられるかというのが一番の課題かなと。それでも、その 27 人というのは、昔この北上川の川下りを経験した子供が、そのまま実際今指導員として残ってもらっているというような内容で、うちのほうは今やっているような状況です。

今後、また同じように地域にＰＲしながら、皆さんどこでも結構です。中田海洋センターに、親子１組でも結構です。申し込んでいただいて、その行事が混み合わないかぎり平日でも対応しますので、ぜひご検討いただければと思います。どうもありがとうございました。

# 令和５年度登米市中田B&G海洋センター北上川舟艇活動報告

**冠木船着場～中田艇庫(約５Km)北上川川下り体験を３回実施しました。(増水で２回中止)**

**趣旨：北上川とふれあい、自然の楽しさ、厳しさ、美しさを知ってもらう。海洋性レクリエーションを通じて青少年のこころとからだの育成を目指す。**

## 1．なかだスポーツクラブ“パティオ”げんきクラブ舟艇体験

23 名(参加者 16 名：指導員 7 名)

カヌー・SUP・ローボートを体験していただきました。親子でシングル SUP に二人で乗る方もいました。途中大雨が降り、寒い中の体験になりましたが無事ゴールできました。

## 2．米谷公民館北上川川下り大冒険体験教室：7/30(日)

23 名(参加者 18 名：指導員 5 名)

老若男女問わずカヌー・ローボート・シングル SUP・８人乗り BIGSUP を体験していただきました。普段見られない、川から見る錦桜橋は絶景だったようです。BIGSUP とローボートでは息を合わせるのが大変そうでした。

## 3．登米市 B&G スポーツ協会カヌー・SUP 教室：8/6(日)

34 名(参加者：18 名：指導員 16 名)

カヌーと SUP を体験していただきました。みんな楽しそうに一生懸命漕いでました。休憩場所で川に入って水の流れを感じてもらいました。

# 冠木船着場～中田艇庫川下りコース

**流域活動発表②**

**「胆沢川、和賀川、北上川を繋いだｳｫｰﾀｰﾗﾝﾄﾞ構想」**

**（一社）いわて流域ネットワーキング**

**代表理事　　内田 尚宏 氏**

いわて流域ネットワーキングの内田です。
今日は胆沢川、和賀川、北上川をつないだ広域・ウォーターランド構想について話をさせていただきます。構想というと、何かすごい大きなプロジェクトのような感じがしますが、これは私が考えておこなっていることなので、どちらかというと妄想ですね。そんな妄想の話をさせていただきます。

胆沢川でどのようなことをしているか、知って頂きたいので最初にビデオを見てもらいます。

（ビデオ）

ここは胆沢ダム直下につくられた、カヌーのスラローム競技場です。すごい流量でしょう。岩手の川ではなかなかこんな流量や高い瀬の連続はありません。カヌー選手でもチンしますから、一般の人には恐いくらいの激流です。しかしラフティングにはご覧のように楽しいコースなのです。みんなワイワイ喜んでますね。

後でもお話ししますが、2016 年の岩手国体に向けて作った特設のカヌーコースだったのですが、「カヌー選手が転覆するような危ないところは残してはおけない」。との声もあり、国体が終わったら壊す予定でした。

次のビデオは湯田ダムのほうで、春の水没林を、10 人乗りのＥボートに乗ってネイチャーガイドと一緒に自然観察をしながら楽しむというツアーです。

（パワーポイントで）

「胆沢川、和賀川、北上川を繋いだウォーターランド構想」は、今ビデオで見ていただいた、胆沢ダム直下のラフティングと、カヌー、SUP が楽しめる胆沢ダムエリアと、春の水没林のＥボートツアーや SUP ツアーが好評の湯田ダムエリア、そして北上川の和賀川の合流点から水沢水辺プラザまでの SUP ツアー。水沢水辺プラザの船着場は堆砂が進んで船外機着きボートは使えませんが SUP は出来るので SUP ツアーを行ったところとても好評でした。これら胆沢川流域、和賀川流域、そして北上川本流の魅力を合体して一つのウォーターランドとしてアクティビティ情報を発信した方が地域おこしに繋がるのではないかと考えています。

構想の経緯としては、2013 年に胆沢ダムが造られまして、胆沢川は豊富な流量が確保されるようになりました。更に 2016 年岩手国体に向けてダム直下に特設カヌー競技場が作られました。ただ、カヌー競技場は維持費が掛かるし、激流のままだと危ないという意見もあって、自然の川に戻す予定だったのですね。しかし、僕たちから見たら、この流れこそ最高に楽しい。ラフティングには最適である。ラフティングするために四国に行ったり、九州行ったりしているので、やっと東北で本格的なラフティングができる場所ができたので残して欲しいと市には伝えました。ラフティング自体があまり知られていなくて難しい感触でした。それで、当法人で「胆沢ダムを活かした観光開発プロジェクト」というのを始めまして、国体前の 2015 年にカヌー以外でも活路をということで、ラフティングを何度かやって見せました。その時には新聞やテレビも呼んで行いました。新聞にこのような記事が載ったり、テレビで放送されたりして、一般からは「おもしろそう」という声が寄せられましたが、市の関係者からは、「勝手にそんなことをしないで」みたいなことを言われたのですけれども「河川は自由使用だと思います」なんて

やりとりもありました。この豊富な流量はラフティングだけではなくて、リバーレスキュー講習にも最適なんですよ。水のレジャーを安全に楽しくおこなうためには、レスキュー技術の普及が大切です。そこでレスキュー３JAPAN という団体にお願いして、国際資格認定の本格的なリバーレスキュー講習会も始めました。消防士の方達にも参加して頂いています。このように人材育成の場としても最適な川でした。

2016 年に国体が終わって、コースの存続はどうなるのかというとき、ラッキーなことに、この年の秋にリオデジャネイロ五輪で銅メダルを獲得した羽根田卓也さんが胆沢に来られて、「ここは日本トップクラスのカヌーコースだ」とおっしゃって頂きました。

2018 年奥州市は仮設だった国体特設カヌーコースをカヌー競技とラフティングなんかの観光施設として残すと正式決定していただきました。

ということで、私たちは堂々とラフティングをやっていこうということで、まさしく東北有数のカヌーコースが誕生しました。ここはカヌーコースなので激流になるのですが、コースのあとも自然の激流があり、自然を楽しみながらいけるラフティングコースで、非常におもしろいコースです。

先ほども言いましたように、流量が多いということは、レスキュー３、スイフトウォーターレスキュー、激流救助講習は、岩手でできるところがないのです。東北でもそうはないです。秋田にちょっとあるぐらい。どうしてもやるというと、春先の水量が多いときにやるのですけれども、凍えてしまって、むしろ危ない。今はこれだけ流量があるので、こういった国際資格のできるレスキュー講習ができる。

あと、これは県南の消防署の職員たちのレスキュー研究会をつくっていて、消防署の方たちも来てやっています。そういったラフティング、川のレジャーとレスキュー、安全のそういった講習場として胆沢ダム直下を使っていける、東北のメッカにできる、そんな思いを持っています。

こういう活動を始めるに当たって、普通はお金がかかるのですけれども、私どもは以前から革の活動をしていてラフティングボート持っていて、盛岡北上川ゴムボート川下り大会のレスキュー支援や子どもたちとキャンプをしながら盛岡から石巻まで下ったりするなど、川の道具は大体ありました。ただ、お金はやっぱりないので、河川基金などの助成金を使って行いました。平成元年の河川財団の川づくり団体全国事例で優秀な活動だとして表彰していただきました。これがそのとき出したパネルです。そんな表彰も受けています。

2018 年に奥州湖交流館の指定管理者となり、堂々と、といいますか、事業としてラフティング始めました。初めの年 2018 年は 232 人だったのですけれども、昨年は 737 人、６年目で約３倍強になりました。途中コロナもあって、関東圏はお断りしていました。東北在住の人に限定したので、ちょっとこの辺伸び悩みましたけれども、それでも上り調子で増えている。コロナがなければ、もっと増えていたのかなと思います。

しかし、課題も見えてきました。ラフティングは６月から９月上旬くらいまで、流量の関係もあって期間が短い。ラフティングはハードで面白いけれども、「穏やかなアクティビティーのほうがいいわ」という方たちもいます。そこで考えたのが、この「ダム流域連携・広域ウォーターランド構想」です。それは、先ほど見ていただいた、湯田では融雪期の水没林が素晴らしい。あそこを私もそうですが自然観察指導員の案内で木立のあいだを巡るツアーですが、止水域で 10 人乗りＥボートですから高齢者でも安心で、非常に人気です。

もう一箇所は、北上川です。SUP をダム湖で覚えた人たちが、流れる川、北上川で SUP をする。技術

の成長に合わせて場所を変えていく、これも非常に楽しいと思います。胆沢ダム、湯田ダム、北上川、それぞれの魅力を活かし、それをつなぐことで、一つのウォーターランドとして考えたらいいじゃないかと思って、活動しています。

奥州湖交流館には人が常駐していますので、全体の案内や受付は奥州湖交流会でおこなうようにすれば良いと思います。

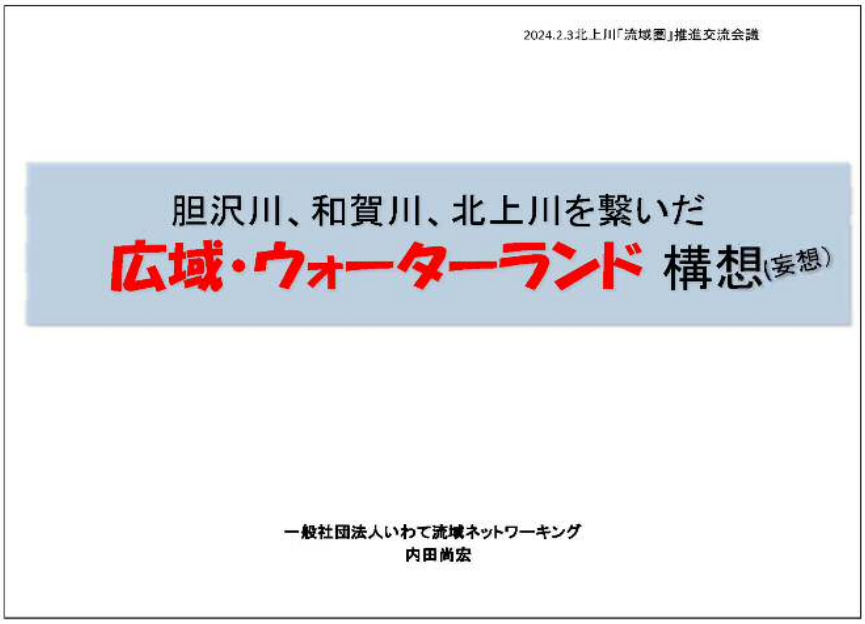
ダム流域連携・広域ウォーターランド構想を実現していくには、それぞれの地元で活動できる人材を育てる必要がありました。そういった考えから、リバーガイド育成講習会であるとか、川の安全の指導者としてRACリーダー講習会などを通年行っております。そういうことで人を育てて、地域の産業にしていきたい、していく、そういう思いで活動を行っています。実例として、西和賀町のご夫婦、瀬川強さんの息子さん、瀬川然君もご夫婦でリバーガイド講習会やレスキュー講習会に参加してくれまして、この方たちは今湯田ダムの湖畔にカフェを開いて、カヌーツアーもして、地域の人気の場所となっています。そういう広がりも持っています。

広域ウォーターランドの利点は、広く連携することで、体験型観光アクティビティーが多様化すること、更に体験時期が春、夏、秋、場所によっては冬と長く取れることです。

ラフティングは流量の関係で６月から９月の約３ヶ月間ですが、他の地域と連携すれば、春の水没林Ｅボートツアーや SUP ツアー、秋は紅葉ツアーなどと広がります。加えて人材の地域連携、相互協力ですね。地域ごとには活動できる人は少ないのですが、それぞれ忙しい時期が違ったりします。普段から連携していることで互いに暇な時期は忙しいところの手伝いをするといったことを実際におこなっています。

あと期待するのは集客効果ですね。今ネットを見てくるお客さんが多いのですけれども、１か所、１か所の活動をそれぞれで発信しているよりも、ウォーターランド全体として発信することで、このエリアに行けば、こういうこともできるのか、こっちではこういうことも有るのか、ではちょっと泊まって初日は胆沢でラフティングをして次の日は湯田でカヌーツアーをやろうとか、アクティビティーの多様化と広がりを持てる。あと、滞在型も希望できる、そのように考えています。

そのようなことから、胆沢川、和賀川、北上川をつないだ広域・ウォーターランド構想は、アクティビティーの広がりや期間の広がりで実現して、北上川流域をもっと楽しくしたい、そんな思いで活動行っています。



胆沢川エリア

## 胆沢ダム直下のラフティング＆カヌー＆SUP

2

和賀川エリア

## 湯田ダム　春の水没林Eボートツアー

3

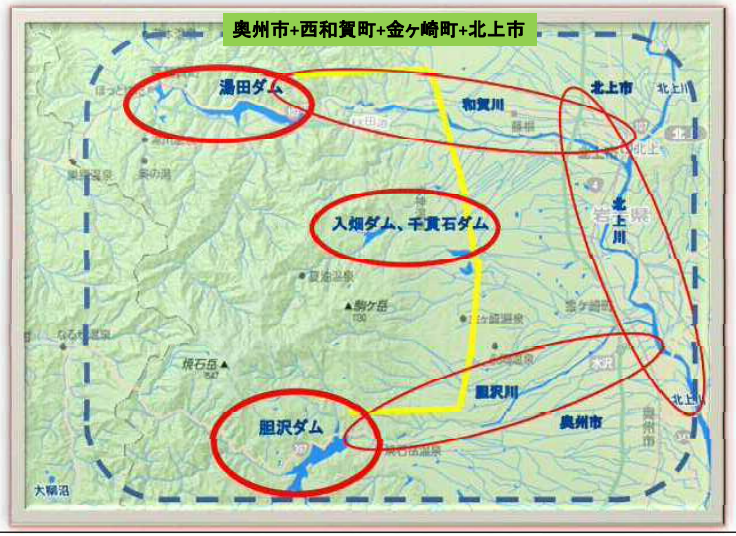
北上川エリア

## 北上川のSUP＆カヌーツアー

4

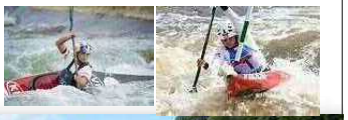
胆沢川、和賀川、北上川を繋いだ

## 「広域ウォーターランド」




5

2013年　胆沢ダム完成　　胆沢川は豊富な流量が確保された。
ダム直下に「2016年いわて国体」特設カヌー競技場を仮設。
国体終了後は自然河川に戻す予定でした。



## 「胆沢ダムを活かした観光開発プロジェクト」開始

2015年　2016年　2017年　2018年

・レスキュー3　講習会　・胆沢川リバーガイド育成講習会　・RACリーダー講習会など、川の人材育成を実施。　テレビ、新聞などメディアでも報じられた。



2018年、奥州市は、
仮設だった「いわて国体特設カヌーコース」を
カヌー競技とラフティングなどの
観光施設として残すと
正式決定



観光資源創出の取り組み

胆沢ダム直下に
東北有数の本格ラフティングコース誕生

# 水難救助の拠点に

レスキュースリージャパンと連携しレスキュー講習会を毎年開催

10

## 道具や運営資金は？

ラフトボートやライフジャケットなど
川の道具はこれまでの活動で持っていた。

資金は河川基金などの助成を受けて
補填。

「川づくり団体全国事例」で優秀表彰

河川財団主催令和元年度「川づくり団体全国事例発表会」で優秀な活動として表彰されました。

令和元年度川づくり団体全国事例発表会　2020年2月9日　会場：東京大学安田講堂

**胆沢ダムを活用した観光開発Step Up企画**

発表者：一般社団法人いわて流域トットフーキング・内田尚史

胆沢ダム（岩手県奥州市）が2013年に完成し、放流量が増えて本格的なラフティングが可能になった。そこで胆沢ダムを活用した"遊べるダム"体験型観光の開発を目指し、地元奥州市と北上川ダム統合管理事務所、地元団体、高校と連携し、昨年から更にStep Upして実施。
結果、新聞テレビでも取り上げられ、県内外から多くの方が訪れるようになり、東北の新たなウォーターレジャーの拠点となり始めている。

後方が胆沢ダム、直下がカヌースラロームコース

ベテランガイドの案内で初心者でも楽しめるのが人気

**胆沢ダム直下のカヌースラローム仮設コースでラフティング**

地元で「ラフティング」はまだ知られていなかったため「胆沢ダムフェス」を企画し、ダムカード持参で千円引きの特典を付けラフティング体験会を実施。100名以上が参加し、新聞テレビで話題となり県内でもラフティングは認知され、更に仮設だったカヌースラロームコースは常設となった。

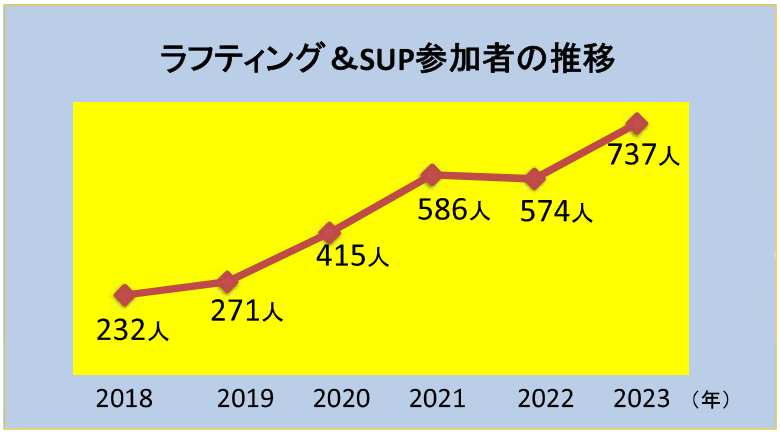
ロックフィルダムだから「岩ダム（ガンダム）カフェ」
胆沢ダムフェスで水沢農業高校生がダム管理支所内に「岩ダムカフェ」を開店。高校生考案のお菓子も大人気。

ダム湖周辺でカヌー体験会
子どもや家族で楽しめるカヌー体験会を行い"遊べるダム"を演出。

リバーガイド育成講習会、RACリーダー講習会、親子川の安全講習会を開催

安全で楽しい水辺の体験型観光実現のため、リバーレスキュー講習会を開催。地元産業として継続するために、川で活躍できる"川の達人"の育成を行った。ダム来訪者は過去最高を記録した。

11




2018年の参加者232人から始め、6年目の2023年は3倍を超える737人

12

しかし、課題も、、、。

・ラフティングは6月から9月上旬までと
　期間が短い

・ラフティングはハードで面白いが、
　穏やかなアクティビティを求める声も多い。

**そこで、**

13

## ダム流域連携・広域ウォーターランド構想

胆沢ダム(奥州市)と湯田ダム(西和賀町)を両極に、その中間に位置する入畑ダム(北上市)、千貫石ダム(金ヶ崎町)の流域を一つのウオーターパークと捉え、各ダムの優位点を繋ぐと共に、和賀川、胆沢川、北上川更にその水源地である奥羽の山々も含めた広域アクティビティーウオーターランドとして、カヌー、ラフティング、SUP,シャワークライミング、トレッキング等の体験プログラムとツアーを実施

ダムを繋ぎ、川を繋ぎ、
水源の山々を繋ぎ、そして人をつなぐ。



## ダム流域連携・広域ウォーターランド構想

### 隣の錦秋湖(湯田ダム)の魅力と合体

4月、5月の融雪期の水没林 と 秋の紅葉

## 北上川ÍËDツアー

## 地元で人材を育てる必要性

# 地元で人材を育てる必要性

## リバーガイドの育成講習会の実施

2018年(平成30年)6月25日(月曜日)

水しぶきを上げ、胆沢川を下る参加者たち

水上レジャーの安全と楽しさガイド

人材養成へ講習会

胆沢川の魅力 観光資源に

18

## 和賀川エリアでも「リバーガイドの育成講習会」開催

19

19

## 広域ウォーターランドの利点

- 体験型観光、アクティビティーの多様化
- 体験期間が長くなる
- 人材の地域連携、相互協力
- 情報発信が拡大＝体験希望者はネットで情報集しているので、地域ごとの情報よりウオーターランド全体としてアクティビティーを紹介した方が効果的と考えます。

20

胆沢川、和賀川、北上川を繋いだ

## 「広域ウォーターランド」

21

**流域活動発表③**

**「盛岡舟運による街の賑わい創出事業の検証及び今後の可能性」**

**岩手大学理工学部　教授　　南　正昭　氏**

こんにちは。南と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

岩手大学の地域課題解決プログラムからの助成を受けておりますことから、このような発表題目となっておりますが、中身としては、皆様もよくご存じかと思いますけれども、盛岡舟運の復活の取組について、学生たちと一緒に参加させていただき、そして学ばせてもらっているという活動の紹介となります。盛岡舟運に関して官民連携で進められており、市民の側からも熱心なまちづくりへの取組がございまして、このように舟を浮かべるところまでを実現しているという驚くべきプロジェクトでして、先達たちの大変なご努力の下に進められてきております。

専門柄、かわまちづくりに、都市計画の方からのアプローチとして、学ばせていただいております。

この盛岡、大慈寺地区、鉈屋地区とよばれるところで、今のまちの中心部から少し外れたことがよかったのかと思われますけれども、昔からの景観、町家などたくさん残っていて、歴史街並みづくりを進めている地区になります。また、この辺りは盛岡駅、開運橋、この辺りは藩政以来のまちの真ん中となる河南地区、八幡町、そして新しくなったバスセンター等々とつながります。

このまちのつくり、観光上の重要なポイントなどを含めて、こうした街なかをどう活気づけていくかというのは、以前からずっとある課題なわけですけれども、北上川に舟を浮かべる舟運プロジェクトも相まって、一つの周遊ルートができないか、まちを取り囲むような魅力づくりができないかと構想しているということになります。

ご承知のように、盛岡は 1597 年に築城が始まって以来、城下町起源のまちとして、ずっと昔からの歴史があるわけでして、盛岡城の周りにまちが育って、この辺りの内丸地区が昭和 32 年に全国で初めて一団地として官公庁の集合した形での開発が行われ、バスセンターは昭和 35 年に建てられ、最近リニューアルされたところです。そして今市役所の移転等が話題になっています。ずっと昔からまちができ、城が築かれて、そして戦後の東北開発が進められ、盛岡もまた発展してきた、そうした経緯がございまして、その大切なまちの歴史資産と一体になった、かわまちづくりが求められていったということではないでしょうか。

さらに最近、人口減少期に入りまして、まちをコンパクトな方向にもっていかなければということで、最新版の都市計画であります立地適正化計画というのを盛岡で立てています。その中に、防災指針として洪水災害を考慮した計画が立てられております。この辺りは北上川の浸水域があるわけですけれども、ここにある重要な歴史的な資産であったり、今住んでいる方々の生活をしっかり守った方法で今後もまちをつくっていこうということになっております。

都市という側面からみたまちと、川との連携が紡ぎだす新しいまちの姿をつくり出していく、これまでもつくり出してきたし、これからもつくり出していくということになるでしょう。

私ども学生たちと一緒に関わらせてもらってきています。この写真に学生たちの爽やかな笑顔がありますけれども、何が目的かというと、こういうものを生み出すことが、教員としては一つの大きな目的なわけでして、この尊い市民の間から起こしてきた取組から学ばせてもらいなさいと言ってきています。

たらいいということで、お話が進んでいます。

また、学生がこの調査を通していろんな人に話を聞きますと、とても大事な言葉が浮かび上がってきているようです。この地区には盛岡町家や先人の墓地などがありまして、歴史的要素があるのですけれども、それに加えてこのまち全体の景観を魅力と認識している傾向がある。要素は一つ一つ在るのですが、その組合せ全体像、まちそのものに高い景観価値を認めているということが聞き取れています。あるいは、住民との触れ合いそのものも地域資源として認識されているということ。こうした側面について、お感じのところもあろうかと思いますが、学生がこうやってヒアリングし、住民と触れ合うことで感じられる魅力を受け止めている人たちが多いと、そんなことも分かってきています。こうしたことが、この場づくりのとても大事な要素になっているということを解き明かしていけたらということです。

こうした取組をやってきているわけですが、こういう場に来させていただいて、本当に申し上げたいことをここに２点ほど、かわまちの大目的として書かせてもらっています。

一つは、地域の自然、川、まち、歴史という大きな土台の上に築かれる。だから、市民により共有され協働して参加する場になっているということです。場づくりなのですけれども、どこか特定な場所につくろうというよりは、大きな自然と歴史という土台の上につくっているもので、これは皆さんの共有財産ということになります。固有の地域社会づくりや人のつながりづくり、幸福づくりを目指しているというところがあるだろうと思われます。今日のこの場もそうなのだろうと思います。

また一つは、そこに継がれてきた地域社会の在り様や人の在り様というのがありまして、さまざまな事業者の方ですとか、地域に根づいた市民の参画によるまちづくりがあって、行政の役割がありまして、連携が生み出されていっているということを、言葉にして確認したいと思います。

このかわまちづくりの現状について考えてみますと、一般的な事業の計画と実施は、目的・目標を立てて、テーマ・コンセプトを掲げて、具体的な事業メニューを揃えて、予算を割り当て、誰がやるか実施主体を決めて、スケジュールを立てるという手順になりますが、今のこの取組というのは、目的、テーマ・コンセプト、何を大切にして進めていくかということを重視しており、実施主体は自分たち、それぞれが役割を果たすことを大事にしている、そんな側面があるように思います。ですから、長続きし、皆さんの関与が進められますし、それぞれに大事な取組として認識されている。むしろ、どちらかというと予算やいつまでにやろうといったスケジュールなど、そんなに頑なには考えていないようなところがあるようでして、現状そうした事業として進められているものとお見受けしております。

最後に、この取組のもっている、もっと大きな意味での可能性に触れたいと思います。人口増加の時代には、その人口増に応えるためのまちづくりが行われてきました。川づくりについてもそうした側面があったと言えるでしょう。人口減少の時代になって、こうした需要追随から離れ、将来が不透明な時代と言われながらも、なおのこと目標を高く掲げ、将来をデザインし、取り組んでいけるまちづくりが求められる。次の時代のまちをつくっていけるような、そうした可能性をもっているのではないかということです。分断が進むと取り沙汰される今の時代、場づくり、関わりをつくり出すのが非常に難しい時代ですが、その中にあって一つのお手本になって行くのではないかと思います。

そういう意味でのかわまちの今後の可能性に期待したいですし、学ばせてもらえたらと思っています。

ありがとうございました。

令和５年度　北上川「流域圏」推進交流会議

# 「盛岡舟運による街の賑わい創出事業の検証及び今後の可能性」

2024年2月3日

展勝地レストハウス

南　正昭・小室祐人（岩手大学）

---

盛岡舟運について

## 舟運

江戸時代～大正初期までの約300年間、
盛岡から石巻まで人やものを運ぶ手段として活用

舟運の文化を復活

→ **地域観光**や**地域活性化**の一助に！

**市民による**任意団体（**舟っこの会**）発足

【主な活動】
・もりおか港→新山河岸 の **木造舟の運航**
・下船周辺地域の**回遊の促進**

図　盛岡市内の北上川流域地図
（統計局国勢調査、国土地理院・数値地図に加筆）



---

盛岡舟運について

## 盛岡舟運と盛岡市の都市計画との関係

舟を通して、
自然・歴史・都市・もてなし
（＝盛岡ブランド）
を味わえる

・中心市街地内をつなげる
・中心市街地へ参画するきっかけづくり
・盛岡の歴史・文化を伝える

⇨ 中心市街地のにぎわいを創出

図　盛岡市内の北上川流域と周辺地域の地図
（統計局国勢調査、国土地理院・数値地図に加筆）



---

## 盛岡舟運事業への学生参加

表　盛岡舟運への参加

| 開催日 | 筆者参加 | 学生参加人数 | 活動内容 |
|---|---|---|---|
| 2022年5月14日(土) | ○ | 9人 | 川開き・舟運無料運航（運航①） |
| 2022年5月28日(土) | ○ | 5人 | 運航実習（運航②） |
| 2022年6月11日(土) | ○ | 4人 | 運航実習（運航③） |
| 2022年6月18日(土) | ○ | 8人 | 第５回北上川フェスタIN MORIOKA（運航④） |
| 2022年6月25日(土) | × | 0人 | 運航実習（運航⑤） |
| 2022年7月23日(土) | ／ | ／ | （運航中止（運航⑥）） |
| 2022年8月16日(火) | ／ | ／ | （運航中止（運航⑦）） |
| 2022年8月27日(土) | ／ | ／ | （運航中止（運航⑧）） |
| 2022年9月10日(土) | × | 0人 | 運航実習（運航⑨） |
| 2022年9月24日(土) | ／ | ／ | （運航中止（運航⑩）） |
| 2022年10月8日(土) | ○ | 8人 | バスセンター開業記念運航実習（運航⑪）<br>安全運航委員へのヒアリング実施 |
| 2023年2月18日(土) | ○ | 1人 | 「盛岡地区かわまちづくり（舟運）」講演会 |
| 2023年5月6日(土) | ○ | 1人 | 盛岡中央消防署との合同消防訓練 |
| 2023年5月13日(土) | ○ | 10人 | 川開き・運航実習（運航①） |
| 2023年5月27日(土) | ○ | 4人 | 運航実習（運航②） |
| 2023年6月10日(土) | ○ | 4人 | 運航実習（運航③） |
| 2023年6月17日(土) | ○ | 11人 | 運航実習（運航④） |
| 2023年6月24日(土) | ○ | 1人 | 運航実習（運航⑤） |
| 2023年8月5日(土) | ○ | 2人 | 紀屋町まちあるき実習 |
| 2023年8月26日(土) | ／ | ／ | （運航中止（運航⑥）） |
| 2023年9月9日(土) | ／ | ／ | （運航中止（運航⑦）） |
| 2023年9月23日(土) | ○ | 4人 | 運航実習（運航⑧） |
| 2023年10月7日(土) | ○ | 4人 | 運航反省会 |

合計 **15** 回、学生 **23** 名参加

## 活動への参加の様子

図　乗船前の安全についての説明の手伝い
（2023/6/17）

図　ライフジャケットなどの資材運搬手伝い
（2023/5/13）

図　舟っこの会の皆さんとの交流
（2023/5/27）

図　舟っこの会の皆さんとの交流
（2023/10/7）

## 活動への参加の様子

図　市民の方とのまちあるき
（2023/5/27）

図　市民の方への研究成果の共有
（2023/5/13）

## 研究活動の様子

「舟っこの会の活動への研究成果へのディスカッション」
・日時：2023年11月18日(土)14:00～16:00)
2022年度からの研究内容の途中経過の共有・ディスカッション

図　2023年度研究成果中間報告
（2023/11/18）

図　市民の方へのヒアリング調査
（2023/11/18）

図　ディスカッションで
出た意見の整理
（一部抜粋）

調査
イベント来場者へ
ヒアリング・
アンケート

## イベント来場者への
## ヒアリング・アンケート調査

**【ヒアリング調査】**

日時：2022年6月18日（土）
「第5回 北上川フェスタ IN MORIOKA」

場所：もりおか港・三喜亭（鉈屋町内）

目的：・**イベントへの認知度・満足度**の把握
・**鉈屋町（下船先地域）の認知度**の把握
・鉈屋町周辺の立寄地点の把握
など

対象者：会場来場者

実施方法：構造化インタビュー

表　イベント来場者ヒアリング結果 回収数

| 回収場所 | 回収数 |
|---|---|
| もりおか港（もりおか丸乗船客） | 24 |
| 三喜亭（鉈屋町内） | 16 |
| 計 | 40 |

**【アンケート調査】**

日時：2022年10月8日（土）
「舟運最終回」

場所：もりおか港・新山河岸

目的：・**舟運への認知度**の把握
・**周辺地域の認知度**の把握
・**舟運への期待度**の把握
など

対象者：乗船前の乗船客

実施方法：アンケート用紙に被験者自身で回答

表　イベント来場者アンケート結果 回収数

| 回収場所 | 回収数 |
|---|---|
| もりおか港（もりおか丸乗船客） | 35 |
| 新山河岸（開明丸乗船客） | 18 |
| 計 | 53 |

8

調査
運営メンバーへ
ヒアリング

5章

## 運営メンバーへのブレインストーミング

・日時　：2022年10月8日(土)「舟運最終回」イベント後
・回答者：運営メンバー8名
・内容　：「舟っこイベントへの思いと今後に期待すること」について
・有効回答数：129

図　ブレインストーミング実施風景

図　ブレインストーミング結果（解析前）

9

# アンケート調査

- 日時：2023年9月23日(土)
- 回答者：舟運利用者
- 内容：
「鉈屋町(大慈寺地区)の歴史的町並みを利用者に散策してもらうための策」
- 選択肢：
「ガイド」、「案内看板」、「まち歩きルートの作成」、「その他」（その他は記述式）
- 回答方法：複数回答制
- 有効回答数：25

舟運利用後、鉈屋町（大慈寺地区）の歴史的町並みを利用者に散
策します。そのための策として良いと思うものは以下のうちどれです
□ガイド
→町の人やボランティアが鉈屋町（大慈寺地区）の見どころを1時間程度で案内します。
□案内看板
→鉈屋町（大慈寺地区）の見どころを看板で紹介します。
（参考①）八戸のうわさ
□その他（下記にお書きください。）



## 研究成果の発表

第68回土木計画学研究発表会(秋大会)
会場：東京都立大学

「盛岡地区かわまちづくりにおける市民参画の実践事例」
小室祐人、南正昭

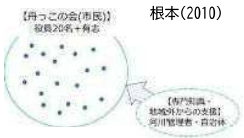
図　会場での発表の様子

盛岡地区かわまちづくりにおける
市民参画の実践事例

図　講演論文集

## 河川管理者・自治体と舟っこの会（市民）の連携ができている要因

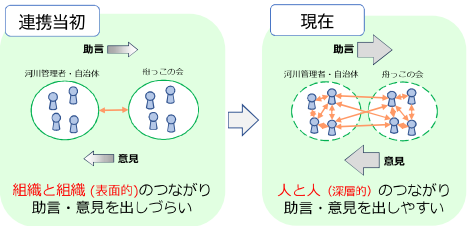
②③⑩
公民連携が行われている




根本(2010)

市民主体での活動体制

②③⑪
関係機関同士の
強いつながり




舟っこの会が重要なカギに！？

# 乗船者へのアンケート調査から

**研究方法・結果**

・実施日時：2023年9月23日（土）
・回 答 者：舟運への乗船客（25名）
・内　　容：乗船者が大慈寺地区を回遊してもらうための方策の３案（表１）について複数回答

表１　乗船者向けのアンケートの選択肢と回答結果

| 選択肢<br>市民団体への事前ヒアリング，現地確認，他地区での例を参考に設定 | **ガイド**<br>市民やボランティアが地域の魅力を案内 | **案内看板**<br>地区内に看板を設置し，見どころを案内 | **まち歩きルート作成**<br>水や歴史などのテーマを決めたルートを複数提案 |
|---|---|---|---|
| 回答結果 | 17人 | 14人 | 21人 |

**考　察**

・「まち歩きルートの作成」の割合が最も高い
→ルートが選定された方がまち歩きしやすい？

・自由記述欄での意見に，「歴史，水や酒，食べ歩きなどテーマ別ルートがあると面白い」
→魅力あふれる地域だからこそ，多様な楽しみ方があると何度も来たくなる

# ヒアリング調査から

**研究方法・結果**

以下の要領でヒアリング調査を実施した．

・実施日時：2023年11月18日（土）
・回 答 者：舟運を運営する市民団体メンバー 13名
・テ ー マ：大慈寺地区の魅力
・回答方法：付箋を用いたブレインストーミング
・回 答 数：116

得られた結果をKJ法AB型で整理し，メンバーが考える大慈寺地区の魅力を明らかにした．

**考　察**

出た意見を以下の５つのフレームに整理し，特に２つの観点から考察した．

「まちの景観構成要素」（最多の意見）
「街の雰囲気」「町民性」「飲食」「きれいな水と酒」

**【出てきた意見の例①】**
「盛岡町家や偉人の墓場がある寺院などの歴史的要素や，河川や山，草木などの自然要素に魅力がある」

多様な要素との調和が整っている市民団体では，街の景観要素のみならず，まち全体の景観を魅力と認識されている傾向があると考えられる．

**【出てきた意見の例②】**
「住民の親切心や街への愛着心など，住民自体に魅力がある」

来街により住民と触れ合うことで感じられる魅力で，市民団体のメンバーは名所だけでなく住民とのふれあいも地域資源と認識していると思われる．



# かわまち（研究）の大目的

地域の自然、歴史という大きな土台の上に築かれる、
故に、市民が共有する、参画する場になり得る。
固有の地域社会づくり、人のつながりづくり、幸福づくり。

そこに繋がれてきた地域社会の在り様、人の在り様。
民間事業者の活動、地域に根付いた市民参画のまちづくり、
行政の役割、生み出される連携。

# かわまち（研究）の現状

盛岡かわまち

**テーマ（目標・方針）**
**デザイン・コンセプト設定**
具体的な事業メニュー
予算
**実施主体**
スケジュール

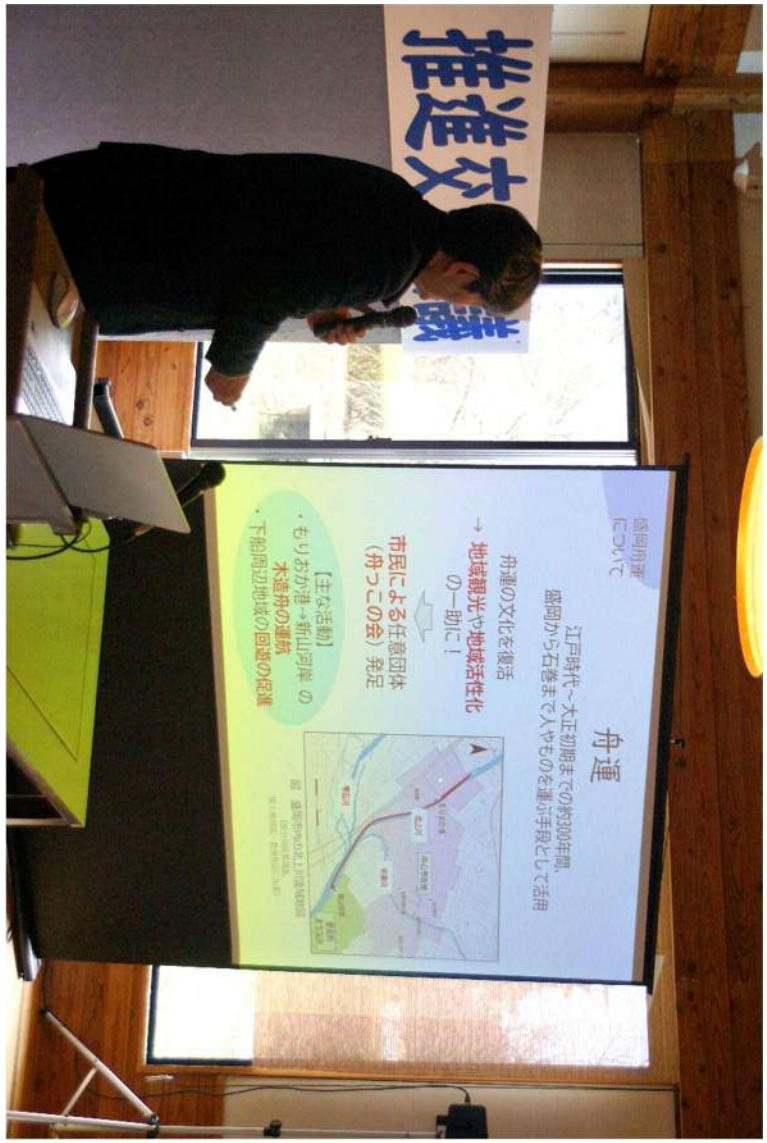
# かわまち（研究）の可能性

人口減少・少子高齢化　⇒　需要追随からの解放

将来不透明　⇒　将来をデザインする

分断、餓鬼　⇒　主体と連携の哲学

ご清聴ありがとうございました.



**流域活動発表④**

**「近年のカワウ飛来状況」**

**西和賀淡水漁業協同組合　代表理事組合長**

**佐井　守 氏**

私皆さん、こんにちは。西和賀淡水漁業の佐井と申します。

近年のカワウ状況について、事務局から情報があればということで、今日は簡単な資料ですが持ってきました。

ちょっと僕今日、ドレスコードが変なのですが、本日は節分ということで、お寺から豆まきとか、あとは護摩焚きの手伝いを頼まれていて、この後すぐ２件また回らなければいけないので、発表しましたら帰らせていただきますので、よろしくお願いいたします。

近年のカワウの飛来状況ということで、いろいろニュースとか、漁協の被害とか、いろんな話が出ておりますが、実は僕鳥に関してはあまり知識がないことから、今日持ってきた資料は、岩手県のカワウ等被害防止対策協議会でまとめた資料をお借りしてきました。

カワウのほうは完全に魚食製の鳥ということで、１日当たり 500 グラムの餌を捕食するようです。ウミウとカワウはほとんど見分けがつかないのですが、大体全国的には昭和 50 年代から、関東とか関西で生息数も増えて、分布も拡大しているということです。岩手県は大体平成 20 年頃から騒ぎ始めまして、沿岸から、まずは内部の北上川流域まで、非常にこの 13、4 年間で何倍も増えています。

こちらのグラフ、ちょっと字が小さいのですが、お手元の資料を見ていただきたいのですが、これはカワウの飛来調査を各内水面漁協 26 あるのですが、そちらに県から依頼して組合員が調査しています。そのほか、これは岩手大学のカワウリサーチという研究のチームがありまして、それをまとめたものです。平成 21 年から始まっているのですが、１年間に春と秋に調査しています。平成 25 年にかなり匹数が多かったのですが、最近は平均すると毎年春も秋も大体 1,500 羽ほどが確認されています。実は、被害は放流したアユやヤマメとか、あとは汽水域に春にサケの稚魚が下っていくのですが、そちらを食害しているという報告を受けています。

今日は北上川流域圏ということで、北上川のカワウの状況ですが、これもちょっと見づらいですが、対象地は水沢の藤橋の上流にあり、こちらが北上川流域で最大のコロニーとなっています。盛岡のほうに行きますと、何年か前は御所ダムで結構多かったのですが、今は四十四田ダムにコロニーがありまして、そこで拡大しているという形です。沿岸も、カワウとウミウが統合しまして、宮古にコロニーがあるのですが、こちらも拡大しているということです。もともと八戸から馬淵川水系のほうも非常にカワウの被害が多くて、全国的に同じような形で広がっているという形です。

こちらは、2019 年にこの流域圏のみんなで川下りをしたときに確認し合ったのですが、これは藤橋上流にカワウの糞害です。夏ですけれども、白く雪みたいになっている、これ全部糞です。カワウはねぐらとして止まったまま寝るものですから、うんちが出てきて、柳とか、そういうものが立ち枯れする被害が多くなっています。今日、動画も持ってきたのですが、パソコンが合わなくて、ちょっと見せられませんけれども、後で機会があれば発表したいと思います。

その次に、これは令和４年度、去年のデータですが、先ほどの図面や地図を見ながら照らし合わせて

いただければいいのですが、コロニーは５か所確認されています。ねぐらが２か所、計７か所がカワウの発生ポイントになっています。ただ、全部調べ切れていないそうで、未確認のねぐらはたくさんあるだろうと言われています。北上川の中で一番大きいのが、上流では四十四田ダムのコロニー、150 の巣がありまして、水沢には 230 の巣が存在するということです。

気になるところですが、このカワウの被害、食害といっても何を食べているかということで、こちらも内水面の漁協の連合会がございまして、こちらで調べています。これは平成 27 年から調べたのですが、実際カワウを捕獲して、その胃の内容物を分析したものです。そうすると、大体ウグイとアユがトップに立っていて、ご存じだと思うのですが、ウが一番食べる魚がウグイということで、ウグイの名前の由来はウが食べるからウグイという名前がついているそうです。たくさんいるところはアユを食べますし、大体北上川とか県内のカワウの食料というのがウグイになっているようです。

そして、カワウの捕獲数ですが、これは県から各漁協に猟銃やいろんな罠を仕掛けて捕っているのですが、平均すると年間大体 150 羽から 300 羽ぐらいを駆除しています。

あと、カワウの対策ですが、県北では馬淵川を中心に、県北広域振興局の北部と各自治体が協力し合ってまとめておりまして、あと沿岸の自治体と漁協が連携してやっています。ただ、残念なことに内陸の一番コロニーが多く、発生がひどい北上川流域では、カワウ対策の協議会がございません。広域な連携をしなければならないのですが、まさにこの流域圏のつながりを持って、宮城からもカワウに対して情報交換の場所をつくらなければならないなということを今県で模索しているようです。

短いですが、このような現状です。ありがとうございます。

# 近年のカワウ飛来状況

西和賀淡水漁業協同組合
代表理事組合長　佐井　守

（資料提供：岩手県カワウ等被害防止対策協議会ほか）

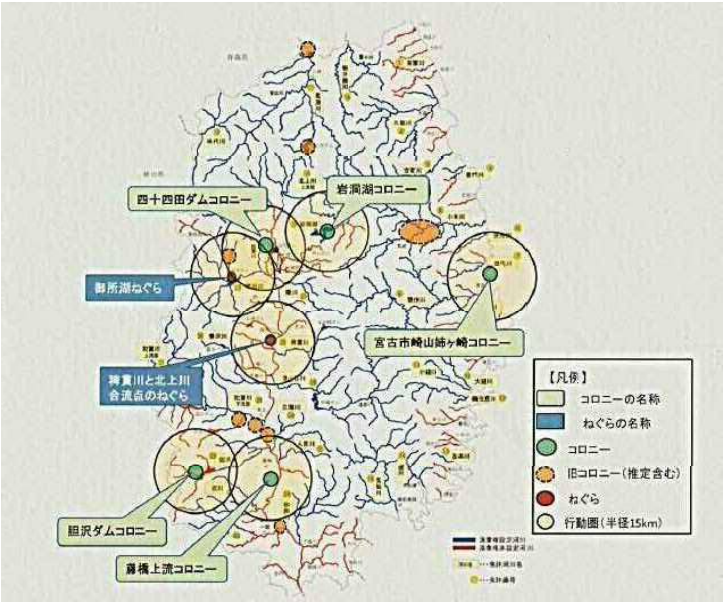
・カワウは魚食性の鳥類で、1日あたり500gの餌を捕食します。
・昭和50年代後半から国内の生息数が増加し分布も拡大している。
・全国各地で水産資源の食害が発生、岩手県内でも深刻な食害。

岩手県内河川におけるカワウ飛来調査結果

| 年度 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | 平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 春 | 1323 | 2209 | 1622 | 815 | 2431 | 1392 | 1421 | 1649 | 1275 | 906 | 1867 | 1103 | 1281 | 2146 | 1547 |
| 秋 | － | 1529 | 1055 | 1000 | 2152 | 1970 | 1816 | 1319 | 1568 | 1303 | 1628 | 1522 | 1729 | 1441 | 1541 |

岩手県では平成20年頃からカワウが多く確認されるようになった。
アユやヤマメ、サケ稚魚への影響が危惧されている。

岩手県におけるカワウ飛来地点、ねぐら等の分布状況（R4）



・令和4年度末の県内には、コロニー5箇所、ねぐら2箇所の計7箇所が確認されていますが、未確認のねぐら等が存在する。

・北上川のコロニーの規模が大きい
藤橋上流コロニー（230巣）
四十四田ダムコロニー（150巣）

カワウ捕獲数

| 年度 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 捕獲数 | 25 | 203 | 366 | 308 | 196 | 331 | 189 | 262 | 260 | 288 | 307 | 292 | 158 | 140 |

胃内容物調査結果

| 年度 | 検体数 | 主な胃内容物と個体数（重量組成%） |
|---|---|---|
| H27 | 28 | ウグイ27（73．4）、アユ4（4．2）、ナマズ類4（2．3）、その他11（4．2）、不明46（15．9） |
| H28 | 17 | ウグイ12（67．4）、アユ5（23．3）、その他1（4．2）、不明11（5．1） |
| H29 | 12 | ウグイ21（90．2）、アユ5（9．8）、ナマズ類4（2．3）、不明3（0） |
| H30 | 40 | ウグイ39（40．0）、アユ12（17．1）、ナマズ類1（0．9）、その他20（39．5）、不明4（2．5） |
| R1 | 27 | ウグイ4（8．8）、アユ8（24．4）、その他21（56．6）、不明7（10．3） |
| R2 | 39 | ウグイ10（41．1）、アユ5（28．5）、ナマズ類2（3．0）、その他8（15．1）、不明8（12．3） |
| R3 | 32 | ウグイ13（74．5）、アユ4（10．2）、ナマズ類4（2．3）、その他3（9．9）、不明8（3．1） |

**流域活動発表⑤**

**「木賊川遊水地予定地における環境保全」**

**岩手県立大学　研究・地域連携本部**

**地域連携ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　　渋谷　晃太郎　氏**

ご紹介いただきました岩手県立大学の渋谷と申します。よろしくお願いいたします。

今日は、木賊川という北上川の小さな支流に遊水地を県がつくる計画がありまして、そこでの環境保全活動内容についてお話しいたします。

木賊川は、岩手山麓を水源に、盛岡市厨川で北上川と合流しています。合流点は落差があるので、魚が上れません。また、木賊川は滝沢市内で巣子川と合流しています。この合流点の下流の盛岡市内で過去に甚大な水害があったので、岩手県によって遊水地や分水路が造られることになりました。分水路は既に完成していて諸葛川とつながっています。諸葛川は北上川とつながっていて、分水路には数年前まではサケが上ってきていました。サクラマスも上ってきているということです。

この遊水地予定地には、ハンノキ林とか、水田跡地などがあり、たくさんの生き物がすんでいます。ここにはオオタカが生息していることが分かっていたので、計画段階で調査が行われ、動植物の生育環境の保全、喪失に配慮すること、また地域住民が今後自然観察や学習ができるように環境整備を行うことになっています。

この写真が普段の木賊川の流れです。増水すると物凄い量の流木やごみなどが引っかかります。これを大学の先生などが除去しています。

水田の跡地ですが、かつて水田耕作がされたところを県が買収しましたが、放置されているので遷移が進み、ヨシやヤナギがかなり生えています。ハンノキ林は、盛岡周辺では大変少なくなって、非常に貴重な森になっています。春にはミズバショウやザゼンソウ、サクラソウなどが咲きます。

この木賊川遊水地では、生物多様性の４つの危機といわれるものがすべてそろっています。第１の危機は直接工事で壊されてしまうということ。第２の危機は、水田耕作が止まって水田にいた生き物がいなくなってしまうこと。第３の危機は、オオハンゴンソウやアレチウリなどの外来種が入ってきたこと。第４の危機は地球温暖化の影響によって、木賊川の水温がゆっくり上昇し、これ以上上がるとヤマメが生息できなくなるのではないかと言われています。

資料にはないのですけれども、ここにはオオタカをはじめ、ゴマシジミ、カワシンジュガイ、ホトケドジョウ、サクラソウ、ルリソウなど多くの希少種がいます。盛岡市街地に近いところにもかかわらず自然が豊かで多くの希少種がいる大変貴重な場所になっています。

工事による直接的な影響としては、ゴマシジミやホトケドジョウ、カワシンジュガイなどの生息環境の破壊が懸念されています。また、サクラソウ、ルリソウなどは堤体が建設されるところに生育しているので将来生育地が破壊されます。間接的な影響としては、県有地となって水田耕作が行われないことで、急速に森林化が進んでいること、また、外来種に侵入ということが複合的に起こっています。

ここ木賊川遊水地予定地では、市民の安心安全を守るための遊水地などの治水と生物多様性の保全という両立が求められているというところです。

生物多様性の保全のために何をしているかというと、小さな試みなのですけれども、ビオトープという生き物の生息環境を工事の影響がない場所につくって、希少種などを避難させています。堤体で壊される場所にいるサクラソウなどの希少種を移植する

場所にして、管理をしています。田んぼも作ってもともと水田にいたミクリとか水生昆虫など水田由来の生き物の避難場所としています。それから、木道などを整備して子供たちが安全に学べる場づくりをやっています。

環境調査も行っています。魚類調査や昆虫類の調査をしています。魚類調査では、ホトケドジョウを発見しました。ゴマシジミについては、個体数調査や食草のナガボノワレモコウを移植し、草原状態になるよう市民の皆さんの協力を得て刈払いなどの維持管理を行っています。もう一つ、外来種オオハンゴンソウやアレチウリなどの駆除を行っています。オオハンゴンソウは場所によっては人の背丈ぐらいに成長し、広がっています。数年前は駆除実験などを行いましたが、すぐに元に戻ってしまいました。かなりあきらめかけてはいますが、重要な場所だけは徹底的に駆除しています。アレチウリはまだ少ないので、見つけ次第駆除しています。オオブタクサもできるだけ駆除しています。

最後に重要な普及啓発のための観察会を市民が中心となって行っています。３月下旬から 12 月まで、月２回ぐらい、継続的に実施しています。生き物の観察をしながら、上流からのごみを集めたり、ビオトープの草刈や水路の泥上げなどの作業を行っています。

この環境保全対策の特徴ですが、まず多様な人材が参加しているということです。「たきざわ環境パートナー会議」という市民と企業からできている組織があります。このメンバーを中心に、一般市民、大学生、高校生、小学生、企業の皆さんも参加されています。令和２年のデータですが、18 回やって、260 人ぐらい、延べで参加されています。行政のサポートも手厚くて、岩手県の土地だということで、県有地の立入りを認めていただいたり、滝沢市からは道具とか草刈り機の燃料代をいただいています。それから、ここの最も特徴的なことかもしれませんが、岩手県立大学の私たちだけではなくて、県立博物館、農研機構、いわて虫の会、植物の会、専業農家の人たちがそれぞれの知識や技術を提供してくれています。これによって、いわゆる順応的管理と言われる実践が行われています。多くの人たちの情報共有の場として年に１回報告会を実施しています。

課題もたくさんあります。ご多分に漏れず参加者が高齢化をしているので、だんだんやり方を変えてきています。今は、自分のできることを自分の能力に合わせて、自分のペースで楽しく作業できるような、いろんなプログラム、仕事をつくって、提示して、好きなことをやってもらっています。無理をせず長続きさせるということです。仕事の終わりには参加者一人一人が少しお話をして、体験を共有してつなげるというようなこともやっています。なお、最近は、企業の方に参加していただき、物凄いパワーをもらっています。

最後に、この流域圏交流会議に期待することです。今生物多様性という言葉がよく使われるようになっています。2030 年までに生物多様性の減少を食いとめる（ネイチャーポジティブ）という目標があり、そのために陸と海で 30％の地域を生物多様性のための地域にしましょうという「30 by 30」という取組があります。このための新たな保護の場所として「自然共生サイト」を登録することになりました。工場緑地とか、都市公園なども対象になります。河川関係では河川公園や砂防公園などです。北上川流域の中でも候補地となる場所がたくさんあると思います。生物多様性保全のための場所を少しでも増やすことが必要です。今、岩手県では１箇所、八幡平市の積水メディカルという会社の緑地１箇所しかないのですけれども、2030 年までにかなり増やさなければいけないので、自然豊かな岩手で、たくさん自然共生サイトを増やすことにご協力をお願いします。

# 木賊川遊水地予定地における環境保全

市民、企業、行政、研究者の連携の事例紹介

北上川流域圏推進交流会議
２０２４年２月３日
岩手県立大学名誉教授
渋谷　晃太郎

1

## 木賊川遊水地計画について

木賊川は岩手山麓を水源に盛岡市厨川で北上川に合流します。合流点は落差があり魚の行き来はありません。

滝沢市内で巣子川と合流します。

この合流点の下流に広がる都市部で過去に水害が発生したことから、遊水地や分水路が作られることとなりました。

分水路はすでに完成し諸葛川とつながっています。

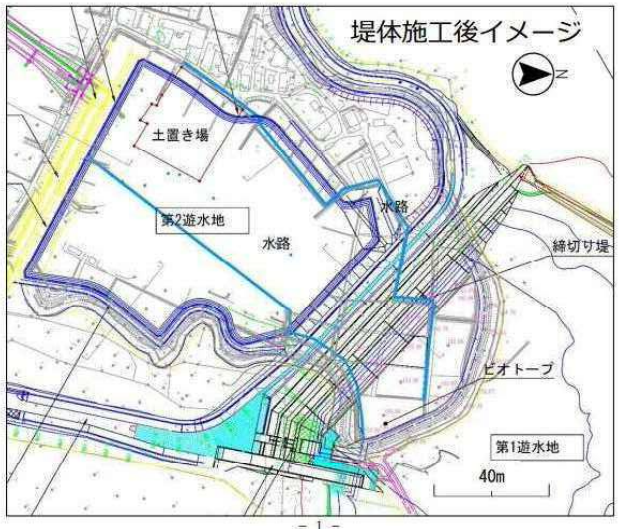
諸葛川は北上川とつながっているため、分水路にはサケが昇ってきていました。サクラマスなども昇っています。

遊水地計画地は、ハンノキ林と水田跡地です。ここには、たくさんの生き物がすむ生物多様性の宝庫となっています。

2

## 木賊川遊水地計画

3




4

# 河川整備計画一級河川北上川水系盛岡西圏域
平成17年　岩手県

第４節 整備計画の目標

第１項 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

本圏域は過去に多くの水害に見舞われており、葛根田川、雫石川、諸葛川においては、河道拡幅や築堤及び護岸の整備等の河川改修事業を主とした治水対策を実施してきた。

一方、木賊川では、これまでにも洪水の被害が度々発生している。特に、平成 14 年７月の台風６号では、河川の増水による堤防決壊等により、床上浸水 14 戸、床下浸水 99 戸、避難勧告 1,253 世帯 3,484 人という甚大な被害が発生していることから、早急な治水安全度の向上が望まれる。

木賊川の整備については、流域及び洪水氾濫区域内の資産や人口、流域面積等を総合的に勘案し、概ね 50 年に１回の確率の降雨による洪水を安全に流下させることを目標とする。

また、整備目標を上回る洪水や、内水による被害の最小化を図るため、洪水ハザードマップの作成・公表の支援や、降雨、水位等の情報提供を行う。

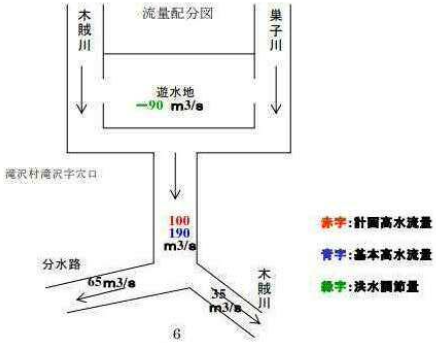


# 第２章 河川の整備の実施に関する事項

(1)木賊川（遊水地建設）

目標を達成するために、木賊川と巣子川の合流部付近において、下流に対する洪水調節を目的とした遊水地を建設する。これにより、遊水地直下における基本高水190m3/ｓを、100m3/ｓに低減する。

工事の実施にあたっては、動植物の生息・生育環境の保全・創出に配慮するとともに、地域住民が自然観察や自然学習ができるような環境整備を行う。また、地域住民に充分な説明を行うとともに、地域の意見を反映するなど、地域と協働で川づくりを進めていく。



# 木賊川

## 年に数回　洪水が発生

9

## 木賊川遊水地予定地の様子　水田跡地

10

## ハンノキ林

11

12

## 木賊川遊水地予定地における生物多様性保全上の４つの危機

第１の危機　工事により直接生息生育地が失われる
第２の危機　適切な維持管理が行われないことにより、生物の
　　の生息地が失われる（水田の生き物）
第３の危機　外来種により生育地が失われる（オオハンゴンソウやアレチウリなどの繁茂）
第４の危機　地球温暖化の影響
　　河川水温が少しずつ上昇しつつありヤマメの生息に影響が出る可能性
木賊川遊水地ではこの４つの危機が全部そろっている

13

## 木賊川遊水地予定地で確認された主な希少種

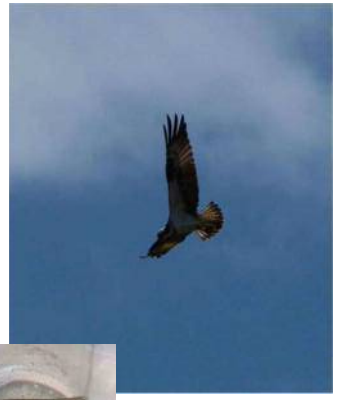
鳥類　　オオタカ、ハチクマ・・・
魚類　　ホトケドジョウ、タナゴ・・
昆虫類　ゴマシジミ・・
貝類　　カワシンジュガイ
植物　　サクラソウ、ルリソウ、ナガボノワレモコウ・・・

14

## 木賊川遊水地予定地でみられる動植物

15

16



17

## 木賊川遊水地工事による直接的な影響

ゴマシジミ、ホトケドジョウ
　工事により直接生息地が破壊される
カワシンジュガイ
　工事による河川の付け替えにより直接生息地が失われる
サクラソウ、ルリソウなど　工事により直接生育地が破壊される

18

## 木賊川遊水地工事による間接的な影響

県有地となり水田耕作が行われなくなったために
→水田に依存していた生物が減少
→急速な森林化の進行（ヤナギなど）
→外来種の侵入　オオハンゴンソウ、アレチウリ、オオブタクサなど

市民の安全安心を守る治水と
生物多様性の保全の両立が求められる

19

## 保全対策１　ビオトープの整備

かろうじて残される場所にビオトープを整備
ビオトープの役割
1　かつてあった水田など人の管理によって維持されてきた植物等の保全（ミクリ、水生昆虫類など）　水田や湿地を人工的に作ることで復元
2　工事によって破壊される場所にある希少種の避難場所づくり
サクラソウ、ルリソウなどの移植や生息環境の整備
3　子供たちが自然を学べる場づくり
木道など安全に観察できる設備の設置

20

## ビオトープの整備

21

## 木道の整備

22



## 保全対策２　希少種の保全

希少種の保全

- オオタカなどの鳥類　一時的に巣の場所を移動させる
- ゴマシジミ（蝶）の発見　県の条例指定種であるゴマシジミが発見されたことから、生息地の保全（個体数調査、湿性草地の維持、食草ナガボノワレモコウの移植など）
- サクラソウ、ルリソウ、フクジュソウ、カキツバタなどの移植
- ホトケドジョウの発見　田んぼ、水路の維持

23

## サクラソウの移植作業

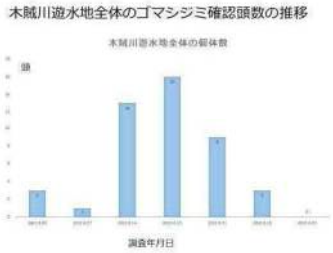
農研機構の専門家の指導により、サクラソウの生態を学びつつ移植作業を実施
その後も生育状況をモニタリング

24

## 水生昆虫、魚類調査

25

## ゴマシジミの保全　個体数の調査



８月１か月間だけ発生
遊水地予定地全体でも１５頭前後
しか確認できない

26

## 生息環境の整備　湿性草地の管理と食草（ナガボノワレモコウ）の移植作業

27

28

## 保全対策３　外来種の駆除

人の管理が入らなくなることで外来種が繁茂
オオハンゴンソウやアレチウリが侵入

オオハンゴンソウについては、できる範囲で徹底駆除
アレチウリは見つけ次第駆除を実施
オオブタクサなども駆除対象に

29

## オオハンゴンソウの駆除実験と駆除作業

30

## アレチウリ　オオブタクサなども

アレチウリは上流から種子が流れ出し、洪水時に拡散している。

31

## 木賊川観察会の実施

3月下旬から12月初旬まで月2回程度実施
生き物の観察後、清掃や保全の作業を行います。

32

# 木賊川遊水地における保全対策の特徴１
# 多様な人材の参加

１　**市民、企業の参加**

たきざわ環境パートナー会議メンバを中心に一般市民のほか、大学生、高校生、企業の皆さんが参加

令和2年は、観察調査、環境整備及びオオハンゴンソウ等駆除活動を１８回実施し、延べ２６０人が参加。

２　**行政のサポート**　岩手県、滝沢市による支援（県有地への立入や道路使用許可、道具類、燃料代など）

３　**研究者等の参加**

岩手県立大学をはじめ、岩手県立博物館、農研機構、いわて虫の会、岩手植物の会、専業農家などその道のプロがそれぞれの専門的な知識を生かし、市民活動をサポート（作業計画づくりやその効果測定などのフォロー、作業の仕方などの指導等を行っている）

これらによって順応的管理が実践されている

33

# たきざわ環境パートナー会議について

滝沢市環境基本条例

(環境パートナー会議)

第33条　滝沢市の良好な環境の保全と創造のために、住民等及び市が協働して取り組む組織として、環境パートナー会議を設置する。

2　環境パートナー会議は、公募による者及び市長が必要と認めた者で構成する。

3　市長は、環境パートナー会議に対し、情報の提供その他必要な支援を行わなければならない。　以下略

具体的な活動

（１）具体的な環境保全活動の企画、実践および支援をします。
（２）環境保全活動の普及のための情報交流および広報をします。
（３）環境基本計画の進行状況の点検、評価をします。
（４）その他、環境基本計画を推進します。

34

41

# 木賊川遊水地における保全対策の特徴２
# 楽しく、好きなことをやる

参加者の高齢化などによって、観察会や作業の仕方を変えてきた。

現在は、自分のできることを選び、自分のペースで楽しく作業をすることができるように、様々な仕事をつくっている。

（ビオトープの管理だけでも様々な仕事がある。草刈り、水路の管理、生き物調査、外来種の駆除、田んぼの水管理・・・・）

最後に行ったことを少し話してもらい、体験を共有。次につなげる

若い人たちの参加もようやく増え始めた

企業の方の参加は大変なパワー

35

# 木賊川活動報告会

毎年3月に年度内の活動についての報告会を実施

反省と次年度の計画について話し合い、情報を共有

36

## 北上川流域圏推進交流会議に期待すること
## 生物多様性保全への対応

世界の潮流　気候変動対策と生物多様性
生物多様性国家戦略
２０３０年目標　ネーチャーポジティブ　自然復興
生物多様性の減少をくいとめる
そのために
陸と海で３０%の生物多様性を守る地域をつくる
その一つが自然共生サイト　工場緑地や都市公園、河川公園、砂防公園なども候補になりうる
３０by３０　流域にも候補地がたくさんあるはず
登録に向けた検討を期待

37

## 自然共生サイト候補地

登録済み　積水メディカル岩手工場（八幡平市）
登録候補地の例
木賊川遊水地予定地の一部
県民の森、滝沢、千貫石森林公園（滝沢市）
小鹿公園、高松公園、外山森林公園、盛岡市動物公園、都南つどいの森（盛岡市）
御所湖広域公園の一部
久保川イーハトーブなど　　多数あるはず

38

**流域活動発表⑥**

**「北上川を活かした流域自治体の連携をめざして」**

**一関市建設部　部長　　渡辺　敏彦　氏**

ただいまご紹介いただきました一関市の渡辺と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私からは、「北上川を活かした流域自治体の連携をめざして」というタイトルで、昨年 11 月に開催しました「未来の北上川流域を考える自治体連携会議」の報告になります。

ご承知の方もいらっしゃると思いますが、簡単に一関市の概要をちょっとだけお話しさせていただきます。一関市は、岩手県の南端に位置し、南は宮城県、西は秋田県に接しています。図１を見ながらお聞きいただければと思います。首都圏から２時間半、距離にすると約 450 ㎞になります。東北地方のほぼ中央で、盛岡と仙台の中間地点に位置しており、面積的には 1,256 ㎢で、全国の市町村では 12 番目の広さ、岩手県内では２番目の広さです。ちなみに１番目は宮古市です。

３つ目の四角ですが、一関地区には地理的な特性もありまして、古くから水害に悩まされていました。特に昭和22年と23年に来襲しましたカスリン台風、アイオン台風による大洪水によりまして、約 600 名の死者・行方不明者を出す未曾有の大災害に見舞われたところであります。

洪水被害を受けやすい地理的な特徴で、こちらは図２を見ていただければと思います。ちょっと小さくて見づらくて申し訳ないですが、一関市の下流に非常に川幅が狭い区間、狭隘部と言っていますが、宮城県境にかけて 26 ㎞にも及んでいます。最も狭いところで川幅が 100m程度です。加えて、河川の勾配を見ますと、一関市は勾配の急変点にもなっていまして、洪水が起こりやすい要因となっています。このスクリーンでいくと、ここが一関になり、川幅が狭い地区になりますし、上は勾配ですが、一番高いところが盛岡市だと思っていただければと思います。盛岡市から流れ出てきて、一関市がここにあたります。大体 100mぐらいの高低差、盛岡と一関の間ではあり、一関から石巻市までいくと勾配的には７、８ｍしかないということもあって、地理的要因もあって洪水被害が多いということです。

地理的状況には変わりありませんが、国土交通省の一関遊水地事業の堤防整備によりまして、一関市街地の治水安全度が飛躍的に向上しています。現在は新たな市街地が形成されまして、地域が活性しているという状況ですし、遊水地以外の事業で申しますと、一関地区かわまちづくり事業ということ、これは磐井川でやっており、国と市が連携して進めているところでして、河川空間と一体となった賑わいと活力あるまちづくりに取組んでいるところであります。

次に、ここからが昨年開催しました「第２回未来の北上川流域を考える自治体連携会議」についてご紹介いたします。

開催に当たりましては、平山先生にご相談させていただきながら、また国土交通省の東北地方整備局様、それから岩手河川国道事務所様、そして北上川下流河川事務所様にもご支援をいただき、開催しています。石巻市長様からもお話しがありましたが、第１回は石巻市で開催されています。

開催の目的ですが、ちょっと読ませていただきますと「北上川の流域治水の推進や地域振興、流木の問題など諸課題の解決に向けて流域を構成する自治体が連携し流域一体となって取組を進める必要があります。このため、流域自治体の連携により様々な

魅力を共有し、市町相互の発展に資することや諸課題の解決に向かうことが北上川流域と持続的な発展につながるものと考えて開催するもの」ということであります。

会議の概要は、初めに一関市で開催している北上川流域交流Ｅボート大会の紹介から始まりまして、「北上川を活かした自治体連携をめざして」という大きなテーマとしてパネルディスカッションを行っています。コーディネーターには、国土交通省整備局河川部長の成田様にお願いし、またコメンテーターには平山先生になっていただいて、流域の７つの自治体の首長様をパネリストとして実施しています。

パネルディスカッションでの主な発言の内容をまとめたものになります。パネリストごとに若干ご紹介させていただきます。

初めに、岩手町の佐々木町長です。森林を保全し環境を整えて良い水を流す、川を守っていくことが私たちにできることではないか。交流を通じて、川の大切さもぜひ伝えて守っていきたいということですし、「共創人材」をいかにつくり上げていくか、地域の資源を活かして地域を学びの場としていかに次の時代、さらに次の時代の担い手をしっかり育成していくかが大事。この連携がもっと町民に理解され、町民と一緒に創り上げていく活動にしたい。

次に矢巾町の高橋町長です。北上川は流域に 21 自治体あり、この 21 自治体がお互いにワンチーム、ワンハートとしてしっかり取り組んでいくことが重要であること。

続いて、花巻市の上田市長です。市内にはいろいろな観光施設があるのですが、有機的なつながりがない。市民が川に親しめるような環境をつくっていきたい。川を使って、人との交流ができたらすばらしいと思うというご発言がありました。

次が、奥州市の倉成市長です。子供の頃に川で遊ぶことも、命を守る行動につながるかもしれない。そのような可能性を我々はしっかり考えていかなければならない。

続いて、一関市の佐藤市長です。森は海の恋人、山に木を植えて川が綺麗になり、海は豊かになる。北上川の上流から下流まで子供たちにつなげ、環境を守っていくことが大事。次は何をしていくかを考え、続けることが大事であること。

登米市の熊谷市長は、登米市に道の駅が５つあるので、関連施設をお互いに関係させていくことが広域的なつながりになっていくと。観光を発展させていく可能性をこの会議は秘めているということです。

最後に、石巻市の齋藤市長です。各市町で持つ悩みや課題を相談し合えるネットワークをつくることが一番重要だと。それから、流域治水という考え方の一般住民への意識醸成、治水は流域で取り組むものということに変化している。それに追従できるよう、北上川流域市町も連携していくことが、この連携の根幹をなすことで、流域市町の持続的発展につながるものと考える。最後に、地域交流や物産交流をお互いにやり取りしながら、良いものを見つけ出して、絆を深めていくことが、この自治体連携会議にとって、これからのあるべき姿ではないかというご発言がありました。

このパネリストの皆様からの発言を勝手に一言的にまとめてみました。それが下の箱ですけれども、北上川流域の流域治水はもとより、さらなる交流の推進及び賑わいの創出に向けて、流域内の自治体連携による積極的な活動ですとか、取組を続けていくことが大事ということだと思います。

続きまして、コメンテーターとコーディネーターからのコメントについてです。今後の自治体連携に向けてということでまとめさせていただきました。

初めに、コメンテーターであります平山先生からのコメントです。流域の市町村は同じ船に乗った仲間だと。どこで何をやっているか、どんな問題があ

るか、その事実を考え共有することがまずは大事で、それが自治体連携会議の第１歩のステップである。それから、子供を上流に連れて行ったり、下流の広い川を見せることは環境教育にも役立ちます。北上川は非常に優秀な市民団体がそろっている。我々も一緒に仲間に入れて活動してほしいということ。それから、産業界も環境のこと、地球温暖化に関して非常に関心を持っている。市民との連携、産業界との連携も考えていただきたいということです。

それから、コメンテーターであります整備局の成田河川部長からは、気候変動による災害の頻発的な発生はなくならないと。いざという時、流域全体で助け合いながら対応していくことがますます重要だと。平時から顔を合わせながら、お互いの強み、弱み、いろいろな情報を入手していくことが非常に大事になってくるというコメントをいただいています。

次回、今後の継続開催に向けた考えということで、若干まとめました。

次回は第３回ですが、開催地として盛岡市を予定していまして、１月末に事務の引き継ぎを実施してきたところです。

今後の継続開催に向けた進め方と書いてありますが、考え方はあくまでも案となりますが、継続開催に向けて組織化の検討が必要と考えています。この組織化に当たりましては、まずは流域の５から６自治体が発起人となりまして、組織化の提案ということを考えています。イメージ的には上流側３自治体、下流側２自治体ぐらいかなと思っています。その後、事務局の設置ですとか、組織の設立に係る調整とか協議というのが必要と考えていますので、組織化による継続開催については、今後発起人から流域自治体への協力を呼びかけまして、以降、具体な協議調整を進めていければと考えています。

流域の活動報告としては以上となります。

最後に、参考ということで「住みたい田舎」ベストランキングに見る一関市という資料をつけていますので、お時間のあるときでもお目通しいただければと思います。

以上で終わります。ありがとうございました。

# 本日の資料

1　北上川流域から見た一関市
2　未来の北上川流域を考える自治体連携会議の開催
3　北上川流域内の自治体連携が大事
4　今後の自治体連携に向けて

【参考】「住みたい田舎」ベストランキングに見る一関市

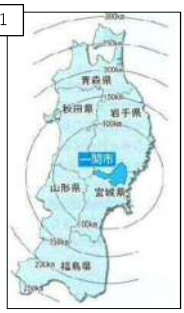
# 本日の資料

1 北上川流域から見た一関市
2 未来の北上川流域を考える自治体連携会議の開催
3 北上川流域内の自治体連携が大事
4 今後の自治体連携に向けて

【参考】「住みたい田舎」ベストランキングに見る一関市

## 1 北上川流域から見た一関市

図1




■一関市は岩手県の南端に位置し、南は宮城県、西は秋田県と接している。
首都圏から2時間30分で、東北地方のほぼ中央、盛岡と仙台の中間地点に位置している。(図1)総面積は1,256.42㎢であり、東西は約63km、南北は約46kmです。土地利用の状況は総面積のうち約60%が山林原野で占められ、次いで田が約11%、畑が約7%であり、農地の割合が高くなっている。
■一関市は東北一の大河である北上川が貫流し、市内中心部を流れる磐井川や砂鉄川などがその支川として注ぎ込み、水の恵みがもたらす農産物が豊かな食文化を産み多様な自然環境を育んでいる。

■一方、一関地区は地理的な特性から古くから水害に悩まされ、特に昭和22年と23年に来襲したカスリン台風やアイオン台風による大洪水により約600名の死者行方不明者を出す未曾有の大災害に見舞われ、戦後間もない一関市は壊滅状態に陥った。
■洪水被害を受けやすい地理的な特徴とは、一関地区の下流に非常に川幅が狭い区間(狭隘部)があり、宮城県境にかけて26kmにも及び、最も狭いところでは川幅が100m程度である。
さらには、河川の勾配を見ると一関地区が勾配の急変点でもあり、洪水が起こりやすい要因となっている。(図2)

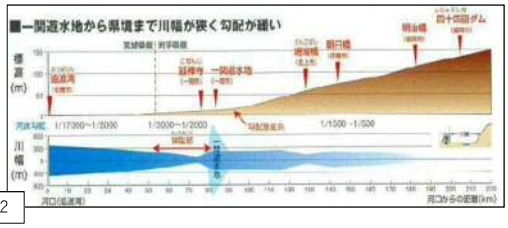



図2

■現在は一関遊水地事業による堤防整備により、一関市街地の治水安全度が飛躍的に向上し、新たな市街地が形成され地域が活性化している。
また、市内の中心部を流れる支川磐井川では、国土交通省のかわまちづくり支援制度に登録された一関地区かわまちづくり事業を国と市が連携して進めており河川空間と一体となった「賑わいと活力あるまちづくり」に取り組んでいる。

# 2 未来の北上川流域を考える自治体連携会議の開催

**■第２回未来の北上川流域を考える自治体連携会議**

※今回は流域全２１市町に案内(岩手県側１５市町、宮城県側６市町÷

○開催目的

北上川の流域治水の推進や地域振興、流木の問題など諸課題の解決に向けて流域を構成する自治体が連携し流域一体として取組を進める必要がある。

このため、流域自治体の連携により様々な魅力を共有し市町相互の発展に資することや諸課題の解決に向かうことが北上川流域の持続的な発展に繋がるものと考え開催するものである。

○開催概要

(１÷活動報告

北上川流域交流Ûボート大会の紹介

(２÷パネルディスカッションò流域７自治体の首長が出席÷

北上川を活かした自治体連携をめざしてø3つのテーマで意見交換÷

(３÷参加者数　約１００名

# 3 北上川流域内の自治体連携が大事

**◆パネルディスカッションでの主な発言内容**

**■岩手町　佐々木町長**

○森林を守って保全し、環境を整えて良い水を流す。川を守っていく事が私達に出来る事ではないか。交流を通じて川の大切さも、是非伝えて守っていきたい。

○持続可能な未来のキーワードの一つである「子供達」にどう残していくか、地域の未来をどうデザインしていくか、という事が、非常に大きなテーマになる。

○「共創人材」をいかに創りあげていくか、地域の資源を活かして地域を学びの場としていかに次の時代、その更に次の時代の担い手をしっかり育成していくか、が大事。

○SDGsも北上川を軸とした交流連携の中で、非常に大きなテーマである。

○このSDGsという切り口で捉えた時、国際的なテーマとなって北上川の連携がクローズアップ出来るのではないか。

○この連携がもっと町民に理解され、共に町民と一緒に創り上げていく活動にしたい。

**■矢巾町　高橋町長**

○21自治体が連携して、共に創り上げる。共創のまちづくりが大事。

○自治体連携は、特に災害時には情報共有をしっかり行うことが大事。

○21自治体がお互いにワンチーム、ワンハートとして、しっかり取組んでいく事が重要。

**■花巻市　上田市長**

○市内には色々な観光施設があるが、有機的な繋がりが無い。

○河川敷が荒れていて市民が遊びに来ないし、観光客も来ないので、まず市民が集まる場所にしたい。花巻温泉郷に泊まった人達が川に来るようにしたい。

○市民が川に親しむような環境を作っていきたい。川を使って人の交流が出来たら素晴らしいと思う。

○次回はもっと色々な自治体から出席して頂きたい。

○北上川のゴミ収集を、この会で一定の日を決めて一緒にやれば発信が強くなり、市民に訴える力が増えるのではないか。

## 3 北上川流域内の自治体連携が大事

**■奥州市　倉成市長**

○奥州湖でもEボートをやりたい。
○川の存在は子供達にとって想像力をたくましくする。
○子供の頃に川で遊ぶ事も、命を守る行動に繋がるかもしれない。
　また、そのような可能性を我々はしっかり考えて行かなければならない。

**■一関市　佐藤市長**

○森は海の恋人。山に木を植えて川が綺麗になり海は豊かになる。
○上流は植樹をして、中流は交流事業をして、下流は川のゴミ拾い。
　そのような事が我々には出来るのではないか。
○北上川の上流から下流まで子供達に繋げ、環境を守っていく事が大事。
○「次は何をしていくか」を考え、「続ける」事が大事。

**■登米市　熊谷市長**

○広域的な観光が今後の大きな課題となる。
○登米市に道の駅が５つあるので、関連施設をお互いに関係させていく事が広域的な繋がりになっていく。
○観光を発展させていく可能性を、この会議は秘めている。
○今後は、市民の皆様の考えも是非聞かせて頂きたい。

ë

## 3 北上川流域内の自治体連携が大事

■石巻市　齋藤市長

○物販を一つの交流の形として進める。
○各市町で持つ悩みや課題を相談し合えるネットワークをつくる事が一番重要。
○「流域全体が同じ舟に乗る仲間」である事を、我々関係者は勿論、一般市民の方々にも浸透させていく事が非常に重要。そのアプローチとして物産販売の交流は非常に有効。
○最終的な目的は治水。この会議は、流域治水を効率的に取り組めるよう、河川管理者と流域自治体の情報共有の場であると考える。
○流域治水という考え方の一般住民への意識醸成、治水は流域で取り組むもの、という事に変化し、それに追従出来るよう北上川流域市町も連携していく事が、この連携の骨幹をなす事で、流域市町の持続的発展に繋がるものと考える。
○地域交流や物産交流をお互いにやりとりしながら、良い物を見つけ出して、絆を深めていく事は、この自治体連携会議にとって、これからのあるべき姿ではないか。

**北上川流域の流域治水はもとより、さらなる交流の推進及びにぎわいの創出に向けて、流域内の自治体(仲間)連携による積極的な活動や取組が大事**

ê

## 4 今後の自治体連携に向けて

■岩手大学名誉教授　平山先生(コメンテーター)

○流域の市町村は、同じ舟に乗った仲間だ。
○「どこで何をやっているか、どんな問題があるか」その事実を考え、共有する事が先ずは第一で、それが自治体連携会議の第一歩のステップだ。
○舟に乗って川を見るインフラツーリズムは、自治体職員の一般研修に役立つと思う。
○子供を上流に連れて行ったり、下流の広い川を見せる事は、環境教育にも役立つ。
○流木問題、プラスチックゴミの問題、水辺の要望等、お互いに課題を共有して、自分で出来るものは自分でやり、出来ないものはそれなりの所にお願いする、という事もこの会議の大きな役割ではないか。
○北上川は非常に優秀な市民団体が揃っている。我々も一緒に仲間に入れて活動して欲しい。
○産業界も環境の事、地球温暖化に関して非常に関心を持っている。市民との連携、産業界との連携も考えて頂きたい。
○自治体の皆さんに市民グループを元気づけてもらえるような会として発展されるよう心からお祈りしている。

■国土交通省東北地方整備局　成田河川部長(コーディネーター)

○気候変動による災害の頻発的な発生は無くならない。いざという時、流域全体で助け合いながら対応していく事がますます重要。
○平時から顔を合わせながら、お互いの強み、弱み、色々な情報を入手していく事が非常に大事になってくる。
○この会議の取組が北上川流域全体に広がり、更には東北の他地域の河川流域の模範となるような取組としても広がっていく事を期待している。

é

## 4 今後の自治体連携に向けて

■次回(第３回)開催に向けて
○第３回の開催地として予定している盛岡市様と事務引継ぎを実施。
(R 6. 1.24)

■今後の継続開催に向けた進め方(案)
○継続開催に向けた組織化の検討が必要。
・組織化にあたっては流域の5～6自治体が発起人となり組織化を提案。
イメージ的には上流側3自治体、下流側2自治体。
・事務局の設置や設立に係る調整や協議、決議　等。

**組織化による継続開催については、**
**今後、発起人から流域自治体への協力を呼びかけ(依頼)、**
**以降、具体な協議・調整を進める予定**

è

【参 考】

# 「住みたい田舎」ベストランキング

## に見る一関市

宝島社『田舎暮らしの本』2月号
「2024年版第12回住みたい田舎ベストランキング」

ïð

# 人口10万人以上20万人未満の市

50⇒54市(人口規模10万～20万の市の数)／671⇒587市町村(回答した全市町村数)

| 全279項目 | 岩手県 | 東北 | 全国 |
|---|---|---|---|
| 総合部門 | 1位 | 2位⇒1位 | 6位⇒4位 |
| 若者世代・単身者部門 | 1位 | 3位⇒1位 | 3位 |
| 子育て世代部門 | 1位 | 1位 | 3位 |
| シニア世代部門 | 1位 | 1位⇒2位 | 9位⇒11位 |

一関市の人口　107,564人(R6.1.1現在)
(男性 52,442人 女性 55,122人)

ïï

# 河川行政の取組報告（国、県）

① 岩手河川国道事務所

② 北上川下流河川事務所

③ 北上川ダム統合管理事務所

④ 岩手県県土整備部河川課

⑤ 宮城県土木部河川課

**河川行政の取組報告①**

**「北上川における川づくり」**

**岩手河川国道事務所　所長　　近藤　修　氏**

それでは、私からこのようなタイトルで少しお話をさせていただきます。メニューはこの５点になっております。

まず初めに、水辺の交流拠点の活用状況でございます。当事務所で管理している拠点としては、大きく水辺プラザ、それからこれ以外に水辺の学校というのも１点あるのですけれども、それからかわまちづくりという交流拠点を持っております。水辺プラザはこちらの 10 地区です。プラス、今申し上げました水辺の学校というのが江刺市に１校あります。あとは、ちょっとエリアがラップしますけれども、プラスしてかわまちづくりというのを２か所でやっています。これ全部うちで管理するのも大変なので、地元の自治体に管理をお願いしながら、場合によっては地域住民の方にもお願いしながら活用いただいているということであります。特にこちらの水辺プラザは、一番最初にできた施設は平成９年ということで、もう大分年月がたって老朽化しております。そうした中で、なかなか昔と同じレベルで修繕、更新をするというのは、実際問題難しくなっているところでおりますが、私どもでできることとしては、ゴールデンウィーク前、それから夏休み前にしっかり施設を点検して必要な補修とか、そういったものは対応しております。なかなか大規模な補修が必要になっているところとかは、ここは通行止めです、みたいな感じにさせていただいておって、この辺はご苦労をおかけしておりますけれども、どうかご理解をいただければと思います。

そうした中、１つご案内でございますけれども、川の通信簿というのを聞かれたこと、ございますでしょうか。今申し上げた水辺プラザとかを、地元の皆様にも参加いただいて、５段階評価をしてもらうという取組を５年に一遍やっています。前回は令和元年にやっておりまして、今度は来年度、令和６年度にその採点の時期がやってまいります。そのときには、多分６月ぐらいになると思いますが、ぜひ地域の皆さんも一緒になって点検していきたいと思いますので、機会があれば、参加をお願いしたいと思います。

ちなみに、ここに５年前の評価結果が出ております。残念ながら星５つはうちの流域ではなくて、ただ星４つで一関、水沢、この展勝地、花巻、東和、石鳥谷、盛岡といった水辺プラザが評価されているということであります。所長としてはぜひここをまた保っていきたいなと思っているところです。

続きまして、河川空間のオープン化でございます。これは、昨年もちょっとお話をさせていただきましたが、河川空間のオープン化って何、という話ですけれども、ここにありますとおり、通常河川区域内では営業活動してはいけないことになっております。ただ、このオープン化をすることで、あくまで一定のルールを守ってくださいということですが、特例として民間事業者等が営業活動を行えるという制度でございます。これを、盛岡のかわまちづくりのところでやっていこうということでございます。今でも舟運やってお金取っているよね、そういうのがあります。今はあくまでも建前上は社会実験、あくまで実験ということで一時的な措置でございます。それが、このオープン化をすることで、正々堂々と収益事業ができるということで、盛岡市がメインで動いていただく話になりますけれども、こういった取組がようやくこれから動きつつあるというお話をち

ょっと触れさせていただきます。

もう一つの動きとしては、船着場の整備でございます。これは、一関市のかわまちづくりの一環でやっておるのですけれども、今あいぽーとの目の前の河川敷、ここにちょっとしたスロープ状の船着場を整備しております。間もなく完成するということなので、ちょうど同じタイミングで一関市がスケートボード場を整備しているということで、このお披露目を４月 27 日に予定しているということで、もしお近くの方はまた参加していただければなと思います。

その時に地元の方から言われていたのは、ここに船着場を造るのはいいけれど、実はここに床固めというブロックが積んであって通れないので、あまり意味ないよという話があったのです。このブロックというのは、実は昔は川がぐっと曲がっていたのをショートカットしたのです。そのときに、河床の安定のために置いたのですけれども、ちょっとぐらい取ってもいいかなという結論でありまして、左岸側の 10 メートルぐらいをもう撤去しておりますので、ここは通れるようになっております。ということで、この船着場を使って北上川に出れるというような形になっておりますので、ぜひご活用いただければと思います。

最後でございますが、さきほど平山先生からありましたけれども、昨年初めての取組ということで、北上川の流域研修会を 11 月７日、８日で開催いたしました。ちょっと残念ながら「ゆはず」は水深が浅過ぎるということで運航できませんでした。昨年はちょっと全国的に渇水のお話があったのです。この時期も、琵琶湖の水位がどうのこうのというニュースがありましたので、やっぱり渇水だったからかなと思って調べてみたのが、これです。これは北上大橋の付近の水位の状況を、10 月、11 月、12 月で、赤がまさに令和５年と。あと、過去５年ぐらいのデータを見たのですけれども、確かに低いですが、ただ言うほど低くないのです。実際、この頃の北上川はどうだったかというと、実は８月ぐらいまでは北上川も渇水になったのですけれども、９月以降は改善しているという状況です。そういう意味で、要は渇水のせいというよりは、実はこの時期はあまり舟運に適さない時期だということなのです。そこをもう少し調べてみたのですが、後で小田桐所長に詳しく聞いていただければと思いますが、実は 10 月から非出水期という時期になって、上流のダムの水位を徐々に上げていく期間が始まります。そうすると、水位を上げていくために放流を抑えるので、結果として下流の水深が下がるという、それが本当なので、もし確率よく船に乗りたければ、ちょっとこの時期は避けたほうがいいかもしれませんということであります。

ということで、ご清聴ありがとうございましたと言いたいところですが、あと１点だけです。これ、私仙台で 20 年ぐらい前に課長をしていたときに、当時の「をんな川会議」の皆様と懇親をしたときの写真が見つかりましたので、ちょっとうれしくて持ってきました。こちらに柏さんがおられます。今でもお変わりなくおられますけれども、ぜひほかの皆様もいつまでも末永く私たちとおつき合いいただければと思います。以上、終わります。ありがとうございました。

# 北上川における川づくり

R5北上川「流域圏」推進交流会議　資料

令和6年2月3日（土）

国土交通省　東北地方整備局
岩手河川国道事務所長　　近藤　修

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism



## 本日の内容

①「水辺の交流拠点」の活用状況
②川の通信簿
③河川空間のオープン化
④船着き場の整備
⑤昨年10～11月の北上川の流況

# 「水辺の交流拠点」の活用状況

国土交通省

## 「水辺プラザ」

- 「北上川歴史回廊」(Øé策定)を結ぶ交流拠点として整備。
- 地元市町村に一部管理をお願いしながら、住民の皆様に活用いただいている。
- 河川管理者としては、ÙÉ前と夏休み前に点検し、必要に応じ補修・応急措置等を実施。

| 地区名 | 登録月日 | 地区名 | 登録月日 |
|---|---|---|---|
| ❶川崎地区 | 平成9年1月 | ❻花巻地区 | 平成13年1月 |
| ❷一関地区 | 平成15年2月 | ❼石鳥谷地区 | 平成13年1月 |
| ❸平泉地区 | 平成18年3月 | ❽紫波地区 | 平成16年3月 |
| ❹水沢地区 | 平成9年1月 | ❾盛岡地区 | 平成13年1月 |
| ❺北上地区 | 平成10年6月 | ❿東和地区 | 平成14年1月 |

## 「かわまちづくり」

- 「かわ」を活用して「まち」を活性化するため、関係者が協力してハード整備、ソフト施策を展開。

**盛岡地区**

- 舟運(盛岡地区かわまちづくり(舟運)実行委員会)
- 木伏緑地前河川敷でのイベント(ゼロイチキュウ)

**一関地区**

- SUP、カヤックなど(リベラルカヤック、NPO北上川サポート協会)

# 川の通信簿

国土交通省

水辺プラザ等における川の利用しやすさ、親し みやすさについて、市民の目による点検を行い、その結果を踏まえ5段階で評価するもの。

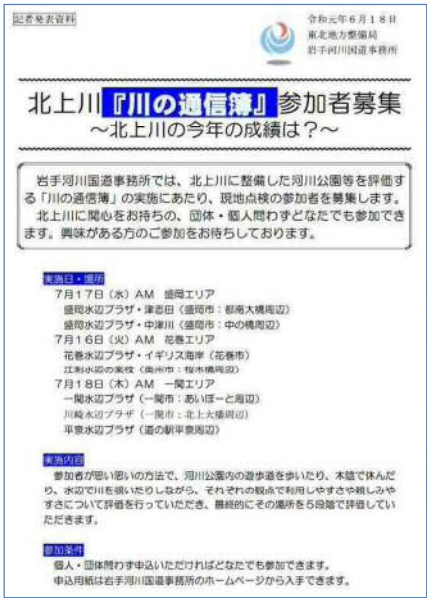
市民の皆様と協働で調査・評価を行い、良い点・悪い点を把握することによって、今後の川づくりに反映することを目的に5年に1回実施(次回は令和6年度)。

**(総合評価の基準)**

| | |
|---|---|
| ☆☆☆☆☆ | すばらしい |
| ☆☆☆☆ | 相当良い |
| ☆☆☆ | 普通 |
| ☆☆ | 悪い |
| ☆ | 相当悪い |

**前回(ÀÎ元年)の評価結果**

☆☆☆☆☆
なし
☆☆☆☆
一関／水沢／江刺(水辺の楽校)／
北上・展勝地／花巻・イギリス海岸／
東和(町井地区)／石鳥谷／
盛岡(中津川)
☆☆☆
川崎／東和(成島地区)／盛岡(津志田)
☆☆
平泉
☆
なし


記者発表資料

令和元年6月18日
東北地方整備局
岩手河川国道事務所

北上川『川の通信簿』参加者募集
～北上川の今年の成績は？～

岩手河川国道事務所では、北上川に整備した河川公園等を評価する「川の通信簿」の実施にあたり、現地点検の参加者を募集します。
北上川に関心をお持ちの、団体・個人問わずどなたでも参加できます。興味がある方のご参加をお待ちしております。

実施日・場所
7月17日(水) AM 盛岡エリア
盛岡水辺プラザ・津志田(盛岡市：都南大橋周辺)
盛岡水辺プラザ・中津川(盛岡市：中の橋周辺)
7月16日(火) AM 花巻エリア
花巻水辺プラザ・イギリス海岸(花巻市)
江刺水辺の楽校(奥州市：桜木橋周辺)
7月18日(木) AM 一関エリア
一関水辺プラザ(一関市：あいぽーと周辺)
川崎水辺プラザ(一関市：北上大橋周辺)
平泉水辺プラザ(道の駅平泉周辺)

実施内容
参加者が思い思いの方法で、河川公園内の遊歩道を歩いたり、木陰で休んだり、水辺で川を眺めたりしながら、それぞれの観点で利用しやすさや親しみやすさについて評価を行っていただき、最終的にその場所を5段階で評価していただきます。

参加条件
個人・団体問わず申込いただければどなたでも参加できます。
申込用紙は岩手河川国道事務所のホームページから入手できます。

# 河川空間のオープン化（盛岡地区かわまちづくり）

国土交通省

## 盛岡地区かわまちづくりの概要

■平成21年5月 「盛岡地区かわまちづくり計画」登録（平成29年3月変更）
■管理用階段・通路等の水辺整備と、JR盛岡駅に隣接する木伏緑地の改修等を実施
■令和2年度までに国交省のハード整備を完了
■種々のイベントや社会実験を実施中
■令和4年度 「かわまち大賞」（国土交通大臣賞）受賞
■今年度のかわまち懇談会において、河川空間のオープン化に向けた具体調整に入ることが了承。

整備前（H27年10月撮影）

整備後（R元年9月撮影）

環境整備事業で国で整備した低水護岸（船着き場）

## 河川空間のオープン化とは

■一定の要件を満たす場合、特例として民間事業者等が河川区域内で営業活動を行うことが可能になる制度

社会実験 → 収益事業へ
イベント等も料金徴収が可能に

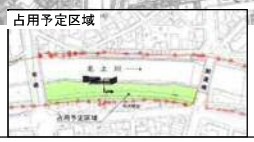
舟運

まちなか河川敷キャンプ実験

YOSAKOI

アトラクション

## オープン化の区域（都市・地域再生等利用区域）（予定）



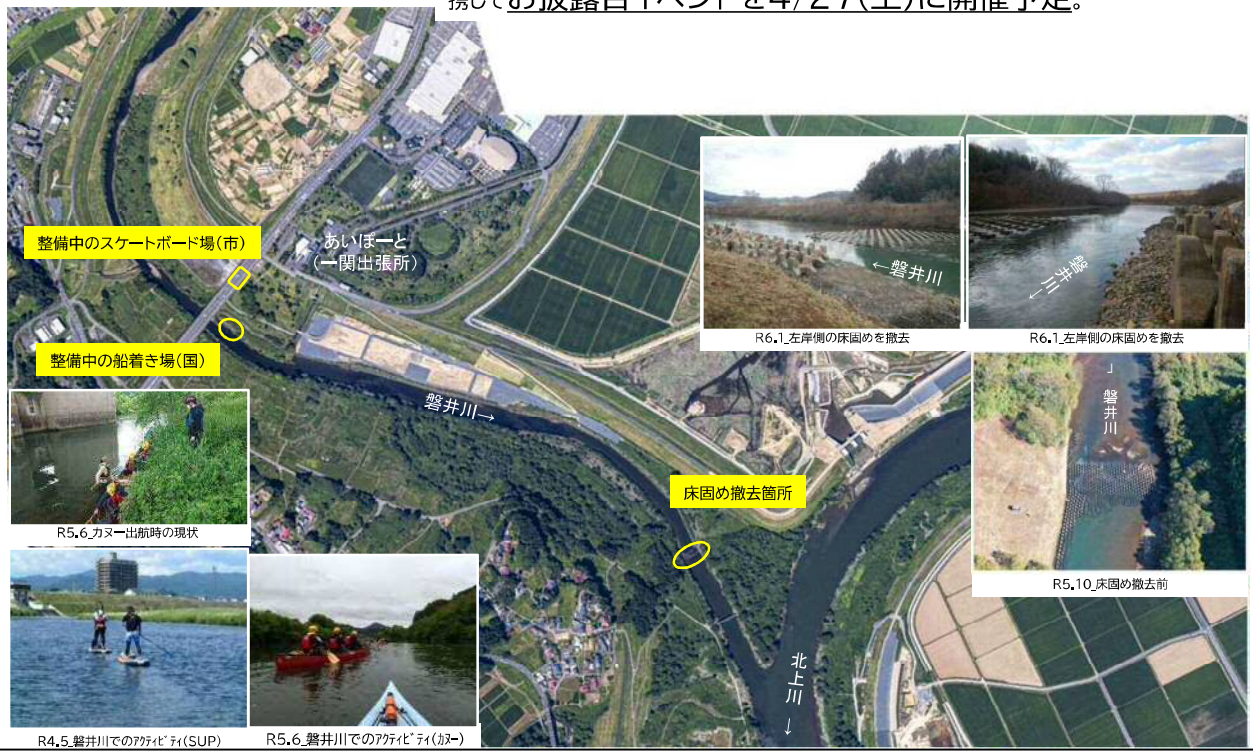

5

# 船着き場の整備（一関地区かわまちづくり）

国土交通省

## 一関地区かわまちづくりの概要

■令和2年3月 「一関地区かわまちづくり計画」登録
■まちづくりと一体となった親水護岸・管理用階段・通路等の水辺整備を整備中
■今年度末には、あいポート前の船着き場が完成し、市が整備するスケートボード場と連携してお披露目イベントを4/27（土）に開催予定。




R6.1_左岸側の床固めを撤去

R6.1_左岸側の床固めを撤去

R5.10_床固め撤去前

R5.6_カヌー出航時の現状

R4.5_磐井川でのｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨ（SUP）

R5.6_磐井川でのｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨ（ｶﾇｰ）

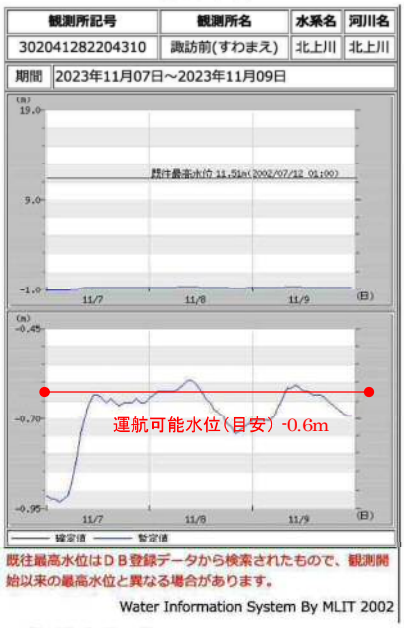
6

# 昨年10～11月の北上川の流況（北上大橋付近）

国土交通省

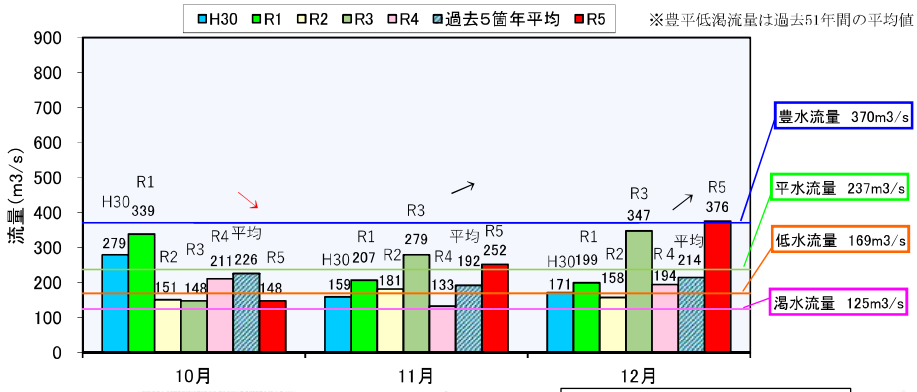
**「ゆはず」運航基準（下流方向）【諏訪前水位】 -0.6m以上 （約Q=170m3/s）**

時刻水位図

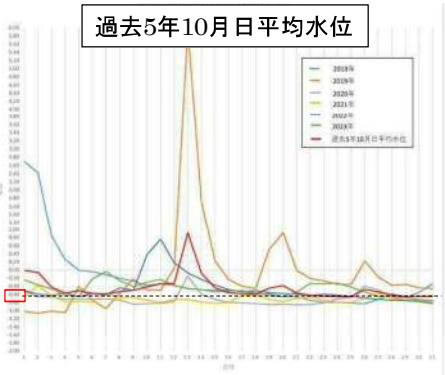



【下流方向へ】
諏訪前水位
-0.6m以上　運行可能
※ただし前後の気象情報や川の状態によるためあくまで目安

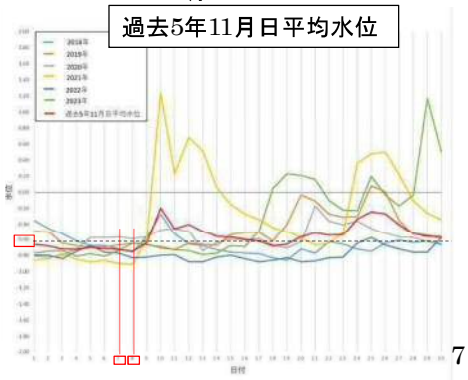
諏訪前　月平均流量




過去5年10月日平均水位



過去5年11月日平均水位



7

**ご静聴ありがとうございました。**

**河川行政の取組報告②**

**「事務所取り組みの紹介」**

**北上川下流河川事務所 所長　斉藤 喜浩 氏**

皆さん、こんにちは。北上川下流河川事務所長をしております斉藤です。

事務所は石巻市にございます。北上川の一番河口付近ということになります。

まず私の説明に入る前にちょっと衝撃的なお話をご紹介させていただきます。北上川にとって象徴的で秋の風物詩のサケ、これらは盛岡まで遡上しておりますが、実は私のところの河口部の漁協さんから、「今年は本当にサケが取れない。」というお話を聞きました。

そこで調べたところ、令和元年のサケの捕獲数は旧北上川と新北上川と河口が２つある中で、両方足すと３万匹ほど捕獲できていました。それが今年度の令和５年は 1,300 匹ほどです。これは大変由々しき事態だと思っていまして、更に昨年度から比べても３割減となっています。

なぜこうなっているのかはよく分かりませんが、海でも取れないと言っているので、大きな環境変化のようなものがあるのかもしれません。

それでは、私の話しに入らせて頂きます。まずこの「北上川流域圏推進交流会議」ですが、中々他のエリアではこういったことを長く連携され、継続しているということを私は聞いたことがありません。

環境、気候の変動もある中、暑い日が続いたり、積雪が今年は山間部でも少ないような状況がある中、先ほどのお話の中でも人口減少とか、いろいろな社会変化も出てきています。こういった変化にどう対応していくのかという中、やはり「安全・安心に暮らす」、それから「豊かに生活する」という意味で、流域の皆さんがこうして北上川流域で連携して頂いていることは非常にすばらしくもあり、また重要なことと考えます。

北上川の特徴としては古い歴史もあり、昨今からの地域の繋がりや交流、人の繋がりもあったということも流域圏の皆さんで連携する機会を設けて前向きに、更に一歩上を目指して連携されている要因、地盤にもなっているのかなと思っているところでもあります。

治水の面でも「流域治水」といって「流域の全ての皆さんで一緒に取り組みましょう。」というのは、こういった変化にもアジャストして、安心して暮らせるようにしていくという流れでもあるわけです。

石巻市長のご挨拶にもありましたが、河口部の「かわまちづくり」ということで、堤防整備をしてきた中、多くの市民の皆さんに利用して頂き、更に訪れる方にも気持ち良い空間を利用してもらうということで、交流拠点としての「かわまちづくり」も進め、完成を見ました。

資料をご覧いただくと、これは昨年７月７日に「水辺で乾杯」として、石巻市かわまち地区の水辺で７月７日の７時７分に乾杯をさせて頂き、この時には盛岡のかわまちの現場ともネットで繋がせて頂くなどをし、双方で掛け声もして「乾杯」した企画もやらせていただいております。

また、毎年８月に石巻市では夏祭りとして「川開き祭り」をやっています。これは石巻の舟運の歴史そのものでもございまして、かつてお米の集積地になり、北上川を物資が行き来した歴史の中から石巻が発展し、その礎となった河川の改修によって、そういった恩恵がもたらされたということを市民の皆さんも忘れずにして、それを成し遂げた「川村孫兵

衛重吉」という伊達政宗のお抱え技術者であり、いわゆるヘッドハンティングで長州から来た方になりますが、この功績とご恩を忘れずに、この祭りを毎年開いているわけです。昨年はちょうど 100 回目の記念すべき開催であり、特に盛大に開催された状況でございます。

それから、「北上フェア」ということでこれは 10 月でしたが、このフェアは市民の皆さんが楽しめ、地域の賑わいを新たにつくるきっかけにしようということで、流域内の岩手県からも物産品を石巻まで運んで頂くなどして、このイベントに併せて販売いただいたり、また、宮城県登米市の小学校で作ったお米を、北上川を使って下り、運河を使って塩竈まで運びましょう、といったイベントで民間団体の方々と連携もしながら実施し、交流を深める企画をしました。

また、北上川水系ではありませんが、昨年吉田川の大郷町という所で、これも「かわまちづくり」ということで、川を活かしたまちづくりを進めようと「かわまちづくり登録」をさせて頂きましたし、更に北上川水系の支川になりますが、江合川でも「かわまちづくり」を進めるべく、地域の皆さんと連携しながら楽しい企画も考えているところでございます。

更に「かわまちづくり」の関係で、先ほど石巻市長からもお話しがありました、昨年度の「かわまちづくり大賞」を受賞したことや、今年度には土木学会の「デザイン賞最優秀賞」も受賞しております。やはり気持ちのいい空間をしっかりと造っていくということは非常に大事なことと思っておりますので、引き続き情報共有や連携もしながら、広域的にこういった場所が北上川の各地で生まれてくるように実現できれば幸いと思っているところでもございます。

当事務所管内で北上川以外の事項にはなりますが、鳴瀬川水系の吉田川では過去に台風で大きな被害に遭ったということがあり、北上川流域でも「流域治水」を進めているわけですけれども、特にこの吉田川においては「特定都市河川の法律に基づく取組」を進めており、河川指定をして今計画づくりをしております。東北地方では初めて特定都市河川に指定して進めているところですが、川の特徴をよく知って、それに対してどういう取組をすることが水害の緩和につながるのかということを理解して、一人一人が自分の取り組めることを進めていくというのが「流域治水」になります。

例えば流域の上流にダムがあり、その流域で進めている森づくり事業、企業のネーミングライツで森林の保全活動などをしてもらう取組をやっており、それを拡大していくことや、あるいはこの中流域には豊かな田んぼが広がっていますので、そういった田んぼや「農業と治水の関わり」、田んぼダムの取り組みや農業用ため池を大きな台風が来るときには、ため池を早めに空にするなどをして、台風の水を貯め洪水緩和に寄与してもらう、そういった取組を地域の皆さんと一緒になってやっていこうと考え、各所で色々とお話もさせていただいています。

また、この流域には大きな工業団地があり、トヨタなどはもちろん、今度は半導体メーカーも来ることになり、多くの企業が張りついている地域になります。こういった企業団の皆さんとも、流域取組への連携､模索をしようということで話し合っており、企業の皆さんからも一緒になって進め、取り組みたいと言って頂いてもおります。

例えば、工業団地にある調整池の管理をしっかり企業団でしていただくだとか、流域のあらゆる関係者が出来る範囲をそれぞれがやるという取組をまず先進的に吉田川にて進めております。

こうした中、北上川流域の中でもこういった取組を、我々所長も連携するのはもちろん、皆さんとも連携しながら進めていきたいと考えております。

少し話が変わりますが、ここ北上市も非常に企業

の立地が盛んであり、こういう立地、産業があるということは生活にも関わる訳ですから大変重要なことです。

企業の誘致に何がポイントになるのかとなれば、当然ですが、企業が来るには土地がないと駄目であり、更に土地だけでも駄目で、やはりアクセスがよくないと選ばれない訳です。

そのため、高速道路をはじめとする交通網、それから空港や港といった所にどう繋がっているかということが重要なポイントであり、もう一つ「水の問題」は非常に大きい訳です。

我々が進めている「流域治水」は、洪水のときの話だけと思いがちですが、実は雨が降るときにはバケツをひっくり返したように降り、降らないときには長く続くといった渇水や水資源の不足も懸念されるような気候変動も出てきています。

こういったことに対して強い地域をしっかり造っておくということが、ひいては企業誘致の実現にも繋がることでもあり、「流域治水」を北上川で言えば、川の特徴を踏まえてやっていく中で、備えや特徴を知った上で強みにしていく、また、弱みを知って対策していくというようなことをやっていくことが将来の投資にもなり、安心・安全の糧にもなっていく訳であり、そのためにもこの後もしっかりと続けてまいりたいと思っているところです。

次に「能登半島の地震」に関しての対応です。当事務所からは６時間位をかけて富山とか金沢などの支援拠点に着きます。これら拠点から能登半島の更に先の方は、被害が本当に大きく、また道路は軒並み崩れていますし、山も崩れてくるので、砂防系の仕事も本当に大事な役割になります。被災場所の調査は、当事務所だけではなく、岩手の事務所からも行っており、東北地方整備局全局挙げて、何とか早い復旧に繋がるための取組を鋭意やっております。私も東日本大震災を経験した者の一人として、本当に思いを持って、しっかりお返しするようなことをしたいという強い思いでおります。

最後に環境面でも先ほど「カワウの話」がありましたが、本当に変わってきているなと思っています。北上川だけではなくて、その周り、流域が貴重な生物にとっての生態系のネットワークの場でもありますので、そういったことにも目を配りながら、その流域の良さを皆さんと一緒にまた勉強していきたいと思いますので、ぜひご支援のほどをお願いと致しまして、私からのご報告とさせていただきます。

お時間ありがとうございました。

令和５年度北上川「流域圏」推進交流会議　資料

# 北上川下流河川事務所
# 最近の話題

●管内における「かわまち交流」、「かわまちづくり」の展開
●旧北上川河口部復旧・復興事業土木学会受賞
●その他情報提供
　・吉田川流域・高城川流域での「流域治水」取組・推進
　・管内の企業立地、工業団地造成の事例紹介
　・令和６年「能登半島地震」でのTEC-FORCE派遣・活動状況

令和６年２月３日

国土交通省　北上川下流河川事務所
斉藤喜浩

1

# 管内における「かわまち交流」、「かわまちづくり」の展開

## 石巻市中央地区「かわまち交流拠点」オープン（令和５年４月）

・旧北上川河口部の堤防整備と石巻市が右岸側中央地区で進めてきた「かわまち交流拠点整備事業」が令和5年3月に完了し、4月22日に完成したばかりのかわまち交流広場で「かわまち交流拠点」のグランドオープン式典が行われました。
・堤防で隔てられた“かわ”と“まち”をつなぎ、にぎわいを創出するあらたな石巻発展の拠点として期待されています。

市報「いしのまき」令和5年6月号より

2

## 「水辺で乾杯in石巻」を開催　～かわまち空間でのひととき～

■ 令和5年7月7日午後7時7分、石巻市中央地区の旧北上川堤防一体空間にて、NPO法人ひたかみ水の里などが中心となって「水辺で乾杯in石巻」が開催されました。
○ 会場には齋藤石巻市長も訪れ、同じく乾杯を行っている盛岡市の会場ともWebを通して会話するなどして、北上川の上下流間での交流も深めました。
○散歩やランニングを楽しんでいる方々も参加頂くなどしながら無事「乾杯！」を行い、穏やかな夕暮れと日の入りの中、緩やかな川面を見ながらのひとときを会場全体で楽しみました。

午後7時7分「水辺で乾杯！」

水辺で談笑する参加者

この「乾杯！」箇所周辺一帯は石巻市のかわまち交流拠点として水辺からにぎわいを創出していく空間です。８月４～６日の３日間には１００回目を迎える「石巻川開き祭り」の開催をはじめ、今後も水辺を囲んでのさまざまな催しやイベントが予定されています。

（イメージ）

3

## １００回目の「石巻川開き祭り」が開催（令和５年８月４日～６日）

・北上川を開削し石巻に港を開いた川村孫兵衛重吉翁への報恩感謝の祭りとして始まった**「石巻川開き祭り」**は、東日本大震災やコロナ禍などの困難な時期も経ながら、昨年は記念すべき「第100回目の開催」として3日間にわたって盛大に開催がされました。

・旧北上川と「かわまち地区周辺」においては、歴史ある“孫兵衛船競漕”や豪華絢爛な“花火大会”などが行われ、**「水辺からにぎわいを創出する」**石巻市観光の発信拠点としての川の役割を再認識する催しとなりました。

石巻川開祭実行委員会のパンフレット（表紙）より

孫兵衛船競漕の様子

堤防上や法尻部での競漕観戦

堤防プロムナード上での花火観覧

※今回の「石巻川開き祭り」は開催３日間の人出が前回の令和４年（開催は２日間）より１４万７５００人多い２７万６千人と倍増（主催者発表）、内外から大勢の人々で賑わいました。

4

## 北上川フェア２０２３　～「川からにぎわいを」テーマに開催～

**■ 令和5年10月29日（日）、かわまちオープンパーク（石巻市中央・旧北上川堤防）を会場に4年ぶりに「北上川フェア」が開催され、多くの家族連れなどでにぎわいました。**

〇この歴史あるフェアもコロナ禍の影響があり久しぶりの開催でしたが、会場において「イワナのつかみ取り」やクルージング、カヌー体験などが行われ、子どもたちの笑い声と参加で多いに盛り上がりました。

〇 また**一関市（岩手県）と涌谷町から地域特産品などの実演販売も行われ、**上流自治体を含めた**北上川流域圏でつくりだす「地域の賑わい」**をあらたな水辺空間で実現しながら楽しんでいただく一環ともなりました。

〇更に会場には、江戸時代に盛んだった舟運を再現する試みとして、**「登米小学校で作られた米」**が子ども達の手により登米から北上川を下って船で会場に運ばれ、多くの来場者の方々に振る舞うイベントも実施されました。

「登米のコメが会場に到着！」

船で運んできた子ども達の手によって会場の方々に配りました。

登米小学校からの米の配付イベントは、（一社）貞山運河ネットやNPO法人ひたかみ水の里が中心として企画されました。

〇今回のフェアにあわせ、登米から北上川を通って石巻へ、そして今後は更に北上運河や松島湾、貞山運河をくぐり抜け多賀城まで子ども達が船で米を運ぶものです。

〇当時の舟運の苦労を再現し、北上川とそれに連なる「みやぎの運河群」のすばらしさを後世に伝えようとするものです。

5

# 「川とのかかわり」や通信機械車両を展示紹介

～北上川フェア2023～　　ー北上川下流河川事務所ー

■ 今回の北上川フェアにおいて、当事務所では**「川とのかかわり」**についてのパネルと**通信機械車両を展示**して、会場に来られた方々に日頃の仕事の一環を見ていただきました。

○パネル展示では、川村孫兵衛の功績や、震災後から堤防整備も含めて10年以上の歳月を経て完了した**「かわまち整備事業」**などについて紹介をしました。
○ 車両の展示では、衛星通信車と移動型衛星通信設備を搭載した車の2台で、**災害時などに衛星を利用して全国どこからでも通信が可能**なことなどを説明しました。
○当所ブース内一角と隣りでは、宮城県建設業協会石巻支部などが「建設産業での未来の担い手」や「日頃の学校取組支援」の紹介内容を含め、ミニショベルの試乗展示や重機のVR操縦体験を行うなどして、あらたな**建設業の魅力を伝える活動**を行っていました。

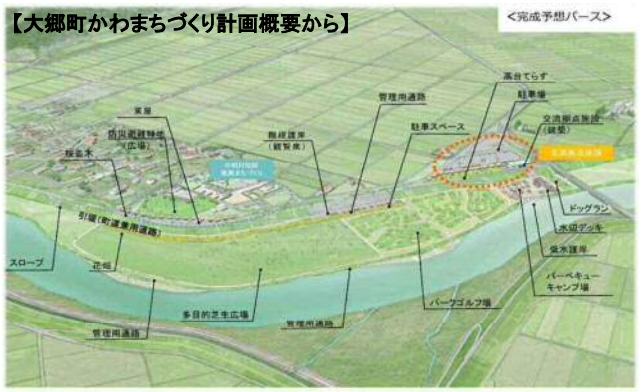
**「北上川の歴史について」も紹介**

**「災害時に活躍する車両」を説明**

○旧北上川の雄大な景色と石巻の魅力が融合した中で、各種ブースでの展示紹介を通して、多くの来場の方に水辺空間の楽しさを実感していただく事が出来ました。
○今後もこの場所が「かわ」と「まち」を繋ぎ、ますます「街のにぎわい」を創出する拠点、空間としての役割と利活用が期待されるフェアとなりました。

6

# 大郷町（吉田川）や大崎市（江合川）でも「かわまちづくり」が始動



7

# 旧北上川河口部復旧・復興事業土木学会受賞

## 令和４年度土木学会賞『技術賞（Ⅱグループ）』を受賞

■旧北上川河口部における復旧復興事業は、東日本大震災により甚大な被害を受けた石巻市中心部において、無堤であった市街化区域への約15km に渡る河川堤防を発災から約10年の短期間で完成させた、全国的に類を見ない大規模事業となりました。
■事業実施にあたっては、都市機能を維持しながら市･県等複数関係機関との事業間の調整が必要であり、事業を滞留させないため即応的に問題解決に向けた対応が求められたことから、俯瞰的な立場で全体最適化を図ることを目的とした**PM･CM一体型マネジメント方式を採用**し、計画～調査設計～施工までの多くの課題解決を行いました。
■今般、本事業が、土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に大きく寄与したと評価され、土木学会賞の技術賞（Ⅱグループ）を受賞しました。

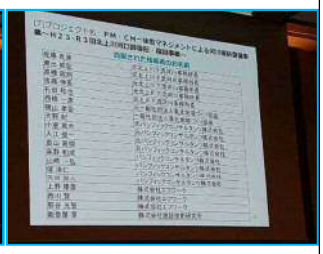
**土木学会賞授与式**
**開催日：令和５年６月９日（金）**
**場　所：ホテルメトロポリタンエドモント２階「悠久の間」**

**※斉藤事務所長が受賞者を代表して受賞**
**※賞状と賞碑は後日送付**

▲受賞式の様子（技術賞Ⅱグループ）

▲賞状、賞碑が授与されました

▲上田会長から開会のご挨拶


▲会場では、事業内容、貢献された技術者が紹介されました

【技術賞Ⅱグループとは】
土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる画期的なプロジェクト（新設プロジェクトのみならず更新やリノベーションプロジェクト等も含む）

8

## 「土木学会デザイン賞2023」“最優秀賞”を受賞
## ～石巻市街地における旧北上川の復興かわまちづくり～

**○1月20日（土）10時から土木会館講堂にて、土木学会デザイン賞授与式が開催され、齋藤石巻市長を始め関係者11名が授賞式に参加。**
**○齋藤市長から、「この素晴らしい“まちと河川の一体空間”を作り上げるため参加いただいたすべての方々に感謝。是非石巻を訪れていただきたい。」と御礼を含めた挨拶。**
**○13時から行われた受賞者プレゼンテーションでは、関係者を代表して（株）風景屋代表取締役の小林徹平氏から北上川の歴史や震災前の景観を踏まえた計画コンセプト等の説明が行われ、会場から賞賛の声が多く発言された。**

▲ 齋藤市長挨拶 ▲

▲ 授賞式参加者による記念写真 ▲

▲ 小林氏プレゼン発表 ▲

事業概要（河川関係）
- 旧北上川河口部復旧･復興事業、旧北上川かわまちづくり整備事業
- 事業期間：2011年3月～2022年3月
- 設計着手：2011年5月、施工着手：2013年1月
- 総事業費：約1,100億円

9

# その他情報提供

## （吉田川流域・高城川流域）流域治水の取り組み

### 特定都市河川・特定都市河川流域図

| | 鳴瀬川水系吉田川等 | 高城川水系高城川等 |
|---|---|---|
| 流域面積 | 350km² | 120km² |
| 指定河川 | 吉田川、堤川、味明川、滑川、身洗川、五輪沢川、苗代沢川、西川、小西川、明石川、長柴川、板坂川、善川、奥田川、荒屋敷川、埋川、沓掛川、焼切川、樫田川、竹林川、宮床川、小野川、明通川、洞堀川、南川、荻ヶ倉川［計26河川］ | 高城川、新川、田中川、穴川、鶴田川、広長川、深谷川、大迫川、小迫川、新堀川［計10河川］ |

10

## （吉田川流域・高城川流域）あらゆる関係者との連携による流域治水を推進

地域を"みず"から守る、"流域治水"

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

【位置図】

『わたしたちの森づくり事業』
（宮城県）
森林整備への参画を希望する団体に対し、県有林の命名権を譲渡し、地球温暖化対策とした森林整備を推進

［カメイ株式会社］（カメイの森：大和町）

［トヨタ紡織東北株式会社］
（トヨタ紡織グループ『環境の森』大衡）

［三菱電機株式会社東北支社］（大和町）

上流域における山林の保水能力保全の取り組み

流域治水部会設置・議論 → 特定都市河川申請・指定 → 協議会実務者会設置 → ○取組施策の提案 ○取組効果の確認 ○協働体制の確立　等 → パブコメ関係機関協議 → 計画策定協働実践

○吉田川・高城川流域の流域水害対策計画は、従来の河川・下水道のほか、上流域を中心とした森林保全関係者、ため池・水田貯留などの農業関係者、避難路として機能する道路管理者、工業団地の進出企業、地域住民などあらゆる関係者が一つとなり、協働で地域を"みず"から守り流域全体の持続的発展を目指すもの。
○現在、自治会等の地域団体、農業関係法人、工業団地内の企業、森林保全に取り組む民間企業などを中心に、流域治水への継続支援に関する訪問説明を展開中。
○今後も各自治体と協働であらゆる関係者への"流域治水への理解度向上"に努めていく。

仙台北部工業団地内企業への説明

「ミドリアート山崎」との勉強会

「農事組合法人 天神ファーム」との勉強会

流域水害対策協議会実務者会議

【流域治水の推進に向けて】

＜行政側の取組施策案＞

| | |
|---|---|
| ○河川整備 | ○既存道路の嵩上げ検討 |
| ○下水道（雨水）整備 | ○既存防災調整池の保水遊水機能の保全 |
| ○国営総合農地防災事業 | ○土地利用・住まい方の工夫 |
| ○水田貯留（田んぼダム） | ○貯留機能保全区域の設定方針 |
| ○農業用排水施設の遠隔化 | ○雨水浸透阻害行為の許可 |
| ○ため池の活用 | ○ソフト対策関係の強化 |
| ○雨水貯留浸透施設整備 | ○命と生業を守る流域のサポート施策 |

＋

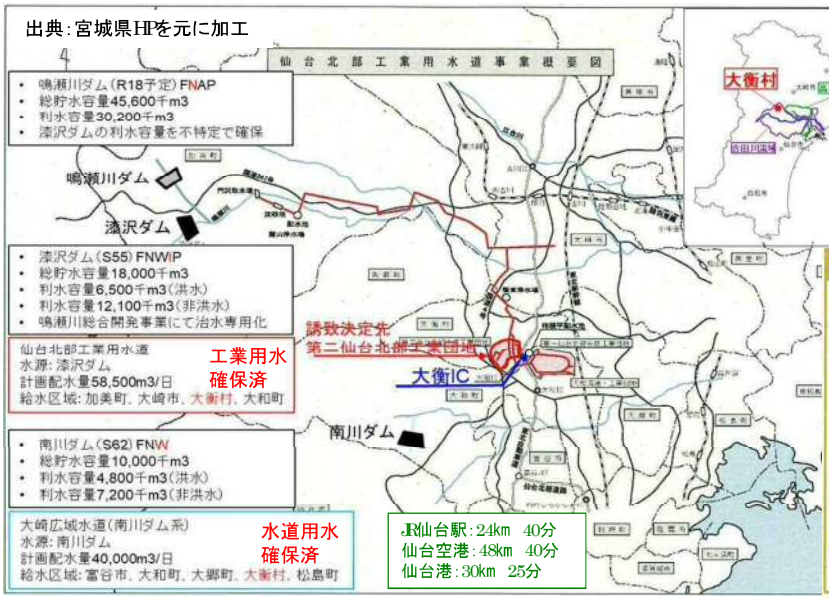
地域住民や企業も協働で参加する取組施策

11

# 第二仙台北部工業団地への半導体企業誘致について

- 令和5年7月にSBIホールディングスと台湾PSMC社が設立した半導体工場建設準備会社JSMC社が国内での工場建設予定を公表。全国31箇所の誘致候補地から、宮城県大衡村にある「第二仙台北部工業団地」が選定され、10月31日に発表。（投資規模：約8,000億円。就業予定者：約1,200人）
- 発表後に行われたSBIの北尾社長の発言では、▼確保できる用地の広さ、▼水や電気、ガスなどのインフラ、▼空港や高速道路などとのアクセスなどの視点から候補地を絞り込んだ模様。
- 当該地区は、宮城県と東北地方整備局が中心となる「工業団地整備や河川、ダム、道路、空港、港湾」のインフラ整備が計画的に投資されていたことも誘致の大きな要因。（今後、鳴瀬川ダム建設により渇水対応力向上が期待）

出典：宮城県HPを元に加工



12

# （仮称）富谷市成田二期北土地区画整理事業

- 平成îð年ïð月íï日付、土地区画整理組合設立準備委員会から宮城県知事あてに県条例に基づく環境影響評価方法書が送付され、平成îï年ì月é日付で意見書が準備委員会あて送付。（土地区画整理事業（第ï種）：開発規模ïççœ¿）
- その後、令和ë年ï月ïî日付、土地区画整理組合準備委員会から宮城県知事あて、手続き再開を通知。
- 令和ê年ï月ç日の報道では、早ければîðîë年度の造成開始を見据え、本格的な手続きを開始。（宮城県内ì番目の開発規模）
- 今後は、文化財調査や県条例に基づく環境影響評価「準備書」「評価書」の手続きに、最低ï年程度要する状況。
- 予定地は、仙台北部道路富谷JCTの北側に近接し、第一仙台北部中核工業団地や台湾の半導体受託生産大手・力晶積成電子製造（PSMC）の新工場予定地の第二仙台北部中核工業団地に約ëkm～十数μ³ と近い距離に位置。
- 吉田川右支川の西川流域にあり、今後も宮城県土木部河川課、富谷市、大和町など関係機関と情報共有を図る予定。

13

## 「令和6年能登半島地震」TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）
## 北上川下流河川事務所派遣隊員　活動状況

令和ê年ï月ï日の「令和ê年能登半島地震」により、被害状況調査のため北上川下流河川事務所はÌÚÝóÚÑÎ ÝÛ被災状況把握班（砂防）を派遣。 石川県珠洲市内の土砂崩れ等被災箇所の調査を実施。

### ■北上川下流河川事務所 派遣実績（R6.1.25時点）

| 派　遣　班 | | 班数 | 人数 | 派遣先 | 出発日 | 帰還（予定）日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第1陣 | 被災状況調査班（砂防） | 1 | 4 | 石川県珠洲市 | 1月11日（木） | 1月19日（金） |
| 第2陣 | 被災状況調査班（砂防） | 1 | 4 | 石川県珠洲市 | 1月18日（木） | 1月26日（金） |
| 第3陣 | 被災状況調査班（砂防） | 1 | 4 | 石川県珠洲市 | 1月25日（木） | 2月 2日（金） |

### ■令和6年能登半島地震 被害状況 【R6.1.19北陸地方整備局発表資料より】

**土砂災害発生状況**

令和6年1月18日8時00分時点

**道路被災状況**

令和6年1月18日7時00分時点

14

## 「令和6年能登半島地震」TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）
## 北上川下流河川事務所派遣隊員　活動状況

### ■珠洲市内土砂崩れ等被災状況調査

珠洲市役所で調査箇所の確認

被災状況調査

### ■災害協定団体との協働

【TEC-FORCE活動報告 R6.1.9北陸地整】

【金沢河川国道事務所道路情報室X(旧twitter)R6.1.5記事】

道路啓開（崩落土砂の撤去）作業等

15

**河川行政の取組報告③**

**「北上川5ダムの最近の話題」**

**北上川ダム統合管理事務所 所長　小田桐 淳司 氏**

皆さん、こんにちは。北上川ダム統合管理事務所長の小田桐でございます。

先ほど、船が出なかったのは、もしかしてうちのダムのせいなのかなとちょっと思ったりもしましたが、今後は何ができるか、少し考えたいと思います。今日は、北上川五大ダムの最近の話題ということでちょっとお話しさせていただきます。

皆さんはご存じかと思いますが、五大ダム、四十四田、御所、湯田、田瀬、胆沢の５つの国が管理するダムでございます。こちらのダムは長年にわたって流域の治水・利水に貢献してきたということで、古いものだと田瀬ダムが今年完成から 70 年になります。それから、湯田ダムが 60 年になるということで、非常に歴史あるダムでございます。今日は北上市長もいらっしゃっていますが、御所ダムの水が北上工業団地で昨年から取水されているというところもございまして、北上市とはそういったゆかりもございます。

それで、この五大ダムの最近の雨の傾向を、特に四十四田ダムと御所ダムですが、10 年単位で見ていきますと、雨がだんだん増えてきています。それに伴って流入量が増えているというようなことになっています。特に平成 25 年は計画を超えるような、大きな洪水も発生しているというような傾向でございます。

そういった状況がございまして、北上川上流ダム再生事業ということで、四十四田ダムで堤体をかさ上げしまして、容量を 1.2 倍に増やすというような取組も今行っております。

先ほど南先生から、盛岡市に浸水域があるということでしたが、そういった意味でこのような事業をやりながら、治水安全度を高めていくというようなことも今取り組んでいるところでございます。

続いて、見える化ということで、こういったダム再生あるいは管理を知っていただくために、Ｘなどを使っていろいろと情報発信してございます。やっとこの前フォロワー数が 2,000 いきまして、この前まで 1,000 とか数百でしたが、毎日１件以上更新していますので、皆さんに見ていただければ、職員のモチベーションアップにもつながりますので、ぜひご覧いただければと思います。それから先ほどちょっとチラシのお話がありましたが、２月 12 日に「雨そな」ということで、今後の気象を考える、水害への備えを考えるということで、プラザおでって、で開催します。実はチラシでいくと、２月２日締切りになっているのですが、まだ空きがございますので、ぜひご関心のある方はお越しいただければと思います。まだチラシもあるかと思います。

続いて、新たな取組としてハイブリッドダムというものでございます。こちら、カーボンニュートラルの取組ということなのですが、ダムの容量的には、ちょっと分かりにくいですが、有効貯水量としか書いてないですが、この中で治水の分と利水の分というのが実は決まっていまして、そこを本来はそれぞれ使うのですが、洪水が起こりそうなときは利水分を下げて、容量を大きく使って洪水を貯めます。貯まった後、その水を発電に使う、ハイブリッドに使うという取組をやっていまして、さらに増電した電気をうまく何かしら地域の振興に使えないかというような取組も含めて三本柱で今やっているところでございます。

今年も取り組んでおりますが、令和４年度の例で

いくと四十四田ダムで洪水の、最後の部分を一気に下げるのではなく、まだ少し洪水が多い部分で貯めて、発電の効率を上げて増電を図るというようなことを四十四田ダムでやっています。次に胆沢ダムですが、こちらの水位を超えると、ダムの洪水吐きから、自然越流しますので、これが使われないまま海に行ってしまうものですから、これを何とかうまく使えないかということで、融雪が来る前に水位を下げておきます。そうすると、この時期ふだん流入する水が少ないものですから、発電も少ないのですが、下げる部分で量を増やして増電するというようなことをやっています。

こういったことで、カーボンニュートラルとして気候変動にも少し寄与するようなことも考えていますし、今後は増電した分をどのように地域に貢献していくかというのを今考えているところでございます。

続きまして、ダムを活用した地域活性化ですが、ご存じかと思いますけれども、水源地域はどうしても山間地ということもございまして、人口減少であるとか、高齢化とか進んでおりまして、活力がちょっと失われつつあります。水源地域ではダムを造るときに移転していただいたり、いろいろご協力いただいていていますが、一方で恩恵というのは、実は治水も利水も下流側ということもございますので、私ども何とか水源地域を盛り上げていくということを考えていきたいなと思って、やっているところでございます。

例としまして、先ほどかわまちづくりというお話も出てきました。内田さんのお話の中にも水没林だとか、カフェだとか、そういった話も湯田ダムで出てきましたが、この湯田ダムの上流でこういったすばらしい資源、温泉も含めていろんなものがございます。ダムの本体もありますし、貯砂ダムもございますので、こういったものをうまく使って賑わいのある水辺をつくっていけないかなと思っています。例えば湯本地区ですと、温泉街なのですが、温泉に来た方が湯上がりに涼んでもらうとか、あるいはここにオセンという激安スーパーがありまして、秋田県からとかも来るのですが、スーパーに来た方にお弁当を持って水辺で食べてもらう、あるいは食材を買って、例えばバーベキューをやったり、芋の子をやったり、そういったメッカになればなと思っていろいろ考えているところです。

それで、これは岩手のお話にもありました、オープン化の話です。胆沢ダムについても、先ほど内田さんの話で胆沢カヌー競技場が下流にあって、交流館があって、胆沢ダム、ここに私どもの管理支所、ものしり館というのがございますが、年間大体６、７万人が来るということもございまして、例えば、ここで１人 1,000 円使ってもらえれば、それなりの金額になるだろうと思います。その売上げの一部を、例えば地域の活性化に回してもらうとか、そんなアイデアができないかなということで、今、奥州市と一緒になって考えているところでございます。

続いて、五大ダムのイベントということで、いろいろ各ダムで取り組んでおりますが、こちらに写真をつけておりますが、この中で代表例といたしまして、胆沢ダムではダムフェスということで、これは秋や夏にもやっているのですが、堤体登山をやったり、巡視船に乗ったり、それから構内で土地改良区の収穫祭をやって物販したり、あるいは下流側にあるこちらの温泉施設のところに、キッチンカーに集まっていただいて、やけいしマルシェをやるとか、そういったことで多くの方が訪れるというようなイベントをやっております。

あともう一つ、胆沢ダムが昨年 11 月で完成から 10 年になりましたので、奥州市出身の漫画化にデザインいただいて、記念カードというものを作りました。こちらがそれなのですが、こちらは、もう期間は終わりましたけれども、これを持っていけば、地

域の店舗で何かしらサービスを受けられるということで、ダムの宣伝にもなり、地域にも少し貢献できればというような取組もやってございます。

これは新しい取組として、県立博物館の五大ダムのテーマ展というのを昨年やってみました。２か月間ぐらいやったのですが、大体、期間中に１万人を超えるような方がいらっしゃったということもありますので、今後もいろいろ考えていきたいと思います。

いずれにしましても、水源地域を何とか盛り上げていくために、下流の方々と連携しながら、また交流を図りながら、いろいろと地域をよくしていきたいと思っています。

引き続き皆さんと連携しながら取り組んでまいりたいと思っていますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

令和5年度 北上川「流域圏」推進交流会議

# 北上川五大ダムの最近の話題

令和6年2月3日

北上川ダム統合管理事務所

国土交通省

*Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism*

## 北上川五大ダムの概要

国土交通省
北上川ダム統合管理事務所

○北上川上流（岩手県内）では、五大ダムの流域が占める割合が4割強。五大ダムの管理が北上川の治水に大きく影響。
○長年にわたり流域の治水・利水に貢献。⇒土木遺産認定

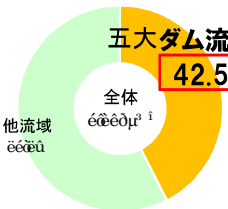
【御所ダム(S56竣工)】
流域面積：635km²

【湯田ダム(S39竣工)】
流域面積：583km²

【胆沢ダム(H25竣工)】
流域面積：185km²

【四十四田ダム(S43竣工)】
流域面積：1,196km²

【田瀬ダム(S29竣工)】
流域面積：740km²




北上川上流域（岩手県内）で五大ダム流域が占める割合

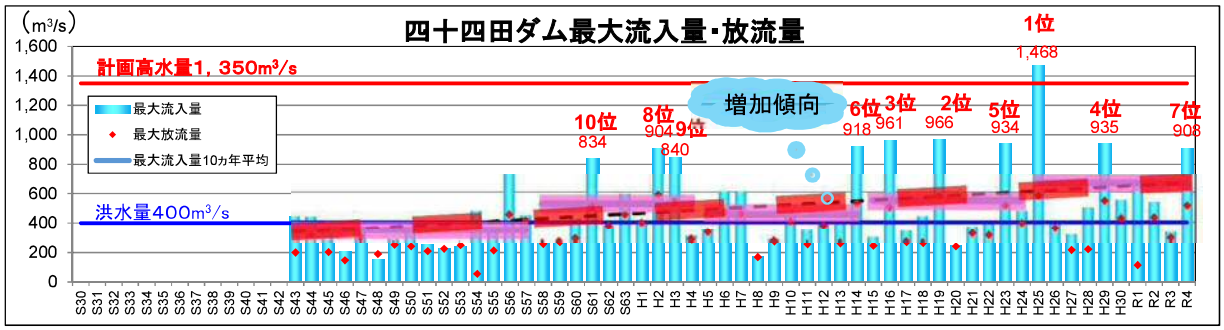
流路延長：249km（全国５位）
流域面積：10,150km2（全国４位）

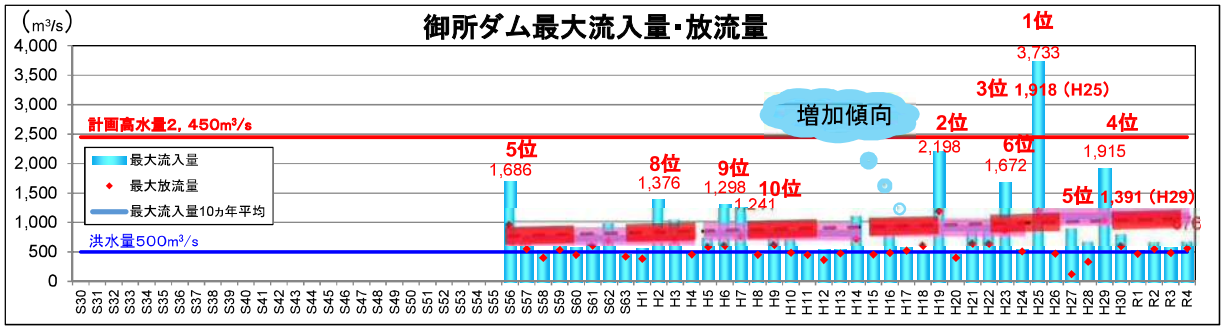
1

# 近年の大雨の傾向（四十四田ダム・御所ダム）

国土交通省
北上川ダム統合管理事務所

- **四十四田ダム・御所ダム**では、平成25年に管理開始以降最大の流入量を記録するなど、大規模な洪水が頻発。
- **四十四田ダム・御所ダム**の最大流入量の**10ヵ年平均**を見ると、**増加傾向**。





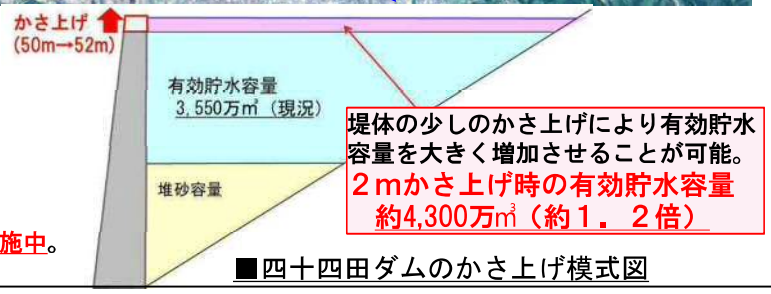

# 北上川上流ダム再生事業の概要

国土交通省
北上川ダム統合管理事務所

○北上川上流ダム再生事業は、盛岡市街地の洪水被害軽減を目的として、四十四田ダムのかさ上げ（現況の洪水調節容量から750万m³増強）と、御所ダムの操作規則変更（洪水調節開始流量 を500m³／秒から600m³／秒に変更を検討中）を実施。

【四十四田ダム】
- ●ダム型式：コンクリート・アースフィル複合
- ●ダム高：50.0m
- ●ダム長：480.0m
- ●着工／竣工：S37年／S43年

※R元より実施計画調査に着手。調査・設計等を実施中。




■四十四田ダムのかさ上げ模式図

## 北上川上流ダム再生事業の広報（見える化）

国土交通省
北上川ダム統合管理事務所

■「X(旧Twitter)」を活用した見える化

○地域の方々にダム再生や管理の仕事を知っていただくため、「X」を活用した見える化を実施。
○若手職員、期間業務職員が主体となり、1日1回以上の情報更新。
⇒ ・報道機関、地域からの反応が職員のモチベーション向上にもつながっている。

令和５年１月１３日配信

■「『杜と水の都・もりおか』雨そな※100年トーキング」

○県都盛岡市の発展に寄与してきた治水対策のこれまでを振り返るとともに、気候変動下における気象の動向、水害への備えなどについて、地域の皆さんと一緒に考えることを目的に令和4年度より開催。

・開催時期： **令和6年2月12日（祝）**

・開催場所： **プラザおでって（盛岡市）**

※「雨にそなえる」の略。

4

## 既設ダム運用高度化の取り組み（ハイブリッドダム）

国土交通省
北上川ダム統合管理事務所

○国土交通省では、近年の気候変動の影響による水害の激甚化・頻発化を踏まえた治水対策とともに、2050年カーボンニュートラルに向けた取組を加速させるため、治水機能の強化と水力発電の促進の両立に加え、ダムが立地する地域の振興にも官民連携で取り組む、「ハイブリッドダム」の取組を推進。

**課 題**　水害の激甚化・頻発化 / カーボンニュートラル社会の実現 等

**政策目標**

| 治水機能の強化（国等） | × | 水力発電の促進（民間） | × | 地域振興（民間・自治体） |
|---|---|---|---|---|
| ・運用高度化による治水への有効活用<br>・放流設備の改造・嵩上げ、堆砂対策 | | ・運用高度化等による増電<br>・発電施設の新設、増強 | | ・発生した電力を活用したダム立地地域の振興 |

【ハイブリッドダムの推進方策】
・最新の技術：**最新の気象予測技術・ダム改造技術**によるダム運用の高度化
・連携体制：**官（国・自治体等）と民（多様な民間企業）の連携**
・ダム容量：治水と発電が両立できる容量（**ハイブリッド容量**）の考え方の導入

⇒ **官民連携の新たな枠組みによりハイブリッドダムを推進**

■北上川ダム統合管理事務所の取組状況（令和４年度）

○四十四田ダム　⇒　洪水後期放流の活用

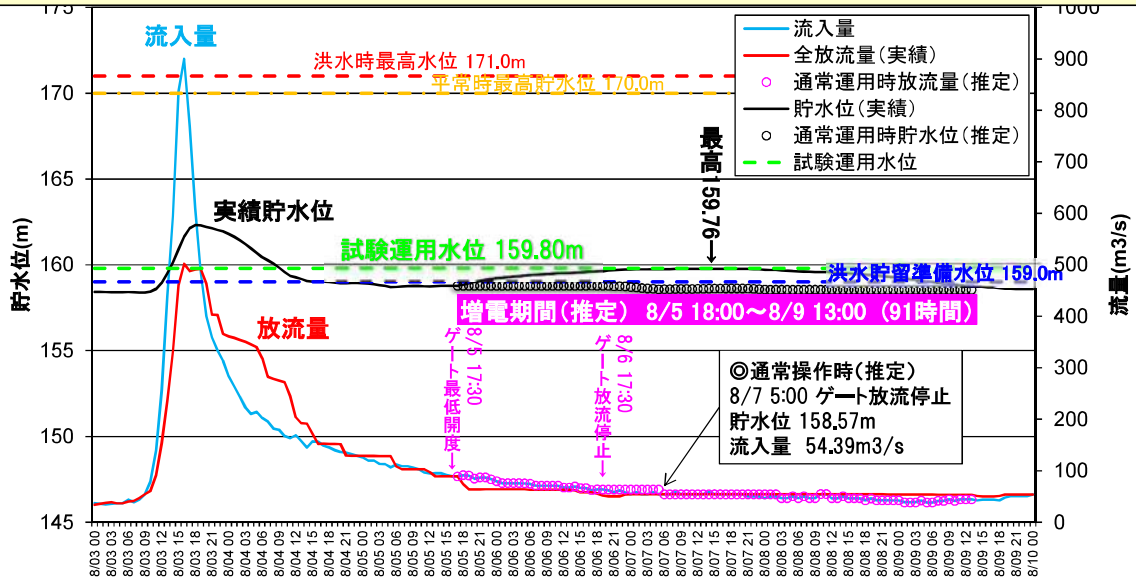
○胆沢ダム　⇒　融雪水の活用　※令和５年の融雪期

5

# 四十四田ダムにおける洪水後期放流の活用（試行）

国土交通省
北上川ダム統合管理事務所

○ 令和4年8月3日、前線に伴う降雨により、四十四田ダムにおいて最大流入量908m³/s（ダム完成後54年目で7番目）の洪水が発生。
○ その後、まとまった降雨が見込まれないことから、洪水後期放流を活用した増電の取組を実施。
○ 予測を行いながら、8月5日にゲートを最小開度に絞り、8月6日にはゲートを全閉。この操作により、貯水位を76cm（運用幅80cm）、91時間上昇させ、増電に寄与。
○ この結果、通常運用に比べ一般家庭約300世帯の1ヶ月の消費電力に相当する80Mwhの増電効果があったものと推定。

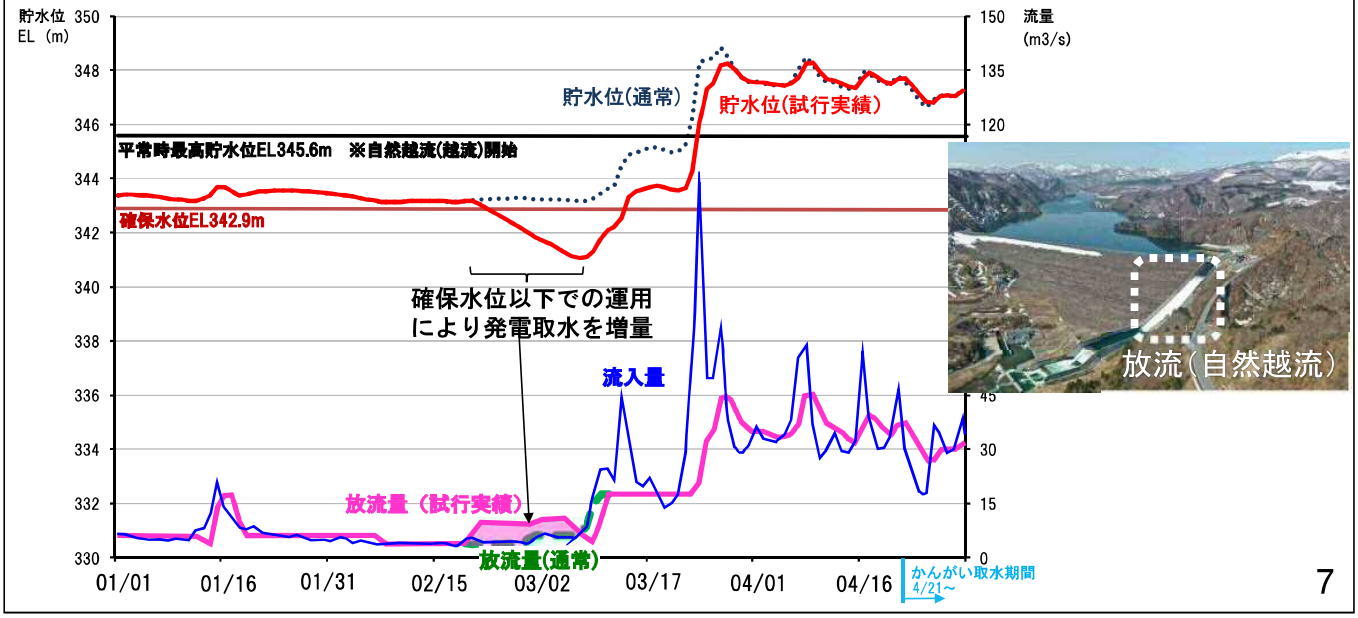



6

# 胆沢ダムにおける融雪水の活用（試行）

国土交通省
北上川ダム統合管理事務所

○ 胆沢ダムでは3月から5月にかけて、融雪水により流入量が増加し、平常時最高貯水位を超過した水が自然調節方式により、未活用のまま下流へ、毎年約1億m³放流（自然越流）。
○ 冬期に十分な降雪が有り、渇水のおそれがないことを条件に、運用目安水位を特別に低くし、融雪期前に発電取水によって貯水位を低下させ、増電する取組を試行。
○ R5年は水位を2m下げた結果、通常の運用に比べ、一般家庭約3,600世帯の1ヶ月分の消費電力に相当する937Mwhの増電効果があったものと推定。




7

# 五大ダムを活用した地域活性化の取り組み

国土交通省
北上川ダム統合管理事務所

○**ダムや周辺の資源を活用**し、**地域と連携してダム水源地域の活性化**に向けた取り組みを推進。
⇒ ・御所ダムは、年間約75万人が利用（全国の国管理ダムの中で2位）。
・**四十四田ダム、湯田ダム、田瀬ダム、胆沢ダム**において、取り組みを展開。

## ■湯田ダム

・ダムからのクレスト放流、貯砂ダムのライトアップなどが観光資源として地域に貢献。
・引き続き、町と国が連携し、「西和賀地区かわまちづくり」に取り組む（貯砂ダム近傍に親水護岸を整備等）。

豪快な春の「クレスト放流」

ライトアップが「日本夜景遺産」認定

## ■四十四田ダム

・地域の住民や団体が主体となり、以下のイベントを実施。
・国も場所の提供、関連イベントの実施等の支援。
①さくらまつり　4／23開催　約2，500人が来場
②キャンプイベント、薪割り体験、花火大会　4／22開催

さくらまつり

ダム堤体でのキャンプ（初開催）

※7／23　北上川ゴムボート下り開催。

## ■胆沢ダム

・R5．4に奥州市と「モンベル」が協定を締結し、今後、奥州湖やカヌー競技場等を活かした地域活性化を図っていく予定。
・今後、市と国が連携し、「河川空間のオープン化」に取り組む。

奥州いさわカヌー競技場

## ■田瀬ダム

・水面利用が盛んであることから、湖面利用ルールを策定し、周知を図りながら、さらなる利用促進に取り組む。

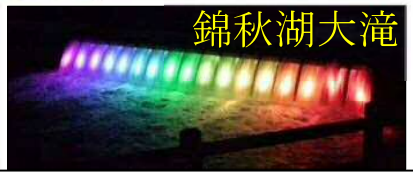
湖面利用ルール看板

水面利用の状況

8

# 西和賀町かわまちづくり　～湯田ダムと周辺の資源～

国土交通省
北上川ダム統合管理事務所




○湯田ダム周辺には、ダムに加え、錦秋湖大滝、温泉、カフェや道の駅、豊かな自然や貯水池などを活かしたアクティビティなど、観光資源が豊富。
⇒これらの観光資源と一体となって来訪者が集い・楽しめる水辺空間づくりを目指す。

9

## 西和賀町かわまちづくり　～湯本地区のイメージ～

国土交通省
北上川ダム統合管理事務所

○湯本地区では、交流館付近で水辺を整備
○温泉や来訪者が多いスーパーから人の流れをつくる

10

## 胆沢ダムの「オープン化」に向けた取り組み

国土交通省
北上川ダム統合管理事務所

○オープン化することで、民間事業者が河川空間で営業活動ができ、持続可能な賑わいのある水辺の創出を目指す。

【活用例】
- 産直、物販
- 軽食カフェ
- キッチンカー
- 各種イベント
- アウトドア体験

11

# 五大ダム関連の主なイベント等（令和5年）

国土交通省
北上川ダム統合管理事務所

【四十四田ダム】
- ○4月22日　さくら放流・ライトアップ
- ○4月23日　四十四田ダムさくらまつり、ダム探検隊
- ○7月23日　北上川ゴムボート川下り
- ○8月5日　バックヤードツアー、たいけん！ダムのしごと
- ○10月21日　オーダムまつり

北上川ゴムボート川下り

【御所ダム】
- ○4月22日　さくら放流
- ○7月30日　御所湖まつり、堤体登山＆バックヤードツアー
- ○11月3日　御所ダム交流会

田瀬湖湖水まつり(Eボート)

御所湖まつり(水上花火)

【田瀬ダム】
- ○7月22日　田瀬ダム森林探検隊
- ○7月29・30日　田瀬湖 湖水まつり

【湯田ダム】
- ○5月27日　錦秋湖 湖水まつり
- ○7月21日　水源地見学会
- ○8月20日　錦秋湖大滝ライトアップ・サマーライト花火

錦秋湖大滝ライトアップ

【胆沢ダム】
- ○8月3・4日　ダムフェス in 夏
- ○10月14・15日　ダムフェス in 秋
- ○11月16日～　竣工10年記念カード（令和6年3月末まで）

【五大ダム】
- ○6月10日～8月20日　岩手県立博物館合同テーマ展「北上川五大ダム探検大作戦」

12

# 「胆沢ダムフェス 2023 in 秋」を開催

国土交通省
北上川ダム統合管理事務所

○10月14日（土）、15日（日）に『胆沢ダムフェス 2023 in 秋』を開催。
○開催中の来訪者は、延べ1,500人を記録。胆沢ダム1階展示室にも多くの方が来館。
○15日は、悪天候により堤体登山や奥州湖カヌーレイクツーリングなどが中止、湖面巡視体験会も15日の11時30分の回以降が中止になったが、7～80才代までの42名が参加。
○今回のイベントで新たに開催された胆沢平野土地改良区の「収穫祭コーナー」では、新米プレゼントや縁日コーナー、ひめかゆの「やけいしマルシェ」では、キッチンカーやクラフト雑貨など県内外の店舗が出店され、来場者の方々に楽しんでいただいた。

ダム湖面巡視体験会

ダム堤体登山体験会

胆沢平野土地改良区
収穫祭コーナー

やけいしマルシェ
（キッチンカー）

地域特産品などの物販

登山認定証

13

## 胆沢ダム竣工10周年記念カード

国土交通省
北上川ダム統合管理事務所

○令和5年11月16日で、胆沢ダムが竣工から10年を迎えた。
○これを記念して、「記念カード」を期間・枚数限定で無料配布。
○郷土出身で奥州大使に任命されている漫画家の「吉田戦車」氏にデザインいただいており、このカードの提示により、連携店舗においてサービス提供が受けられる取り組みをあわせて実施。

**【カード配付期間】 令和5年11月16日～令和6年3月31日**
**※無くなり次第、終了。**

**【サービス提供期間】 令和5年11月16日～令和5年12月28日**
**・10店舗が参加。**
**・奥州市、奥州市観光物産協会胆沢支所と連携し、胆沢ダム及びダム下流域の地域活性化を目的として試行。**

14

## テーマ展「北上川上流五大ダム探検大作戦」

国土交通省
北上川ダム統合管理事務所

○岩手県立博物館と連携し、テーマ展を開催。

【日時】 令和5年6月10日（土）～8月20日（日）

【会場】 岩手県立博物館　特別展示室ほか

【主催】 ・岩手県立博物館
・公益財団法人岩手県文化振興事業団
・国土交通省北上川ダム統合管理事務所

【内容】 ・5大ダムの成り立ちと役割をパネル解説
・建設時の図面や記録写真などの遺物や建設時に発見された出土品などを展示
・岩手県立博物館との各種コラボイベント

展示風景

各ダム3D模型

田瀬ダムジオラマ模型

喫茶ひだまり（1日10食）
オリジナルダムカレー

○期間中には、1万人を超える方が来館。

15

**河川行政の取組報告④**

**「岩手県の流域治水の取組」**

**岩手県県土整備部河川課　総括課長**

**馬場　聡 氏**

岩皆さん、こんにちは。岩手県県土整備部河川課の馬場と申します。

私から、流域治水の取組と書いておりますが、北上川水系のほか、県内の各河川等で行っている様々な取組についてご紹介したいと思います。

まず初めが、これまでも各事務所から出ています流域治水という取組です。山から川、それから流域の中に住んで生活してらっしゃる方々、活動されている方々と、あらゆる関係者が協働して取り組む、水災害の軽減等に一緒になって、同じ目的に向かって取り組んでいこうという取組をしています。

県内の一番大きな流域が北上川水系でございますけれども、岩手県には、青森県に流れていく馬淵川、それから秋田県に流れていく米代川、それから２級河川でも青森県に流れていく川、宮城県に流れていく川、そして三陸沿岸に流れていく、岩手県だけでおさまっている川と様々ありますけれども、全ての流域で流域治水を進めているところでございます。

右側にちょっと小さく書いていますが、こういった流域治水プロジェクトをそれぞれまとめまして、あらゆる関係者と一緒になって取り組んでいるというところです。

こちらはハードの河川改修の様子です。左側が改修前、右側が改修後なのですが、30mから 40mの川幅だったものを大体２倍に広げたというところです。２倍に広げますと、家屋の地権者の皆さんにも移転に協力していただきながら、河畔林、それからこういった河床も少し手をかけなければならないのですが、治水と自然環境の両立を目指しながら進めているということで、できるだけ河畔林を保全しよう、それから特徴的な岩の河床も保全して進めているということで、治水、環境、それから流域の皆さんの川の利用の形態もあまり変わらないような形で改修を進めているという例をご紹介いたしました。

それから、流域の皆さんには、皆さんが住んでいるところ、それからいつも活動しているところの洪水のリスクというものをぜひ知っていただきたいなと思っております。それぞれの河川管理者が、想定最大規模の降雨でどういったところが浸水するか、浸水の範囲、深さ、それから浸水する時間というものを表しています。こちらは、夏油川の事例でございますけれども、こういったものを発表しまして、北上市とか、そういった地元の市町村がハザードマップを作りまして、避難場所とか、そういったものも表しているというところです。

続いて、維持管理の取組です。皆様ご存じの内容かもしれませんが、岩手県におきましては県民との協働による維持管理をしていこうということで、河川のごみ拾いや草刈りの活動を支援するという取組をしています。名前は、「いわての川と海岸ボランティア活動等支援制度」ということで、河川だけではなくて、海岸も支援しているというところです。実際の内容は、軍手やごみ袋などの支援とか、保険等の支援といったものをしております。毎年申請が必要となりますけれども、お近くの振興局の土木部や土木センター等にお問合せいただければと思います。

ここからは、河川で管理している施設をこういうふうに利用していますよという事例を３つ紹介したいと思います。

こちらは、早池峰ダムと書いておりますけれども、花巻市の大迫町にあります北上川の支川の稗貫川の

ダム、早池峰ダムです。ダムの堤体の中を管理するために、監査廊という、ギャラリーと呼んだりしますけれども、そこに大迫町でエーデルワインというのが有名ですけれども、そちらの生産者の組合の方々からワインを貯蔵してみたいというお話をいただきました。令和２年度から取組をしています。こちらの温度は、年間通じて 10 度ぐらいということで、かなり温度が一定で湿度も適していると聞きます。ダムが平成 12 年に完成しまして、完成して、生まれてから 20 年たったということで、早池峰ダムも大人になったしということも関連あったかもしれませんが、ワインを貯蔵して、大迫の高校生がこういうふうに卒業前にタイムカプセル的な形で、二十歳になったらみんなでワインを開けようということで、そういった取組でワインを貯蔵してもらっている、こういう取組もしています。

それから、こちらは岩手県の県土整備部全体で、今大きな社会の課題となっている人口減少対策について、土木施設として何かできることはないかということで、公園等、そういった子育て世代に使っていただけるものをまとめて紹介したものになっています。河川とかダム、そのほかに道路や都市公園、砂防の公園等もまとめておりますが、こういった内容で取りまとめていまして、県のホームページ等で紹介しておりますので、ぜひ見ていただいて、利用していただきたいなと思います。

最後ですけれども、こちらは北上川水系の話ではないのですが、交流人口の拡大と、震災の事実と教訓の伝承ということで、ダムにはダムカードというものがありますが、水門・防潮堤カードというものを、昨年４月から、沿岸のほうの道の駅で配布しております。道の駅に行かないともらえないということで、各市町村に位置する水門、防潮堤は、その市町村内の道の駅でしかもらえないということで、いろんなところを回らないと集められないということで、そういったところでいろんな場所に行って、お金を落としてもらって、地域の活性化につながればいいなと考えています。県では、このほかに、宮古盛岡横断道路の中の橋梁、それからトンネル等の施設カードも作って、今配布しておりますので、ぜひ関心のある方は集めていただいて、道の駅等で一緒にお買い物をして、地域活性化、それから交流人口の拡大につなげていただきたいなと考えております。

以上で、私から岩手県の河川の様々な取組についてご紹介いたしました。治水、それから河川利用、それから地域活性化、いろんな面で取り組んでいきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## 流域全体のあらゆる関係者が協働して取り組む「流域治水」

あらゆる関係者が協働して行う「流域治水」のイメージ

### 流域治水推進行動計画

**（1）気候変動の影響を踏まえた治水計画や設計基準類の見直し**

- 河川整備基本方針、河川整備計画等の計画の見直し
- 気候変動予測モデルの高度化

**（2）流域全体を俯瞰した総合的かつ多層的な対策**

①ハザードへの対応
- 河川堤防、下水道による雨水貯留・排水施設、砂防関係、海岸保全施設の整備、治水ダム建設・再生
- 利水ダムを含む既存ダムの洪水調節機能の強化
- 流域の雨水貯留浸透機能の向上　・戦略的な維持管理

②暴露への対応
- リスクの高い区域における土地利用・住まい方の工夫
- まちづくりや住まい方の工夫に必要な土地の水害リスク情報の充実

③脆弱性への対応
- 水災害リスク情報の充実・提供　・避難体制の強化
- 避難行動を促すための情報・伝え方　・安全な避難先の確保
- 広域避難体制の構築　・経済被害の軽減
- 金融・保険業界に対する水害の回避・被害軽減のための情報提供
- 関係者と連携した早期復旧・復興の体制強化

**（3）事前防災対策の加速**

- 流域治水プロジェクト等による事前防災対策の加速化
- 防災まちづくりに取り組む地方公共団体を支援
- 農業水利施設の新技術の活用による防災

**（4）防災・減災が主流となる社会に向けた仕組みづくり**

- 防災・減災の日常化
- 規制手法や誘導的手法を用いた「流域治水」の推進
- 経済的インセンティブによる「流域治水」の推進
- 流域治水の調整を行う場の設置　・グリーンインフラの活用

2

## 「流域治水」の全県展開　県内の全水系において「流域治水プロジェクト」を策定中

▼県内の「流域治水プロジェクト」策定状況

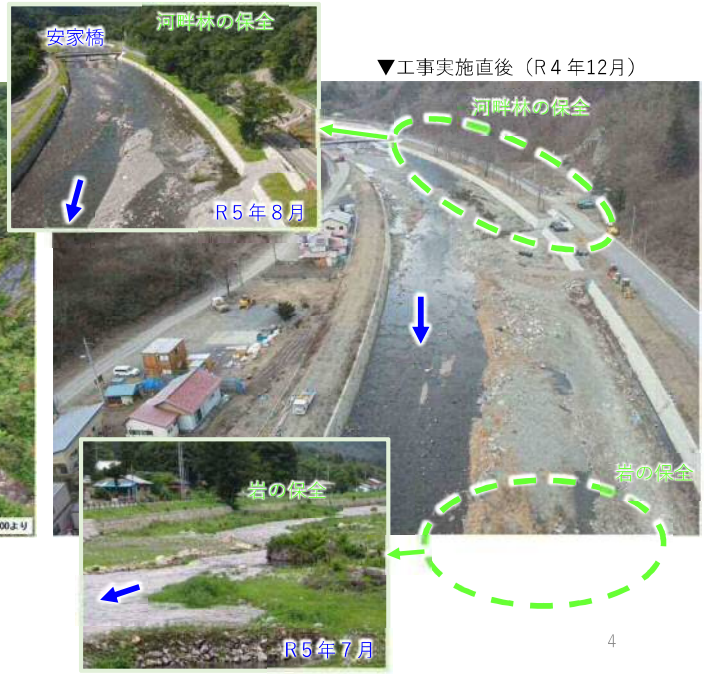
▼「流域治水プロジェクト」の例（岩泉町小本川）

3

## 河川改修の推進　平成28年被災の安家川（岩泉町）では、多自然に配慮しながら川幅を拡幅

▼工事実施前（H28年９月）

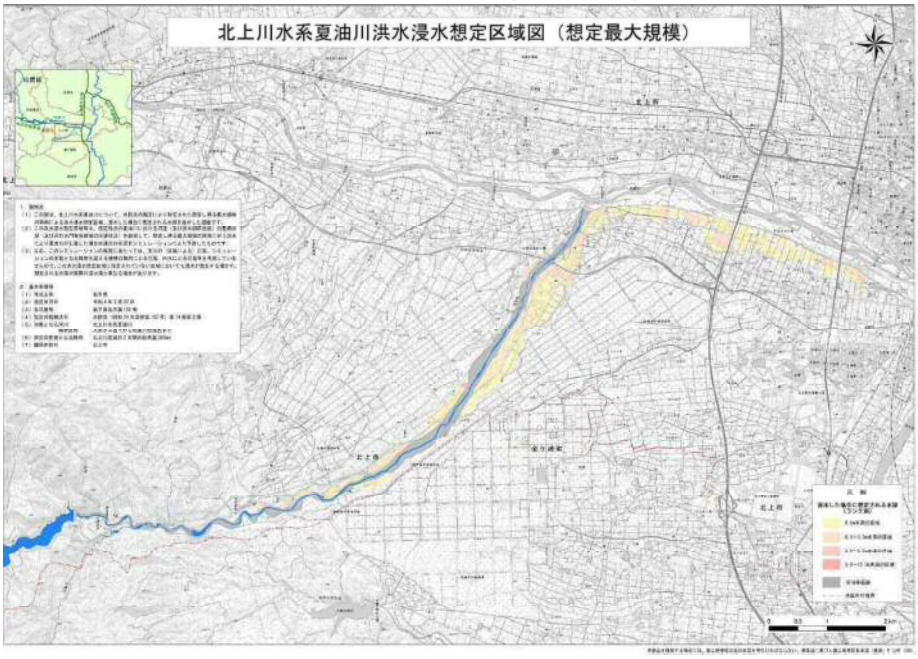
▼工事実施直後（R４年12月）




4

## 洪水リスク情報の充実強化　想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域の公表を推進

▼夏油川洪水浸水想定区域図（想定最大規模）




※　和賀川（北上市）は、令和５年度内に指定予定

5

## 県民との協働による維持管理の推進　河川のゴミ拾いや草刈の活動を県が支援

# ボランティア募集！！

**いわての川と海岸ボランティア活動等支援制度のお知らせ**

岩手県では、県管理の河川や海岸で、「ごみ拾い」や「草刈り」などの活動をボランティアで行ってくださる方々を支援しています。

いわての『自然豊かな川』や『美しい海岸』を一緒に守っていきませんか？

**～制度の概要～**

◆参加資格や活動を行う区域　　１０人以上の団体で１００ｍ以上の区間での活動を支援します。

◆支援する内容

・軍手、ゴミ袋、草刈機の替刃、燃料などを、物品または現金で支給します（上限あり）。

・ボランティア活動保険等への加入費用を一部補助します。

・収集したごみ等の運搬に使用するレンタカー料金を一部補助します。

・一定期間活動して頂いた場合、団体名や活動区間等が書かれた看板の製作を行います。

◆制度の利用

いつでも募集していますので、お気軽にお問い合わせください。

（制度を利用するときは、届出書などが必要です。）

**お問い合わせ・お申込みは**
**お近くの振興局土木部、土木センターまたは県庁河川課まで**
**県庁河川課　電話番号　０１９－６２９－５９０３**

6

## 河川施設の利活用　早池峰ダムの堤体内にワインを貯蔵する試験的な取組

▼ダム堤体内のワイン貯蔵の状況

▼ワイン（二十歳のワインプロジェクト）

7

## 人口減少対策の視点からの河川　河川公園やダムを子育てに役立つ施設としてPR

8

## 交流人口の拡大、震災の事実と教訓の伝承　沿岸地区の道の駅等で水門・防潮堤カードを配布

9

**河川行政の取組報告⑤**

**「日本一長いみやぎの運河群の取組」**

**宮城県土木部河川課　課長　　長谷川 清人 氏**

皆様、こんにちは。宮城県土木部河川課長の長谷川と申します。

本日は、北上川流域にも一部接続されていますが、そこを少し超えて、南の阿武隈川までつながっています「みやぎの運河群」の取組につきましてご説明したいと思います。

本日、こちら５つの内容につきましてご説明差し上げたいと思います。

まず、運河群のご紹介です。北は旧北上川の河口から、北上運河、それで東名運河、これは鳴瀬のほうに東名運河、それでずっと下の南のほうにありますす貞山運河ということで、旧北上川から阿武隈川まで､約 49 ㎞の日本一長い運河群ということになっています。伊達政宗公の命によりまして舟運を目的として建設が始められまして、明治時代に完成しています。その後、県で河川改修なり、いろいろ手を加えていますけれども、基本的には昔のままの姿を残しているということです。

こちらは、震災が起こる前の運河の状況です。舟運の役目を終えた後、治水、流水という河川の役割に加えまして、豊かな自然環境であるとか、美しい景観の魅力を有する土木遺産として、多くの方々に愛されてきたというものです。

それで、東日本大震災の発生ということで、巨大な津波によりまして、運河だけではなくて、これは閖上地区ですけれども、こういうところで大きな被害を受けているというところです。こういう被害を受けまして、沿岸地域の復興における目標やそれを実施するための役割、それから方針としまして、平成 25 年度ですけれども、貞山運河再生・復興ビジョンというものを策定いたしました。その策定の基本理念としましては、「運河群の歴史を未来へと繋ぎ、運河群を基軸とした“鎮魂と希望”の沿岸地域の再生・復興」ということで、その基本理念を実現するために、４つの基本目標を掲げています。こちら、後ほどご説明差し上げます。

このページ以降、14 ページまで、復興の状況を載せていますが、本日は時間の都合上、説明は割愛させていただきます。後ほどご覧いただければと思います。

それでは、先ほど申しました貞山運河再生・復興ビジョンの基本理念の内容につきましてご説明いたします。

まず１つ目、地域にとって誇りのある歴史的な運河群としての再生ということです。こちら、北上運河の北のほうで、ちょうど釜閘門という、昔から閘門があったのですけれども、こちら震災の復旧工事で掘削等をしているときに、明治時代に造りました木造の閘門の遺構が出土されました。調査委員会を設置しまして、意見を踏まえまして、記録誌等に残しまして､それで埋設保存しているということです。

続きまして、基本目標の２つ目、自然災害に対して粘り強く強靭な沿岸地域の構築という点です。県では、東日本大震災の津波のような最大クラスの津波が来た場合でも、堤防が壊れにくいような、前はこういうところで壊れたのですけれども、震災後はもし壊れたとしても､すぐには壊れないような構造、なるべく時間を稼げるような、そういう構造にするということで、減災効果を持ったような粘り強い構造の堤防を造るということで、運河の堤防についても、こういう構造を採用することもあります。

次は、基本目標の３つ目の自然環境と調和し、共生できる運河周辺環境の保全・再生の推進というこ

とですが、こちら南側、ちょうどこれが阿武隈川なのですけれども、阿武隈川に合流する木曳堀、五間堀川にあります木曳堀ですけれども、こちらは松林が昔あったのですが、それがかなり喪失しました。ちょっと歯抜けになっているようなところがあり、津波で喪失してしまったということですけれども、生き残った部分もありましたので、そこの松を維持、保全する、一度被災して、害虫とかで弱くなったりしたので、そういうところを樹木医に見てもらって、薬注したりして、何とか延命させるというようなことであるとか、あとはここに書いているように、堤防を造る際に、本当であればこの松を撤去して堤防を造ればいいのですが、これを残すために堤防を少し後ろのほうに引いて、松をあえて水辺のほうに残して堤防を造るというような、環境に配慮した松林を造成するというような、そんな取組もしています。

こちら、宮城の運河に、復興のシンボルとしまして、桜植樹を行ったということです。こちら、桜植樹につきましては、こういう取組を皆さんにご紹介して、賛同された方からの寄附金を原資に、官民連携で平成 24 年度から桜植樹を実施いたしまして、昨年度、全て植え終わりました。沿川の 10 か所で約 800 本の植樹を行ったということです。

次に基本目標４つ目です。継続的な地域間の連携と未来に向けて発展できる社会環境の構築についてです。県では、平成 30 年度に復旧にご支援いただいた皆様への感謝を込めまして、沿川市町や民間団体とともに、「全国運河サミット in みやぎ」を開催しまして、その中で地域連携、民間連携を駆使して、運河を活かしたまちづくりを進めることを、サミット宣言として取りまとめたということです。こちらは、国土交通省にも随分ご協力いただいたところです。いわゆるかわまちづくりで、運河周辺で賑わいの創出なり、そういったものを官民連携として協力いただいているということです。

この写真は、震災復興が終わった後に、地域の方々が盛んに、こういう地域振興であるとか、賑わいを創出するような取組を行っていただいているということです。

こちら、運河の再生・復興ビジョンで復興は終わりましたということで、では復興後の取組はどうしましょうということで、民間の団体がまちづくりであるとか、地域活性化、賑わいづくりというものをさらに活性化させていきましょうということで、こちらは令和４年度です。学識者とか、関連行政団体で、みやぎの運河群利活用推進会議というものを設置しまして、その中で今後の利活用の在り方というのを先生方であるとか、行政、民間団体と方針であるとかというものを検討しています。併せて、民間団体の連携による実践の活動を拡大させましょうということで、こちらにありますけれども、宮城の運河群の連絡調整会議というものをつくりました。これは民間の方々の連携を中心に、活動をさらに広げていただきましょうという、実施部隊みたいなものを併せてつくって推進していきましょうということになりました。今現在、こちら８つの団体が、みやぎの運河群の推進会議に参加していただいています。本日も参加されているＮＰＯ法人ひたかみ水の里さんも参加されています。

こちら、様々な取組をされています。おのおのの取組の紹介は、今日はちょっと割愛させていただきますが、その中でこちら貞山運河ネットが中心となって、さらに先ほど申しましたひたかみ水の里、あと塩竈の御舟入堀プロジェクトという、この３つの団体が連携した取組というのが昨年始まりました。この連絡調整会議をきっかけに連携が始まった取組の１つです。先ほど北上川下流河川事務所長の斉藤所長からもございましたけれども、子供たちにふるさとの歴史を知っていただいて、体験していただきましょうということで、登米市の登米小学校の方が

作ったお米を、船で北上川を下っていただきました。北上川のそれこそかわまちオープンパークのところでも途中立ち寄ってイベントを行ってございました。さらにそこから松島湾、海まで渡って、それで運河を通って、最終的には多賀城の貞山運河まで運んでいただいて、皆様にお米を配るというイベントをさせていただきました。

こういう会議も開催し、推進会議のようなものをやることで、民間の協力が広がってきているということです。

県といたしましては、今後、歴史を未来へとつなぎ、みやぎの運河群沿川の継続的な発展に向けて、さらに取組を支援していきたいと考えています。

ちょっと駆け足で雑駁な説明になりましたけれども、私からの報告とさせていただきます。どうもありがとうございました。

宮城県

# 日本一長いみやぎの運河群の取組

令和5年度　北上川「流域圏」推進交流会議

令和6年2月3日
宮城県土木部河川課

## 目次

宮城県


1. 日本一長いみやぎの運河群とは
2. 東日本大震災の発生
3. 貞山運河再生・復興ビジョンの策定
4. 東日本大震災からの復旧・復興のあゆみ
5. みやぎの運河群利活用推進会議




## 1．日本一長いみやぎの運河群とは

### 1−1　日本一長いみやぎの運河群

宮城県

北上運河,東名運河, 貞山運河(御舟入堀,新堀,木曳堀の総称)は, 旧北上川から阿武隈川まで, 全長約49kmにわたり仙台湾沿岸を繋ぐ,「**日本一長い運河群**」です。

古くは舟運を目的として, 仙台藩主伊達政宗の命により建設が始まり, 明治政府による東北地方の産業振興策として計画された「野蒜築港事業」に関連して延伸されたもので, 現在では治水や利水といった河川の役割に加えて, 建設の歴史や, 周辺の豊かな自然環境, 美しい景観等の魅力を有する土木遺産として, 多くの方々に愛されています。

### 1−2　東日本大震災前の各運河群のすがた

宮城県

北上運河沿川の土木遺産
石井閘門

北上運河沿川の土木遺産
野蒜築港跡

貞山運河沿川の自然環境
新堀のクロマツ

貞山運河（木曳堀）沿いの
美しい松並木

運河群で開催されたイベント
北上運河ライトアップ

運河群で開催されたイベント
貞山運河フェスティバル

## ２．東日本大震災の発生

### 2　被災前後の状況

宮城県

＜位置図＞

北上運河（東松島市）

貞山運河（御舟入堀）
（多賀城市）

貞山運河（木曳堀）（名取市）

航空写真提供：（一社）東北地域づくり協会

4

## ３．貞山運河再生・復興ビジョンの策定

### 貞山運河再生･復興ビジョンの策定

宮城県

平成25年5月　「貞山運河再生･復興ビジョン」策定

- 沿岸地域の復興において“**目標**”とする姿や，それを実現するための仕組みを示す“**指針**”
- 様々な主体（国･県･市町･民間等）による復興事業が，“**調和**”をもって推進されるための“**羅針盤**”の役割を担う。

【基本理念】

運河群の歴史を未来へと繋ぎ，運河群を基軸とした“鎮魂と希望”の沿岸地域の再生･復興

基本方針

人と自然と歴史が調和した，人々が集う魅力的な沿岸地域の復興

自然災害に対して粘り強い，安全・安心な沿岸地域の再生

【４つの基本目標】

① 地域にとって誇りある歴史的な運河群としての再生
② 自然災害に対して粘り強く強靭な沿岸地域の構築
③ 自然環境と調和し共生できる，運河周辺環境の保全・再生の推進
④ 継続的な地域間の連携と，未来に向けて発展できる社会環境の構築

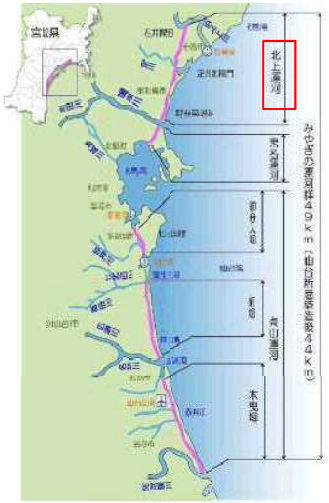
5

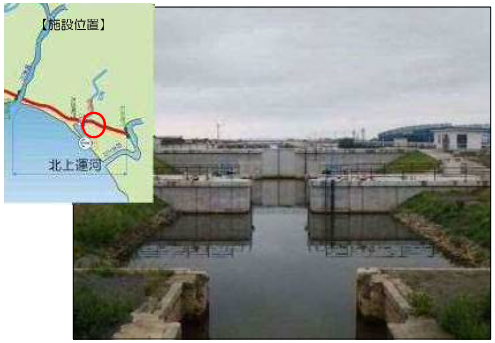
## ４．東日本大震災からの復旧・復興のあゆみ

### 北上運河の復旧･復興の様子

宮城県

〔復旧･復興の状況【北上運河】〕




【釜閘門】
北北上運河として平成３１年１月完成

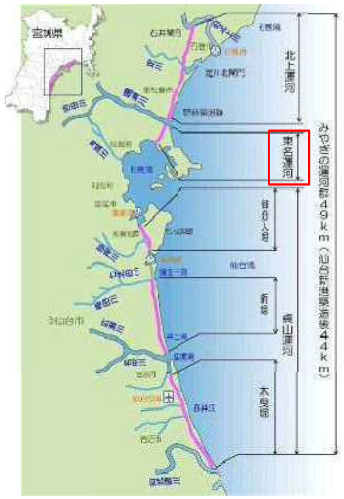
【北上運河　松並木の保全】
平成２８年１０月完成

6

### 東名運河の復旧･復興の様子

宮城県

〔復旧･復興の状況【東名運河】〕



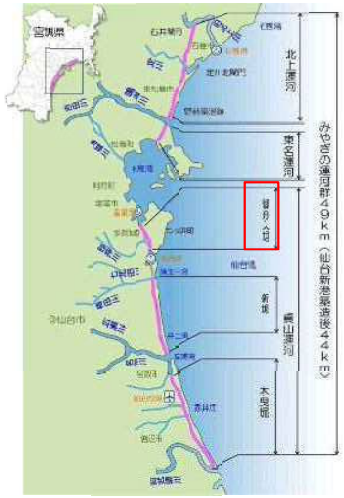
【東名運河の松並木の保全の様子】
令和元年１１月完成

7

## 御舟入堀の復旧・復興の様子

宮城県

### 〔復旧・復興の状況【御舟入堀】〕



【御舟入堀　旧砂押川】
令和３年３月　完成

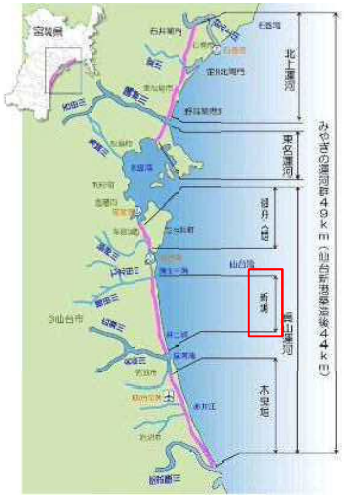
【御舟入堀、水辺を散策する様子】



## 新堀の復旧・復興の様子

宮城県

### 〔復旧・復興の状況【新堀】〕



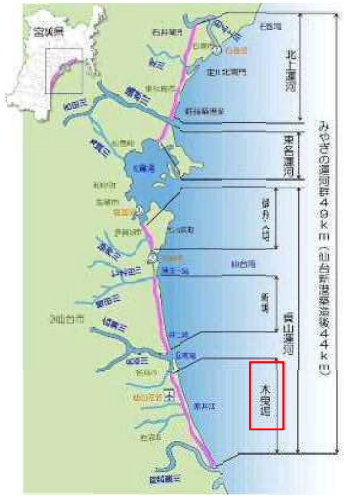
【現在の新浜周辺の様子】
平成３１年１月完成



## 木曳堀の復旧・復興の様子

宮城県

### 〔復旧・復興の状況【木曳堀】〕



【保全された松並木の様子】
平成３１年３月完成

【阿武隈川合流地点】
平成３１年３月完成

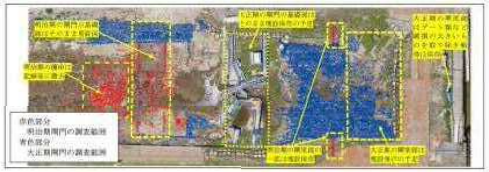


## ①　地域にとって誇りある歴史的な運河群としての再生

宮城県

釜閘門（北上運河）について新たな閘門を整備するにあたり、平成26年度に復旧工事に着手したところ、明治時代につくられた木造閘門の遺構が出土しました。平成28年度に遺構調査委員会の意見を踏まえ、文化財としての価値を配慮し、調査記録誌をとりまとめ、埋設保存を実施しました。

【釜閘門　遺構調査の実施】
【明治期の閘尾部翼壁(閘室側)の一部の遺構】



北北上運河「釜閘門（定川北閘門）」遺構調査　記録誌より
【釜閘門】埋設保存し、北北上運河として平成３１年１月完成

みやぎの運河群の歴史遺構等の調査や保全を実施しました。

【野蒜築港跡橋台の保全】

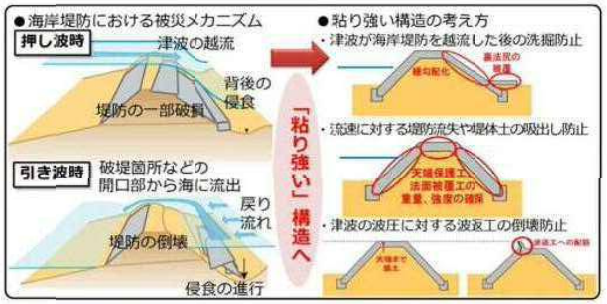
【御舟入堀発掘調査】
【仙台市HP 発掘調査資料より引用】

【御舟入堀の歴史看板（仙台市）】
伝承の丘より

## ② 自然災害に対して粘り強く強靭な沿岸地域の構築

宮城県

「粘り強い構造」の基本的な考え方は、設計対象の津波高を超え、海岸堤防等の天端を越流した場合であっても、施設が破壊・倒壊するまでの時間を少しでも長くする、あるいは、施設が完全に流出した状態である全壊に至る可能性を少しでも減らすといった減災効果を目指した構造上の工夫を施すことです。




「技術速報：粘り強く効果を発揮する海岸堤防の構造検討」より

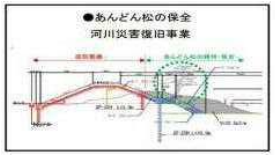
■標準断面図

## ③ 自然環境と調和し共生できる運河周辺環境の保全・再生の推進

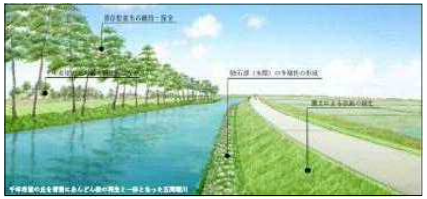
宮城県

松並木との一体的水辺空間の再生を目的として、木曳堀で運河水際から生える「あんどん松」の維持・保全を行うとともに、堤防緑化や水際植生の回復を行いました。沿川で行われる海岸防災林や農地の復旧整備、「千年希望の丘」の整備と連坦し、地域のランドマークとなる沿岸地域の一体的な緑の水辺空間の再生を行いました。

【あんどん松保全区間平面図】




【標準断面図】



【整備イメージ】

【木曳堀　松並木の保全】



## ③ 自然環境と調和し共生できる運河周辺環境の保全・再生の推進

宮城県

みやぎの運河への桜植樹は、沿岸地域の復興に向けて策定した「貞山運河再生・復興ビジョン」の主要政策にも位置付けており、東日本大震災からの復興の象徴となるとともに、未来への震災体験の伝承が目的であることから、官民連携で取り組むことを基本として平成２４年から実施してまいりました。運河沿川の１０箇所で約800本を超える植樹となりました。

【取組状況（植樹の様子）】

### 〔震災伝承施設として祇園しだれ桜を登録！〕

東日本大震災による津波到達点付近に震災の教訓を伝承するため、平成２５年から令和元年に佐野藤石衛門氏の寄贈による祇園しだれ桜と、「はなはなプロジェクト」の寄贈による石碑が沿岸部市町に設置し、津波の脅威を後世に伝える役割を果す取組を実施いたしました。
佐野氏と「はなはなプロジェクト」の取組を全国に広く周知するとともに、各施設への来訪者にも祇園しだれ桜を知っていただくことを目的として、令和５年８月３１日付けで「震災伝承施設」として24施設が登録されましたので、ご紹介いたします。

## ④ 継続的な地域間の連携と未来に向けて発展できる社会環境の構築

宮城県

「明治１５０年」記念施策

# 全国運河サミットinみやぎ

*～日本一長い運河群の沿川から復興支援に対する感謝を込めて～*

**平成３０年１０月２６日（金）**　仙台国際センター

- **全国運河サミットinみやぎ**　【会議棟　萩】
  **基調講演**　「歴史に学ぶ地域づくり人づくり」加来耕造氏
  **パネルディスカッション　歴史のかおる運河を活かした復興まちづくり～そして未来へ～**
  全国運河沿川自治体や利活用団体の取組事例報告・討議
  **全国運河サミットinみやぎ2018宣言**　石巻市長
- **パネル展**　【会議棟　桜】
  ・みやぎの運河群
  ・全国の運河取組
  ・運河沿川の復興状況，運河での取組
  ・運河利活用団体と各団体の取組

**平成３０年１０月２７日（土）**　運河沿川１０市町各地で実施

- **スタディツアー**　～運河沿川の震災復興の今～
  県内３コースで石巻市から岩沼市までの運河沿川市町の**運河と復興の今を学ぶ**

- **後援**　復興庁宮城復興局，国土交通省東北地方整備局，東北大学災害科学国際研究所，石巻専修大学

## ④ 継続的な地域間の連携と未来に向けて発展できる社会環境の構築

宮城県

河川管理者と地域が連携しながら水辺を生かしたまちづくりに取組み「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間形成を目指しています。

**名取川藤塚地区かわまちづくり（仙台市）**
（令和５年８月１０日登録）

【仙台東部沿岸地域での賑わい創出】

**名取川閖上地区かわまちづくり（名取市）**
（令和３年３月１８日登録）

ゆりあげ丸による
舟運

かわまちテラス閖上



## ④ 継続的な地域間の連携と未来に向けて発展できる社会環境の構築

宮城県

日本一長いみやぎの運河群沿川では、東日本大震災後も、地域（民間団体や市町）などによる運河を活用した様々な取組が実施されています。

【高校ボート部の活動】
石巻工業高校：北上運河（石巻市）

【親子カヌー体験】
NPO法人ひたかみ水の里：北上運河（石巻市）

【総合学習の実施】
野蒜築港ファンクラブ：東名運河（東松島市）

【御舟入堀遊覧会】
貞山運河御舟入堀プロジェクト：御舟入堀（塩竈市）

【木造舟の乗船体験】
貞山運河倶楽部：新堀（仙台市）

【ボートクラブの活動】
新貞山ローイングクラブ：木曳堀（岩沼市）



# ５．みやぎの運河群利活用推進会議

## みやぎの運河群利活用推進会議の設立

宮城県

1　東日本大震災以前

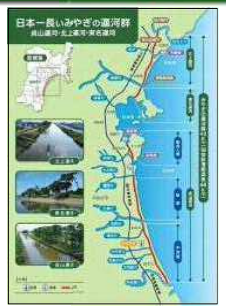
古くは、舟運を目的として江戸時代に建設が始まり、現在では治水や利水といった機能に加え、歴史、環境、景観等の魅力を有する土木遺産として、多くの方々に愛されてきました。

2　東日本大震災以降

東日本大震災では、運河群を含む沿岸地域が甚大な被害を受けました。
県では、運河群の歴史を未来へと繋ぎ、運河群を基軸とした沿岸地域の再生・復興を基本理念とした「貞山運河再生・復興ビジョン」を平成２５年５月に策定し、様々な主体と一体となって、復旧・復興を進めてきたところです。

3　現在

復旧・復興工事が完了し、各運河の沿川では、様々な主体による賑わいの創出と、歴史や自然環境の保全等の活動が行われており、今後は様々な主体が広域的な連携を図ることにより、さらなる活動の拡大が期待されています。




4　これから

「貞山運河再生・復興ビジョン」に基づき、これまでは、復旧・復興事業推進のため、官主体の「貞山運河再生・復興会議」において推進しておりましたが、復旧・復興事業が完了したこれからは、さらなる地域の発展に向け、地域主体の継続的な推進体制への橋渡しが必要であることから、新たな推進体制を構築します。

| みやぎの運河群　利活用推進会議<br>令和4年6月設置 | みやぎの運河群　連絡調整会議<br>令和４年１２月設置 |
|---|---|
| **学識経験者・関係行政機関**よる情報共有及び意見交換を通じて，運河群沿川における広域的な連携を推進するための今後の取組の方向性やあるべき姿について議論を実施します。 | 運河群沿川で活動している**民間団体等**の取組紹介・意見交換により，**参加者間相互で情報を共有**し，それぞれの活動に生かすために，**活動拡大に向けた連携**を探ります。 |

**歴史を未来へとつなぎ，みやぎの運河群沿川の継続的な発展へ**
**「地域主体の継続的な推進体制」**



## 連絡調整会議に参加する民間団体

宮城県

※　図上の丸数字は、民間団体の主な活動場所を示す

みやぎの運河群連絡調整会議に
参加している民間団体（８団体）

①NPO法人ひたかみ水の里
②すばらしい北北上運河沿線の自然環境を守る協議会
③貞山・北上・東名運河研究会
④貞山運河「御舟入堀」プロジェクト
⑤仙台湾岸運河群の歴史と記憶を伝える協議会
⑥貞山運河倶楽部
⑦一般社団法人　貞山運河ネット
⑧新貞山ローイングクラブ

※　会議に参加する民間団体は、みやぎの運河群沿川で活動される団体を対象とし、「みやぎの運河群連絡調整会議民間団体等公募要綱」により、公募及び流域市町からの推薦により選定している。

## 連絡調整会議に参加している民間団体の取組 （日本一長いみやぎのパネル展R5.12）

宮城県

### NPO法人ひたかみ水の里

1999年に設立。
石巻市に流れている旧北上川と北北上運河を繋いでいる国の重要文化財「石井閘門」の側を拠点にカヌー体験などの自然体験や河川の清掃活動など実施。
子どもから大人まで楽しめる水辺空間を提供し、水辺から賑わいのきっかけづくりをしています。

また、毎週土曜日には石巻管内の子ども達を対象にした『めだかっこクラブ』や定期的に水辺のイベントを実施しています。

インスタグラムやフェイスブックにて当団体の活動状況を投稿しています。

### すばらしい北北上運河沿線の自然環境を守る協議会

２０１４年の発足以来、イベント開催だけでなく、北北上運河沿線の雑木雑草の伐採、１８００mの桜並木、松並木の再生、どんぐりの植林などで自主的に活動する協働の地域づくりをしている組織です。

４月中旬～１０月中旬の隔週土曜日に活動する一方、関係官庁のサポートにより、四阿やトイレを設置しました。
地元小学校での歴史講義、カヌー教室も開催しています。

今後も従来の活動に加え、官民一体となって、石井閘門と釜明門に公園設置等の現地整備を行うとともに、水質浄化に向けた取組をしていきたいと思っています。

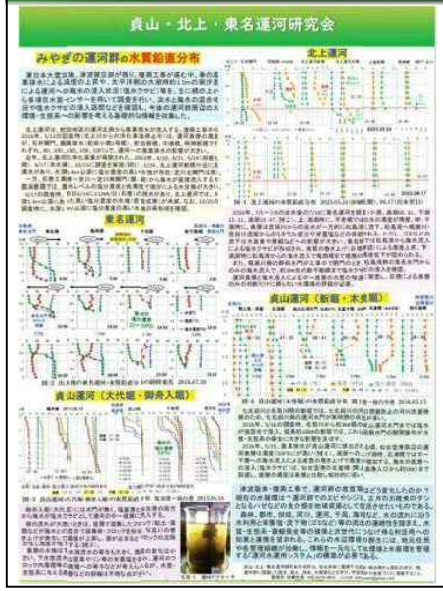
【問い合わせ先】
事務局　f-mtskw@xf6.so-net.ne.jp

20

## 連絡調整会議に参加している民間団体の取組 （日本一長いみやぎのパネル展R5.12）

宮城県

### 貞山・北上・東名運河研究会




### 貞山運河『御舟入堀』プロジェクト

貞山運河

『御舟入堀』プロジェクトとは、

塩竈市を中心に、近隣の市町に住む貞山運河に興味のあるメンバー約50名で構成されています。

2014年の勉強会スタート以来、貞山運河を楽しみながら学び、地域資源としての活用方法を探るため、講演会やフットパス、清掃活動を軸として様々な取組を行っています。

こんな活動を行っています！

会員大募集中!!

ともに楽しみ、学び、貞山運河から地域を盛り上げていきましょう！

21

## 連絡調整会議に参加している民間団体の取組 （日本一長いみやぎのパネル展R5.12）

宮城県

### 仙台湾岸運河の歴史と記憶を伝える協議会

「仙台湾岸運河群」とは（現行 第2及び4条）
「貞山運河」、「北上運河」及び「東名運河」に、併せて「野蒜築港」、慕府米や薪などの運であった「寒風沢」も対象

協議会の目的（現行 第3条）
①運河群の歴史と地域の記憶を学び、広く伝える
②湾岸地域の豊かな地域資源を掘起し、守り・育て、持続可能な活用と次世代への継承
③地域資源を結ぶ交流と連携を促進し、心豊かで誇りある地域づくりに貢献

協議会の事業（現行 第4条）
（1）運河群、寒風沢港や野蒜築港などの歴史の調査研究
（2）地域資源の保存・継承に関する実践と支援
（3）本協議会の活動に係わる情報発信
（4）各地域及び各団体との交流・連携促進の実践と支援

【設立総会】令和4年5月28日(土)　【出席者】31名
（令和5年10月末現在 会員数 43名）

【令和4年度活動結果】

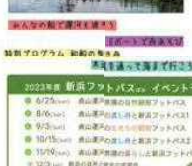
| 実施日 | 内容 | 講師等 | 備考 |
|---|---|---|---|
| R04.10.02 | 【設立総会記念講演会】「野蒜築港遺産申止後の 之上・東名運河の利用状況について」 | 斎藤 善之氏（東北学院大学教授） | |
| | 【寒風沢研修会】 | | |
| | 第1部：講演会「近世～近代の太平洋航路と寒風沢・石浜港」 | 斎藤 善之氏（東北学院大学教授） | |
| | 第2部：寒風沢島探訪会 | 案内：NPOみなとしほがま | |
| R05.02.11 | 【地名講演会】「仙台湾岸運河群周辺の地名」 | 太宰 幸子氏（宮城県地名研究会 会長） | |

【令和5年度活動状況】

| 実施日 | 内容 | 講師等 | 備考 |
|---|---|---|---|
| R05.05.13 | （令和5年度総会記念講演会）「御舟入堀と仙台港～仙台城下への物流ルート～」 | 畑井 洋樹氏（仙台市歴史民俗資料館学芸室長） | |
| R05.11.26（予定） | 【野蒜研修会】 | | |
| | 第1部：講演会「野蒜築港と仙台湾岸の運河群」 | 後藤 光亀氏（貞山・野蒜・北上運河研究会世話人） | |
| | 第2部：野蒜築港跡・東名運河探訪 | 案内：野蒜築・野蒜築港ファンクラブほか | |
| R06.02（予定） | （講演会）「R4年度調査御蔵跡発掘調査結果」(仮題) | 仙台市文化財課職員を予定 | |

### 貞山運河倶楽部

地域の活性化に重点を置いて歴史遺産の貞山運河等を利活用し、地域の魅力向上に寄与することを目的としています。
2019年5月貞山運河研究所の解散に際して、貞山運河研究所の運営委員会の有志で、貞山運河倶楽部として再出発し、貞山運河新堀を中心に活動しています。



活動内容
貞山運河の小屋めぐりの開催（今年度、4回開催）
・宮城野区新浜町内会の貞山運河のフットパスと連携
（２０１５年から年5回開催）
・水辺・緑プロジェクトで貞山運河での曳舟を実施（２０２３年は２回実施）
・貞山運河フォーラムの開催（年1回、２月開催）
・岡田・新浜マップの作成・配布（英語版も）
・情報誌「ほとりから。」の発行
・全国の「いい川・いい川づくりワークショップ」に参加し、活動報告と情報交換、「貞山運河ネット」（2022年4月設立）との連携

E-mail teizan.canal.club@gmail.com

22

## 連絡調整会議に参加している民間団体の取組 （日本一長いみやぎのパネル展R5.12）

宮城県

### 一般社団法人「貞山運河ネット」
～歴史をつなぎ、賑わいをつくる～

可なりに長く延びる寒岸線に沿って、貞山運河は静かに水をたたえている。400年前の藩制期から、明治時代まで約270年にわたって造られた日本最長の水路である。先人たちは夢を追い、これほど壮大な歴史遺産をこしらえた。宮城県に暮らす私たちは、この地の澄んだ空気を吸い、そこで取れたコメを食べ、豊かな恵みを受けてきた。昔日の地元のことを知らずに、今を語れないし未来の夢を描くこともできないだろう。
「子どもたちや後世に素晴らしさを伝えていきたい」「貞山運河に新しい命を吹き込み、震災からの復興のシンボルにできないだろうか」。その掛け声の下、名取市の開上地区に根を張る人々と行政、民間組織をまじめ、仙台市の企業、市民団体と町内会、塩釜市の有志などが集い、「貞山運河ネット」を発足させた。

～取組紹介～
貞山運河活性化に向けてのワークショップ
・貞山運河歴史セミナー
・貞山運河MAPの制作
・貞山運河の親子制作
・貞山運河実地調査
・仙台市立六郷小学校での貞山運河教室開催（座学、実地見学等）
・貞山運河動画制作
・貞山運河ドローンを使った空中からの四季撮影
・宮城小学生が乗った夢を塩釜、多賀城へ～元上川、みやぎの運河群を子供たちが舟で運送～

貞山運河ネットは第一線で実践していくための共ユンジンの役割を果たし、これからも様々なイベントで皆さんと連携をアピールしていく。

【お問い合わせ先】
HP：https://teizanunga.net/
MAIL：teizanunga@r-office.co.jp
☎ 022－262－2322

### 新貞山ローイングクラブ

私たち新貞山RCはボートを漕ぐことが好きな人たちが集まり、月1回程度、貞山堀でボートに乗っています。ときどき地方のレガッタに出漕するため宿泊遠征も行っています。

多くの方々に貞山堀に親しんでいただけるよう、堤防の清掃活動や各種イベントの支援も行っています。
30代～70代でご家族も一緒に参加しています。

未経験者も歓迎します！
貞山堀の風景を楽しみながら漕ぎませんか？
（お問い合わせ先）
メール：mock@y.email.ne.jp

23

## 連絡調整会議設立後に実施された民間団体の連携

宮城県

NPO法人ひたかみ水の里、貞山運河「御舟入堀」プロジェクト、一般社団法人貞山運河ネット、民間３団体の連携により、運河群を活用したイベントが実施（R5.10.29，11.3）されました。
みやぎの運河群は、さらなるにぎわいをみせています。

## 今後の方向性について

宮城県

これから

「貞山運河再生・復興ビジョン」に基づき、これまでは、復旧・復興事業推進のため、官主体の「貞山運河再生・復興会議」において推進しておりましたが、復旧・復興事業が完了したこれからは、さらなる地域の発展に向け、地域主体の継続的な推進体制への橋渡しが必要であることから、新たな推進体制を構築します。

| みやぎの運河群　利活用推進会議<br>令和4年6月設置 | みやぎの運河群　連絡調整会議<br>令和４年１２月設置 |
|---|---|
| **学識経験者・関係行政機関**よる情報共有及び意見交換を通じて，運河群沿川における広域的な連携を推進するための今後の取組の方向性やあるべき姿について議論を実施します。 | 運河群沿川で活動している**民間団体等**の取組紹介・意見交換により，**参加者間相互で情報を共有**し，それぞれの活動に生かすために，**活動拡大に向けた連携**を探ります。 |

【会議内容】
運河群沿川の活動・取組紹介を学識経験者へ共有
**助言・アドバイスを連絡調整会議へ共有**

【期待される効果】
**現状の取組内容を学識者へ報告・意見を聴く　（助言）**
・広域的な連携や今後の方向性などについて、学識者から助言を受ける。

**地域主体の広域的な取組や連携を推進する。（実践）**
・民間団体等の取組状況を踏まえ、学識者の助言を共有しながら、関係行政機関による連携を図り、地域主体の広域的な連携を推進する。

【会議内容】
運河群沿川で活動している民間団体等の取組紹介・意見交換により，
**参加者間相互で情報を共有**

【期待される効果】
**他団体や行政機関の取組を知り、それぞれの取組に活用。　（知る）**
・同地域、地域間、類似の取組、行政機関どおし、民間団体どおし、行政機関と民間団体など、
**様々な組み合わせ（マッチング）の連携による活動拡大。　（連携）**
・みやぎの運河群全体での連携。
・行政機関は、可能な支援策について検討。
**まずは、各団体ができること（興味のあること）から始めていきます**

**歴史を未来へとつなぎ，みやぎの運河群沿川の継続的な発展へ**
**「地域主体の継続的な推進体制」**



## ご清聴ありがとうございました

宮城県

MIYAGI Prefecture Public Works Department
明日につなぐ ミヤギのドボク
90th Anniversary

スマイルリバープログラム
マスコットキャラクター
「レビアちゃん」

# 意 見 交 換

～ 流域圏の活動や今後のあり方等について ～

## 意見交換
## ～ 発表・報告を受けて ～

**○平山コーディネーター**

意見交換ということで時間を取ってあったのですが、一生懸命発表していただきまして、あまり時間が残っておりません。多くのご意見を頂きたいのですが時間がないと思いますので、私の方からまとめのようなことを話させていただきまして、残りの時間を皆様からお話にあてたいと思いますのでよろしくご了解をいただきたいと思います。

この会議は平成 27 年に開催した北上川流域圏フォーラムで合意された内容に基づいて進めて参りました。参考資料に意見交換の資料がございますが、３枚目に平成 27 年に合意されたアクションプランがございます。アクションプラン１は会の進め方や構成メンバーについて述べています。川づくりの仕組みについては、川はみんなのもの、公物、であるという平成９年の河川法改定の趣旨に沿って、誰もが参加するオープンな仕組みにしていきたいということで２枚目の絵のような市民団体、民間企業などの経済団体、流域の自治体、国・県の広域行政、それと研究者・学識経験者などの各分野の代表者が集まり、それらをまとめる事務局的な組織を置いて川づくりを相談することを目標に進めて参りました。

現在の「北上川流域圏フォーラム実行委員会」は市民団体、国土交通省の北上川関係の事務所、岩手県・宮城県で構成しておりますので、まず我々のような市民団体の活性化に努力すると共に、欠けている構成メンバーをさらに加えて川の仲間を増やしたいと努力を重ねてきたところです。

昨年度は産業界から「北良（株）」という家庭用・産業用のガス機器の会社の社長さんをお招きして、災害時における避難所の応急手洗い場・シャワー施設等の会社をあげての支援の様子を、また東京海上火災保険（株）からは CSR 活動として取り組んでいる森や海の環境を守る活動を、熊谷産業（株）には取り組んでいる北上川河口での葦の再生活動などのお話等をお聞きしました。これらの企業では様々な場面で川づくりの活動を担っておりますが、我々の活動とのつながりや連携の可能性を感じました。今後はこのような川に思い入れが強い企業とも共同で川づくりの仕組みを整えていきたいと願っています。

また昨年以来、北上川の流域市町村の連携の機運が高まっていることは、市民活動にとって心強い動きと捉えています。さらに今年は、ご覧のように発表者に環境保全がご専門の岩手県立大学の渋谷先生と街づくりの研究がご専門の岩手大学理工学部の南先生をお招きして、学術的な視点からの川づくりにお力を頂ければと考えているところです。

しかし我々の仕組みづくりはまだ途上で十分ではありません。広域行政を担当する国の機関にしても、現在は水域の治水・利水・環境の河川管理を所掌する国土交通省との連携を重視してきましたが、川は国土交通省だけのものではありません。国土の環境管理を担う環境省やかんがい用水を管理している農水省、それから工業用水、半

導体の話が出ていましたけれども、経済産業省、水道は厚生労働省などたくさんの関係省庁の参加が理想です。このように我々の理想とする川づくり組織の構築はまだまだ困難がありそうですが、誰もが、川に関われるようなオープンで、身近な仕組みを目指して、今後もこれまでと同様に努力を続けていきたいと願っています。

この会が出来ることは限られておりますので、これまで環境の問題も歴史文化の問題も話し合いましたが、軽石さんらと合意して決めた「場づくり」を優先してきたことをまずご理解いただきたいと思います。環境は何もやらないのではないかということでは決してありません。

本会議も６回目を迎え、マンネリになっているのではないかという声もお聞きします。組織も高齢化し活動力が衰退しているのは事実であり見直しの時期を迎えていることを感じます。先ほど渋谷先生からこの会議に期待するとの発言がございましたが、アクションプランの２番目に「環境持続性のある地域社会づくり」を挙げております。３番目が「歴史文化の尊重」です。今後もプラン１の「仕組みづくり」、「仲間づくり」は、まだまだ努力する必要はありますが、新しいステップに活動を広げていくことも考えたいと思っています。

もうひとつ、我々が何故流域という視点を大切にして活動してきたかを申し添えたいと思います。古来より流域社会は上流・中流・下流のそれぞれに森林地帯・山村・農業地帯・商業地帯・街・低湿地・漁村が形成され、夫々異なる川の恩恵を享受し、自然の猛威に晒されながら全体としてまとまりをもって発展してきました。そして流れが結ぶ上流・中流・下流は上流でごみを流せば下流で困る、上流の水源地域の協力でダムが出来ると下流は洪水から救われます。お互いが流域全体の安全や発展を想い、上下流の利害を乗り越えて争いを避けながら発展してきたのが流域社会です。流域社会と川は決して切り離なすことは出来ません。

特に、北上川流域社会も外部からの侵略や自然災害には度々悩まされましたが、流域の人々は助け合い、争いを避けて、共存の道を歩んできたことが大きな特徴であり、そのようなまとまりある流域の風土には学ぶべきものがあるように思います。我々は流域視点からの川づくりを大切にしてきたのは、流域の意識が最近薄れゆく中で、このような貴重な風土が失うことを恐れたからにほかなりません。

我々も余り余裕はありませんが、少し頑張ってみたいと思います。本日はこの会の運営や北上川流域の未来像等について積極的な発言をお願いします。皆様からのご意見は実行委員会で検討させて頂きます。

では、これから会場からのご発言を頂きます。最初に、先ほど市民団体などから発表された中身について、何かご質問等ございませんでしょうか。

この間、船に乗って川を下ろうと思ったら、船の底がつくから運航できない、水量が足りないという話がありました。運河でも、水質を維持するには、水を流すことが必要です。カヌーにしても、舟下りをやるにしても、適当な水量が要求されま

す。昔は舟運維持のため、それなりの流れが保障されていたはずですが、今は舟運・スポーツ・レクリエーションのための権利はなくなってしまいました。それは常時使うわけではないし、それがなければ被害が発生するというものでもありませんが、もう少し融通を効かせるような仕組みが欲しいものです。盛岡の舟下りイベントで、せっかく造った 12 名乗りの和船が底をつき、ダムにお願いして、少し放流してもらって、やっとイベントができたというようなことがありました。

ご意見ありましたら、ぜひお願いします。ぜひ行政の発表に負けない市民からの元気いい提案を頂きたい。こんなことをやってくれとか、やってもらっては困るとか、遠慮なく、ぜひ発言してほしいと思います。指名しますか。では、どんどん遠慮なくいかがでしょう。……。

**○齋藤 哲郎 氏**

あっ、すみません、妄想発言でもいいですか。

**○平山コーディネーター**

はい、はい。

**○齋藤 哲郎 氏**

平山先生、ご苦労さまでございます。

奥州市出身で、北上川ダムの恩恵を受けて麓の足軽のまちで暮らしている齋藤です。今現在は仙台で仕事をやっているのですけれども、時々私のふるさとに戻ってきたりしているのですが、今 75 歳になりまして、若い頃の夢を時々見るのですよね。私、25 歳のときに新宿ですかね、フジタカヌー研究所というのがありまして、そこでファルトボートを買ったのですよね。そのファルトボートで北上川とか、例えば名取川とか、広瀬川なんかでちょっと遊んでいたのですけれども、この北上川で石巻までツアーができるような、そういう北上川になるといいな、なんて思いながら 75 歳になりました。そんな環境があるといいなということで妄想しておりますけれども、いかがでしょうか。

**○平山コーディネーター**

いいですね。というか、今、できますよ！　北上川は四十四田ダムから河口までカヌーに乗れば、石巻まで行けますよ。(齋藤氏より「いいですね」の声あり)。　東日本大震災の後、沿岸に「みちのく潮風トレイル」ができていますので、北上川を下ると海沿いに走るトレイルにぶつかり、リアス式海岸のトレイルを辿れば魅力ある川・海のコースになると思いますね。まあ、舟で下るということに関しては、サポート体制など工夫がもう少し必要だとは思いますけれどもね。自由使用だからといって、やはり安全を十分確保した上で使うようにしたいと思っています。

**○齋藤 哲郎 氏**

せっかく三陸のほうに慰霊の旅で潮風トレイルは、今すごく人気がございますよね。そのときに、北上川の船旅トレイルみたいなものがあるとすばらしいなと思いますし、２泊３日ぐらいでその辺に泊まりながら、平泉を見たり、あるいは東和町のキリシタン終焉の地を見たり、そういった形で石巻まで行って、潮風トレイルなんかと合流

したりすると面白いな、なんて思ったり妄想しちゃいます。

**○平山コーディネーター**

ありがとうございます。盛岡から石巻までの舟下りは我々の夢でもあり、ずっと温めてきて、もう少し支援の体制ができた時点で全川を一気に実施したいなと思っていまして、実はこの間、１泊２日で、一部区間を試してみました。治水というテーマがあったのですが、胆沢ダムに集合して、胆沢ダムの説明を聞いて、寿庵堰を見学して一関の遊水地に入って、そこで広大な遊水地を体感して１日目を終わり、２日目は一関市から船に乗って、狭窄部に入って、皆さんの資料の一番最後についていますけれども、それから狭窄部から通って、登米に下り上陸してウナギを食べ、昼食後、また船に乗って、分流、新北上と旧北上と分かれる分流で閘門という設備があるのですが、閘門を通過するというような計画でした。舟下りは「ゆはず」という国土交通省の 19 名乗りの船でしたが､川の水は 150 トンぐらい流れていたのですが、途中、局所的に砂がたまっている場所があり、舟下りは諦めざるを得ませんでした。もう少し頻繁に川を利用して早期に航路の安全を確認し、そういうところは、砂をのけて観測船が行けるぐらいの航路は確保してほしいなと思いました。

なるべく早く、会場の齋藤さんの希望にできるだけ近づけるように我々も頑張りたいと思います。（「ありがとうございます」の声あり）

どうぞ。

**○白畑 誠一 氏（北上川フィールドライフクラブ代表）**

20 年前に国土交通省の助成いただきまして、川下りマップを作製しています。四十四田ダムから下流まで、深いところ、浅いところ、それからど

こに言ったら助けてくれるか、それから俺みたいな花巻は白畑とか、北上は軽石 昇とか、そういう電話番号も全部書いて、そこで面倒見るのです。そういう地図つくっています。20 年前に。ですから、抜けている部分も大分出てきていますので、それをある程度参考にして、また川下りマップをつくってもいいのかなと。浅いところとか、深いところとか、流れの厳しいところ、それは消防職員の訓練の場所に使っていたのですね、わざと、です。そういうものもありますので便利です。見直してまた再発行したいです。

**○平山コーディネーター**

北上川の危険箇所を書いたマップあるんですよね。

**○中村 巌 実行委員会運営委員長**

事務局のほうからちょっとご説明させていただきます。

流域圏フォーラムのホームページに、川下り支援マップというのを載せております。普通のマップの北上川の地図の上に危険箇所とか、あるいは休めるところ、トイレがあるところ、そういったものを示した地図を掲載させていただいています。ただ、今出ていましたようなサポート体制についての情報は入っていませんけれども、下るときにはちょっと参考にしていただければと思います。

**○白畑 誠一 氏（北上川フィールドライフクラブ代表）**

ちなみに私、それに乗って下ったことあります。７日間かかりました。あまりにも友好を深め過ぎて、酒ばっかり飲んでいました。

**○平山コーディネーター**

川の仲間というのは、そういう仲間ですよね。だから、しようがないといえば、しようがないけれども、ロマンを共有できるのが川の仲間ではないかと思います。

何かほかにご意見ございませんか。井山さん、何かありません。今日の会議の様子見ていて如何ですか。昔のメンバーや活動をよく知っているわけだから。

**○井山　聡 氏（元胆沢ダム工事事務所長）**

私も毎回参加させてもらっていて、二、三十年前に連携交流会ができたときに、胆沢ダム工事事務所にいたのですけれども、本当にあのときは楽しいことをどんどんやろうという凄い活力でみなぎっていた。あれが本当に交流会の創成期、そんな感じがしたのです。

まさに今日、平山先生がまとめでおっしゃっているような求心力というのでしょうか、やっぱり楽しいこと、面白いことというのが出発点だと思うのです。そういう意味では、今白畑さんが言われたような各地域の活動とか、舟運調査、盛岡からディズニーランドに行こうというのがありましたね。あったんですよ。ああいうのとかで、やっぱりいろいろ沿川と交流しながら川の状況を調べたり、いろんな地域の産物とか、あるいはこの地域、地域の拠点に、またそれぞれ活動をされている市民グループの方がおられて、そういうつながりが非常に発展したのが当時の連携交流会だと思うのですが、あれをきっかけに、今各地域の活動になったので、全体のまとまり、つながりというのが流域圏の活動ぐらいになってきているような感じのようで、今こういう市町村の流域での連携も復活させようという動きも始まっていますし、それからこういう流域圏の交流会議も息長く、粘り強くやっていくということで、やっぱり楽しい、面白いを出発点とした地域地域の活動、あるいはそれらをつなぐような活動、あるいは流域治水とか、今日は行政などのご紹介もありましたが、流域全体で治水も含めて、みんなでできることをできるところからやっていくのだとか、何かそういう入りやすいところ、面白いこと、楽しいことということを出発点に組み立てていくのがいいのかなと。いろいろさっき仕組みの難しい図も出ていましたけれども、あまり大上段に振りかぶって仕組みのことを先に議論しても、なかなか空回りというか、抽象的というか、一般論

みたいなところに落ちてしまうので、できるところからできる範囲で少しずつやっていくというのが、こういう市民活動だと思うので、ある程度熟成期に入った連携交流会として物足りないというところもあるかもしれませんが、その辺の原点に立ち返って活動を組み立ていくというのがかなり大事かなと私は思いました。

**○平山コーディネーター**

そうですね、若者、子供ですか、年寄りも楽しい……、どうも真面目に考えてしまうのですね、我々は。治水、利水、やっと環境が入ったのですね。環境が大切だなと思うけれども、やっぱり省庁の縦割りとかいろいろあって、そういう部分を乗り越えて仕組みづくりをまず考えなければならないなと思って、今やっていたところなのですよね。　だけれども事務局で話していても、若いメンバーはもっと面白いことをやろうという、そういう意見が多いのですね。

何か意見ないですか。はい、どうぞ。

**○本宮 秀年 氏（中田Ｂ＆Ｇ海洋センター前所長）**

すみません、登米市中田Ｂ＆Ｇ海洋センターから参加させていただいています本宮と申します。

先ほど事例発表の中で話させていただきましたが、私もとにかく 40 年間ぐらい、この北上川下りをやってきた経緯がありまして、やってきた仲間がもう一度やりたいねという話で、実は北上川の調査に行きました。昔は、自分らは 10 ㎞ぐらいずつで乗り換えをしていました。なぜかといいますと、上流はカヌーで大体 10 ㎞ 40 分で下ります。その場所、場所を確認したら、全部荒れていました。ちょっとできないねというような話で今止まっている状況です。

令和４年に、では、近場からやろうかということで、川崎の防災センターのところから川下りをさせていただいて、それでもなかなか舟を乗り換えできる場所がなかったです。いろいろ探して、探して、見つけて、やっと何とかやぶをこいで、川に出て、乗り換えをして、中田まで帰ったという思いをしていました。

川に親しむというところからいったときに、そういう部分、そんなに大きくは必要としません。たまたま我々は紫波の大橋の下流の運動公園からスタートしてきまして、朝日橋のところのイギリス海岸で乗り換えてという、その部分、部分で、大体約 10 ㎞前後のところでやってきていましたが、それが今もう全然上流は、我々が川下りをやっていた頃とは全然違って、使えるのはここぐらいかなと。この展勝地は間違いなく使えるなと。そういう思いで、大分昔とは変わっているなというような。皆さん、それぞれの地域で活動しているので、私もですが、たまたま冠木船着場、きれいに直していただいて、そこから今川下りをやっています。が、しかしその周辺の堤外地は荒れた状態になっている。そこにはカモシカ、ニホンジカ、それからタヌキ、熊、これらが棲みついています。そこで集合して川下りしようとすると、いつそれが飛び出してくるか分からない状況、そういうところまで考えています。始める前に、辺りを見てからやるようにしていますので、できればそういう活動をやっているところの団体からお

話を聞いていただいて、その辺りの最低限、周辺だけでも環境整備をしてもらえると大変助かるなということで、これをお願いです。よろしくお願いします。

**○平山コーディネーター**

確かに使わない川というのは荒れてしまうのですよね。砂がたまってしまう、まあ、しようがないです。やっぱり使っているから、不便だということで、色々気付いて雑草を切り取るし、手入れも行き届くわけですよね。ここ数年コロナでちょっと活動が落ちたので、そういう部分が見えるような感じもしますけれども、使って不便なところがあれば、やはり管理しているところに事情をお話しするというようなことは、自由にやってというか、そういう川の利用者と管理者の関係でありたいなと思いますね。ありがとうございます。内田さん、何かありますか。

**○内田 尚宏 氏（いわて流域ﾈｯﾄﾜｰｷﾝｸﾞ代表理事）**

私、今でも年間 700 人から 800 人ぐらい、子供たちがいれば川の環境学習、あと小、中、高、大学でも講義をしたりして、子供たちや学生と接しているのですが、今私が一番感じているのは人材育成です。若い人の人材育成。というのは、私も以前は子供たちとキャンプをしながら、10 日かけて盛岡から石巻まで何回か行ったりしました。カヌーならもっと早く行けるのですけれども、子供たちとのボートだと結構時間がかかるので、今はもうできませんが。というのは、やはりもうできないですし、人を育てる必要を感じています。何年か前までは、大学生トータルで 500 人ですね、アクアレンジャー講習会と名づけて人材育成をしました。その子たちの中から、今胆沢川のラフティングのガイドなんかが育っています。

なぜ彼らが集まったかというと、面白いからでした。それまでは、短大や盛大の子たち、環境に興味のある子たちが来て活動したのですが、大学を卒業してしまうと来ないのです。ただ、遊びが面白いとなると来てくれるのですね。だから、楽しさ、面白さが、僕は若い人を惹きつけるキーワードだと思っています。これ、なかなか行政としてはしづらいのかもしれませんが、では民間が人材育成として成り立ってやっていけるかというと、これもできないですね。リバーガイド、レスキュー３講習会での３日間での講習で５万円ぐらいかかるのですけれども、全てレスキュー３ Japan に出す講習費です。交通費や宿泊費は主催者負担なのでお金にはならない。何かそういった人材育成に向けた支援みたいなものがあると、今おっしゃった川くだりツアーであるとか、そういったことも安全に展開できる可能性が出てくる。その辺を考えてもられるといいなと。

**○平山コーディネーター**

考えましょう。

ほかにありませんか。

桃生の白石さん、来ていますよね。どうですか。

**○髙橋 知之 氏（水と緑の環境ﾌｫｰﾗﾑ・ものう事務局）**

すみません、「水と緑の環境フォーラム・ものう」の白石が、事務局の髙橋が出ているので、代理に

マイクを持たせていただきました。本日は大変お世話さまでございます。ありがとうございます。

実を言うと、私もこういった会に参加させていただいているのですが、実は行政の人間でもありまして、今発表いただいた皆さんのご意見、共感するところがあります。どうしても行政頼りとか、そういうふうな話に偏りがちになってしまうのかなと思うのですけれども、我々も活動をやっていまして、やはりこういうところは行政でないと手をかけられないかなという部分もありますので、そういったところも聞きながら、今日は市長の齋藤が先に帰ってしまいましたので、まだいる時間にこの話ができればよかったのかなと思うのですけれども、そういったところも我々は法人格を持たない任意団体の「水と緑の環境フォーラム・ものう」という団体ですけれども、そういったところからも何かのアクションを起こしていければいいのかなと。

先ほど来、お話に出ておりますとおり、活動するのであれば、楽しい活動をしていきたいなと。今、あまり若くない年齢に差しかかってきておりますので、内田さんの言うとおり、若い人たちも巻き込んでいければいいかなと思っております。本日はどうもありがとうございます。

**○平山コーディネーター**

ありがとうございます。なかなかアイデアが、面白いアイデアが浮かばないです。それは難しいですね。悩んでいるのですよね。格好よく、面白くやって、皆さんの役に立つようにつながると最高だなと思いますよね。

我々抱いているのは、川に興味のある人間が最近減っているのではないかという恐れなのです。やっぱり車社会になると、川を見る機会がなくなっているのですね。昔は川で遊んだとか、魚釣ったとか、水が付いたとか、そういう話が日常的にあったのですけれどもね。それがなくなったおかげで、便利になって、何か川の存在は忘れられて、しかし洪水になると川の影響が心配になる。水不足の影響も、社会はすごく川の恩恵を受けているはずなのに、何か川に対する関心がなくなっているのは心配です。それも、楽しく面白く、川に人を導入するというところから始まるのではないですかね。それを見つけて本当にやらなきゃいけない。何かいい提案がありますか。成田部長さん何かないですか。

**○成田 秋義 氏（東北地方整備局河川部長）**

いろんなお話を聞かせていただきまして、さっき行政の話をしましたけれども、行政抜きにして、１つ個人的な思いで、少しお話をさせていただきます。

先日、山形県に行ったら、さっき岩手の所長から説明しましたけれども、オープン化という言葉

で、もう既にやっている地域もあります。要は何をしているかというと、儲けるのですね。河川やダムの場所を使って儲けてもらうということです。そういうふうに儲けることをちゃんと考えられる人を見つけておかないといけないですね、柏さんのように。これをやったら儲かるのではないかと、面白いことでお金儲けをして、維持できるというようなことを考えて、オープン化をして、民間の人は収益を上げても構わないです。河川やダムの空間のエリアでいろんなことをしていいですよというようなことをやっています。

先ほど内田さんから、湯田ダムの水没林の話がありましたけれども、その地域の人たちは水没林、昼に行くと緑なのですけれども、朝早く行くと白黒だと。それはすごい人気がある。それの値段は倍ぐらいする。朝６時ぐらいに行くほうが、もう早く予約が埋まるそうです。ただ、早くなので、入るのにお金がかかるのですけれども、でもそっちから埋まるというようなことを言っていますし、いろんな河川のエリアで、あるいはダムのエリアでやるということにつなげているとお聞きしました。

そういうのを、お金が高くても来るということが分かると、マネジメントをちゃんとできるような人は、面白いからやっていますというのは当然いいのですけれども、そこでお金をちゃんと儲けて維持できるぐらいのことを考えると思うのですね。ちょっと頭に入れてもらえればいいのかなと思いますし、さっき白畑さんがお話しされましたけれども、田瀬湖のワカサギは15㎝だと。多分それをあまりしゃべると人が来過ぎるかもしれないですけれども、多分お金になるんだろうなという、印象を持ちました。

オープン化の話は、誰かがここでお金儲けしたいというふうに、誰かが河川区域で、あるいはダムの区域でやりたいと思ったときに、誰か仲間をつかまえて、１人だとなかなか厳しいですけれども、自治体が窓口になってもらってやっていますから、２、３の人たちが、この辺でやればいいなという思いがあれば、ご相談いただければと思います。最近キャンプブームなので、ある川の市町村の首長と話をしたら、堤防の裏に温泉があって、食堂があって、トイレがあって、その河川敷はもうキャンパーが唸るほど来ているそうです。住民がうるさいと文句を言っていると。そういうところは、少しコントロールしなければいけなくて、逆にオープン化して、お金取っています。お金を取ったら、多分、来なくなるかもしれないのですけれども、でもキャンプをやる上で、水とトイレなどがあったら来るんだろうなというお話をして、もう少し考えようかと言っています。いろんな河川とダムを利用して、お金を儲けるようにしてもらって来てもらうとか、そういうことも考えることが、人と人が集まって、つながっていくのかなと、少し思っているということです。

**○平山コーディネーター**

国土交通省の船を安くレンタルするというのはできないですか？

**○近藤 修 氏（岩手河川国道事務所長）**

あくまでも、今の立てつけ上、あれは調査船な

のです。河川の管理のために必要なのです。

ただ、ずっと使っているわけではないので、空いている時間はあくまでも河川環境教育とか、意識啓発とか、そういう目的で皆様に使っていただきましょうという立てつけなので、むしろお金を取るというのは、あるいはレンタルするというのは難しくて、ただでお貸しするということであれば、それは一応可能にはなっているのですけれども。それも、ではここからこの日はずっと貸してとか、そうなるとやっぱり途端に難しくなってくる。あくまで一時的にただでお貸しするというような形で、昨年の勉強会もそういう形になっているということです。

**○木村 晃 氏（岩手河川国道事務所副所長）**

木村でございます。今近藤所長が話したとおり、年間を通じて協会のほうに、ＮＰＯと契約しておりまして、運航をお願いしております。今申し上げたのは、調査船でございますけれども、年間で30 回なら 30 回という回数でやっておりまして、その回数の内数の中で、環境教育に使うとか、河川の調査のためにいろんな方を乗せて使うとか、子供たちを乗せて学習するとかというやり方をしております。なので、運航日も不定期でございますが、そういうものの活用に一部使えるかなというところはあるかと思います。

**○平山コーディネーター**

ありがとうございます。

今、事務局からそろそろ終わりにしろという指令が来ていますので、この後の話は酒の席でもう少し自由に発言していただければよろしいのかなと思います。

今日いただいたところは事務局で重々検討させていただきまして、できるだけ来年は事業としてもう少し楽しいことにつながって、環境の分野も少し取り入れてみるようなことで考えたい。そのとおりできるか分かりませんが、「考えたい」ということでまとめたいと思います。

今日は、本当に予想以上に参加していただきまして、資料も最後はなくなるような状況でございます。本当にありがとうございました。

また、我々はいつでも皆さんのご意見をオープンでお待ちしておりますので、遠慮なくいつでも話しかけていただきたいと思います。こういう雑駁な交流の会議というのは、あまり一般にはないと思いますが、場が存在しているというのが大切だと、そういうことをまず第一に考えて、その趣旨を活かして広げてまいりたいと思いますので、ぜひよろしく見守り下さい。どうも今日はありがとうございました。

# 参 考 資 料

① 意見交換用資料

② 新聞掲載記事

③ 実行委員会規約、名簿

参考資料　令和５年推進交流会議　意見交換

## 資料１　北上川流域圏フォーラム実行委員会の活動の経緯

１　北上川の「新しい流域圏」を目指す連携活動は、以下に掲げる基本構想・提言などに基づいた活動方針を持ち、平成７年９月の北上川流域連携交流会の発足を契機として大きな盛り上がりを示した。

**基本構想**など

・**21 世紀国土のグランドデザイン（五全総）構想**（平成 10 年）
・**明日の北上川を考える会**の提言**「悠久の流れ北上川ー活力ある地域づくりを目指してー」**（平成８年７月）
・**21 世紀北上川流域の会**がまとめた**「北上川流域民憲章」**（平成８年 10 月）

また、**明日の北上川を考える会**の提言には、下図のような従来の枠組みを越えて、多様な連携・交流・協力が可能な、新しい川と地域の関係による流域マネジメントシステムの構築が想定されている。

北上川流域連携交流会を中心とする市民活動は行政の支援も得て大いに発展し、北上川の市民活動は最盛期を迎えることになる。その後も、前記交流会の活動は継続されていたが、平成の末期に至り、流域規模の活動が徐々に衰退して市民団体同志の連携も弱まり、流域全体の活動エネルギーが低下するに至った。同時に、川と地域の新しいネットワークづくりも中断することとなった。

２　平成 27 年 10 月、北上川流域の官民の有志は広域的な市民運動の再活性化と北上川の連携交流や情報発信力の復活を目指して新しい北上川流域圏運動をスタートさせるため、北上川流域圏フォーラムを開催し、以前、北上川流域連携交流会が目指した基本構想や流域マネジメントシステムをそのまま受け継ぎ、以下のような北上川宣言とアクションプランが合意された。

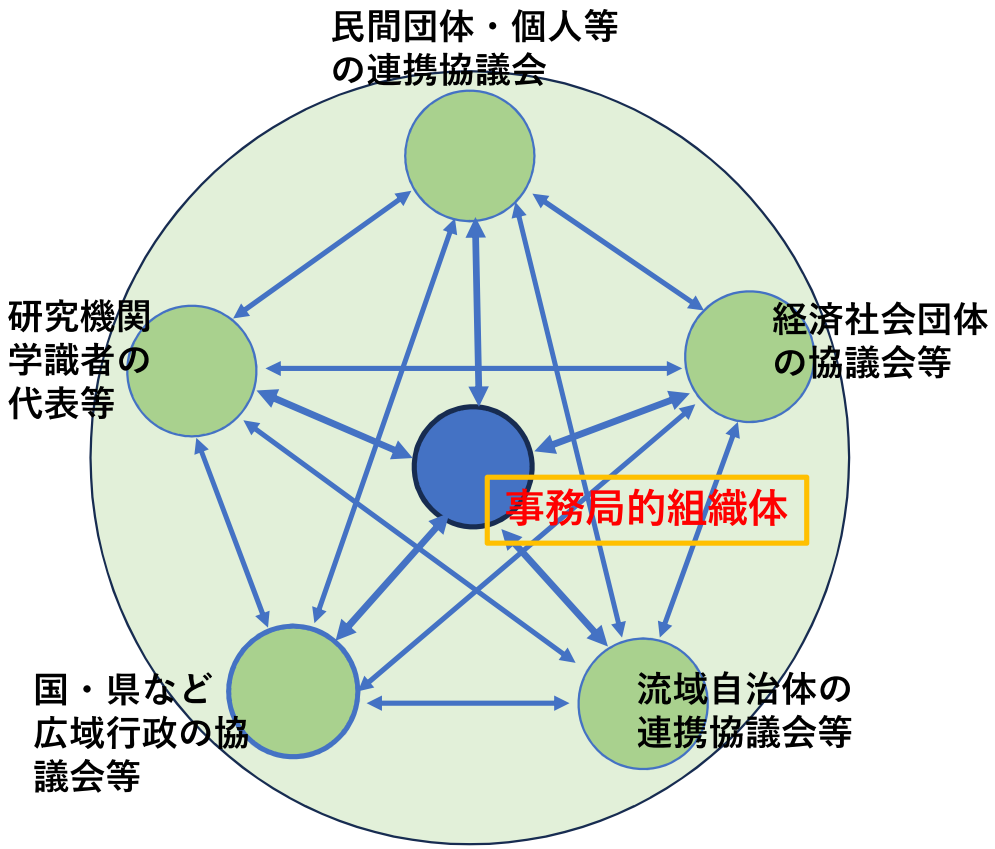
**北上川宣言**

川と地域との新しい関係を構築し、
　・連携と交流の推進　・歴史と文化の尊重　・自然環境の保全
　・安心・安全な暮らしを守る

# 新しい川と地域との流域マネジメントシステム

平成８年７月 提言
「悠久の流れ
　北上川」より引用

平成27年10月北上川
流域圏フォーラムで
合意




川は災害・水利用・自然環境・歴史文化・教育・地域づくりなど地域社会との多様なつながりを持つ。

流域のマネジメントは従来の枠組みを越えて事務局的な流域圏連携推進機構（仮称）などがとりまとめる交流・連携が可能なシステムの構築を目指したい。

**アクションプラン**　　多様な交流・連携のネットワークづくり

・アクションプラン１

流域の恵みが巡る活気ある社会を目指し、

❶流域圏の活性化に関わる活動に取り組みます。

❷流域情報の収集・発信に取り組みます。

❸流域内の官民情報交流の設置に取り組みます。

・アクションプラン２　「環境持続性のある社会を目指し、自然環境の保全活動に取り組みます」。

・アクションプラン３　「歴史や文化を大切にする学びあう社会を目指し、地域や文化に関わる活動に取り組みます」。

３　フォーラム実行委員会は、まずアクションプランに掲げられた多様な交流・連携のネットワークづくりを目指して、ホームページを開設し流域情報を提供し、また流域圏推進交流会議の開催による官民の交流機会の提供、川下り行事等による市民等の川への関心の喚起など、主としてアクションプラン１の実現に取り組んできた。

**推進交流会議**では、市民活動団体などの活動報告、行政からの情報の提供、出席者による意見交換などのプログラムを内容とするが、流域における市民団体、産業界、市町村、大学・研究機関、国、県などの幅広いセクターからの出席を求め、北上川に関わる多様なつながりや交流の場を提供し、交流の促進、ネットワークの構築、川に対する社会の理解を深める等の努力が重ねてきた。まだ不十分である。

**川下り行事**ではこれまでゴムボートや国土交通省の河川調査船「ゆはず」による川下りを行い、川への関心の喚起や河川環境などについて視察し、参加者の意見交換をしてきたが、特に、令和５年度は、「北上川流域研修」として座学・視察・川下り・意見交換のプログラムを組み、次ページに示す通り２日間の行程で実施した。

令和６年、試行錯誤で進めてきた活動は８年目を迎えた。

「多様な交流・連携のネットワーク」の**「仕組みづくり」**に於いては、令和５年度の推進交流会議では産業界の活動報告があり、今年の推進交流会議では大学からの報告がなされるなどネットワークに広がりがみられているが、更にネットワークの広がりが必要な段階にある。特に、産業界・大学研究機関や、国土交通省以外の国省庁への働きかけは不十分である。昨年から流域自治体連携の動きが促進され、組織化の準備段階に入っていることは構想の実現に向けて大きな期待となっている。
今後、アクションプランに掲げられている自然環境の保全活動や歴史文化に関わる活動への検討も深めなければならない。また重要な社会基盤を担っている川の恩恵や水害の脅威に対して取り組みの一層の強化が急がれる。
一方、最近の社会にみられる川に対する関心の低下や会員の高齢化等による活動のマンネリ化や実践力の低下は大いに気になるところである。

資料２　北上川流域研修 2023 の概要

## １　研修の概要

**目的**　本流域研修は、いわゆるインフラ・ツーリズムの体裁をとっており、「治水」を主テーマにダム・遊水地・灌漑施設・分流施設の視察、川下り、北上川の概要についての講義、意見交換を内容に行われた２日間の研修です。
北上川について学び、川と流域社会との結びつきについて理解を深め、川に対する興味を喚起し、北上川のファンを増やすことを目的とするものです。

**実施体制**　北上川流域圏フォーラム実行委員会が主催し、国土交通省・岩手県・宮城県の支援を受けて、本年度は平日に試行的に実施された。舟下りの「ゆはず」運航については岩手河川国道事務所・胆沢平野土地改良区・北上川サポート協会の支援を受けた。宿泊については参加者各自で手配・負担することとした。
バス運航（30 人乗り２日間）、事務局経費、旅行保険、報告書作成などの費用、約 50 万円は寄付金で賄い、参加費は無料とした。

**募集人員と応募方法**　募集人員は 30 名（「ゆはず」は定員 20 名のため一部はバスで移動）として、公募をせず実行委員会から参加者を呼び掛けた。

**行程・プログラムなど**　別紙資料を参照

## ２　実施状況

| 参加者数 | 国 | 県 | 自治体 | 市民 | 事務局 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 令和 5 年 11 月 7 日（火） | 9 | 2 | 10 | 3 | 6 | 30 |
| 令和 5 年 11 月 8 日（水） | 9 | 2 | 6 | 4 | 6 | 27 |

**次年度にむけて**
初めての企画でもあり、本年度は主催者側の参加者が多数を占める結果となった。渇水のため「ゆはず」による川下りが実施できず、バスによる視察となるハプニングもあったが参加者には北上川を体験する良き機会となった。プログラム全体については「概ね好評」の評価を頂いたが、特に流域自治体職員の研修などには適当と思われる。
次年度も継続実施したいが、更に実施体制の強化と北上川に対する幅広い市民の関心を深める効果的な方法を工夫したい。

「北上川のインフラと流域連携」研修　～北上川の治水を訪ねる～

# 北上川流域研修 2023

**☆ 本研修の目的 ☆**

北上川の概要を学ぶ
北上川のダム・遊水地・灌漑施設・分流施設などを見学する
北上川の恩恵や課題について理解を深める

| | | | |
|---|---|---|---|
| カリキュラム | 11/7（火）<br>10:00～17:00 | ●講義①「北上川の治水について」<br>講師：国土交通省東北地方整備局 河川部長　成田 秋義 氏<br>●施設見学（胆沢ダム、徳水園、一関遊水地ほか）<br>●意見交換、交流懇親会（任意） | |
| | 11/8（水）<br>9:00～15:00 | ●講義②「北上川の舟運・灌漑・治水の歴史と流域社会の共的な風土」<br>講師：岩手大学名誉教授　平山 健一 氏<br>●河川調査船「ゆはず」による川下り調査<br>●施設見学（旧北上川分流施設ほか）、意見交換 | |

**主催：　北上川「流域圏」フォーラム実行委員会**

# 2023「北上川のインフラと流域連携」研修

## 【第1日】　１１月７日（火）

| | |
|---|---|
| 9:30 | **受 付**（胆沢ダム管理支所） |
| 9:45～10:00 | **開 会**（あいさつ、連絡事項説明） |
| 10:00～11:00 | 講 義 ①　**「北上川の治水について」**<br>講師：国土交通省東北地方整備局 河川部長　成田 秋義 氏 |
| 11:00～12:30 | 施設見学　**胆沢ダム**（展示室・堤体内部・展望台）　説明：北上川ダム統合管理事務所<br>**奥州胆沢カヌー競技場** |
| 12:30～13:15 | **昼 食**（奥州湖交流館） |
| 13:30～15:45 | 施設見学　（バス移動）<br>**徳水園・円筒分水アクアパーク**　説明：胆沢平野土地改良区<br>**一関遊水地**（周囲堤・水門・越流部、あいぽーと等）　説明：岩手河川国道事務所<br>※ 途中、バスの中から平泉文化遺産に関連した施設を経由して移動します。 |
| 16:00～17:00 | 意見交換　**「これからの北上川へ向けて（1）」**　研修の感想や北上川に関連した想いなど |
| 17:30～19:30 | 交流懇親会　一ノ関駅周辺　※希望者 |

**連絡バス：**【行き】 新幹線水沢江刺駅（8:50） ➡ 水沢駅（9:05） ➡ まちの駅アテルイ（9:10） ➡ 胆沢ダム
【帰り】 あいぽーと ➡ 一ノ関駅 ➡ 水沢方面（まちの駅アテルイ、水沢駅）

## 【第2日】　１１月８日（水）

| | |
|---|---|
| 8:30 | **受 付**（川崎防災センター・北上川交流センター） |
| 8:50～9:00 | **開 会**（あいさつ、連絡事項説明） |
| 9:00～10:00 | 講 義 ②　**「北上川の舟運・灌漑・治水の歴史と流域社会の共的な風土」**<br>講師：岩手大学名誉教授　平山 健一 氏 |
| 10:15～11:30 | 乗 船 ①　**河川調査船「ゆはず」による川下り**（狭窄部～日形堤防～曲袋～登米） |
| 11:40～12:40 | **昼 食**（登米市内） |
| 12:50～13:50 | 乗 船 ②　**河川調査船「ゆはず」による川下り**（登米～分流施設～分流下船着き場）<br>※ 脇谷閘門通過後下船します。　説明：北上川下流河川事務所 |
| 14:00～15:00 | 意見交換　**「これからの北上川へ向けて（2）」**　研修の感想や北上川に関連した想いなど |
| 15:00 | **閉 会** |

**連絡バス：**【行き】 一ノ関駅西口（8:15） ➡ 集合場所（川崎防災センター・北上川交流センター）
【帰り】 分流施設 ➡ 集合場所（川崎防災センター・北上川交流センター） ➡ 一ノ関駅

令和６年２月４日（日）　岩手日日

# 川生かすまちづくり模索

## 北上川「流域圏」推進交流会議　活動発表や意見交換

活気ある流域社会に向けて情報共有した北上川「流域圏」推進交流会議

川をテーマに活動するＮＰＯや研究者らが連携を深める北上川「流域圏」推進交流会議は３日、北上市立花の展勝地レストハウスで開かれた。活動発表や河川行政の取り組み報告、意見交換などが行われ、参加者約60人が川を生かしたまちづくりの在り方を探った。

主催者を代表し、北上川「流域圏」フォーラム実行委員会の平山健一委員長が「北上川に関わる活動組織と官民の交流の場。新しい発展が期待されるこの会議に対する意見も伺いたい」とあいさつ。

流域活動発表では、関係団体や大学、行政機関の代表者が川下り体験や環境保全、舟運によるにぎわい創出、カワウの飛来状況、流域白治体の連携について語った。

いわて流域ネットワーキング（盛岡市）の内田尚宏代表理事は胆沢川、和賀川、北上川をつなぐ「広域・ウォーターランド構想」を説明。２０１８年に奥州市が「いわて国体特設カヌーコース」をカヌー競技とラフティングの観光施設として残すと決定したのを受け、体験型観光や人材育成に取り組んでいると語った。

ラフティングは活動時期が短く、より穏やかなアクティビティーを求める声も多いことから奥州、北上、西和賀、金ケ崎の各市町流域を一体として捉え、胆沢ダム（奥州市）直下のラフティングやカヌー、湯田ダム（西和賀町）の水没林、北上川ＳＵＰツアーなど各地の優位点を結び付ける体験プログラムやツアーを構想。「利点として体験型観光が多様化し、体験できる期間も長くなるほか、ガイドなど人材の相互連携や効果的な情報発信につながる。北上川流域をもっと楽しくしたい」とまとめた。

行政担当者による報告では、水辺の交流拠点や北上川５大ダムの活用、かわまちづくり、本県の流域治水などの話題が提供された。

# 「北上川『流域圏』フォーラム」実行委員会規約

（名　称）

第１条　本会は、「北上川『流域圏』フォーラム」実行委員会（以下「実行委員会」）と称する。

（目　的）

第２条　実行委員会は「北上川『流域圏』フォーラム」を成功裡に実施し、その成果を実現するために流域圏マネジメント構想の試行を推進することを目的とする。

（事　業）

第３条　実行委員会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

（１）基調講演、活動事例発表、パネルディスカッション、新たな形の提案、北上川宣言の企画運営

（２）流域交流調査の企画運営

（３）北上川視察船の企画実施

（４）北上川流域内の河川関係活動情報の収集・発信

（５）北上川「流域圏」推進交流会議（仮称）の開催

（６）その他「流域圏」推進に関わる取組の検討

（７）その他大会の企画運営に関わる事項

（委　員）

第４条　委員は関係河川管理者、地方公共団体、NPO 及び河川をフィールドとして活動し、当大会に参加する諸団体ならびに流域貢献をすすめる企業、関連団体等をもって組織する。

（１）実行委員長を置く。実行委員長は平山健一をあてる。

（２）副実行委員長を置く。副実行委員長は軽石昇、武山文衛及び軍司俊道をあてる。実行委員長に事故ある時は、副実行委員長がその職務を代行する。

（３）実行委員会に監事を置く。監事は実行委員長が指名する。

（４）実行委員会に運営委員を置く。運営委員長及び副運営委員長は実行委員長が指名する。

（５）実行委員会に事務局を置く。事務局長は実行委員長が指名する。

（監　事）

第５条　実行委員会に監事を置き、会計処理を監査する。

（委員会）

第６条　実行委員長は、実行委員会を招集し、その議長となる。

（１）実行委員会は次の事項を審議決定する。

①　事業計画や予算・決算に関すること。

②　その他重要な事項に関すること。

（２）実行委員会の議事は、出席者の過半数により決する。同数の時は議長がこれを決する。

（運営委員会）

第７条　運営委員会は下記の事項を協議・執行する。

（１）実行委員会に付議すべき事項。

（２）実行委員会の議決を要しない会務の執行に関する事項。

（３）実行委員会で決議した事項の執行に関する事項。

（４）その他実行委員会で必要と認めた事項。

（事務局）

第８条　実行委員会事務局は、「(株)展勝地内」に置く。

（会　計）

第９条　実行委員会の経費は次をもってあてる。

（１）参加費

（２）助成金

（３）寄付金、その他の収入

２．実行委員会の会計は、毎年４月１日～３月３１日までを１会計年度とする。

（解　散）

第１０条　実行委員会は、本会の目的を達成もしくは中止する事を決議した場合に解散する。

（雑　則）

第１１条　この規約に定めるもののほか、実行委員会の運営に必要な事項は、委員長が実行委員会に諮って定める。

附　則

１．本規約は、平成２７年　７月　１日の第１回実行委員会の議決を持って施行する。

２．本規約は、平成２８年４月２７日の第１回実行委員会の議決を持って施行する。

北上川「流域圏」フォーラム

# 令和５年度　実行委員会名簿

## 実行委員

| | 氏　名 | 団　体　名 | 役　職 |
|---|---|---|---|
| 委 員 長 | 平山　健一 | NPO法人北上川流域連携交流会 | 顧　問 |
| 副委員長 | 軽石　　昇 | ガイア展勝の会 | 会　長 |
| 副委員長 | 武山　文衛 | NPO法人りあすの森 | 顧　問 |
| 副委員長 | 軍司　俊道 | NPO法人北上川流域連携交流会 | 代表理事 |
| 委　員 | 白石　定利 | 水と緑の環境フォーラム・ものう | 会　長 |
| 委　員 | 柏　眞喜子 | をんな川会議 | 事務局長 |
| 委　員 | 白畑　誠一 | 北上川フィールドライフクラブ | 代　表 |
| 委　員 | 内田　尚宏 | 一般社団法人いわて流域ネットワーキング | 代表理事 |
| 委　員 | 古舘　雅晴 | 川を知る会 | 事務局長 |
| 委　員 | 海野　　伸 | 北上川に舟っこを運航する盛岡の会 | 会　長 |
| 委　員 | 伊藤　博人 | NPO法人北上川サポート協会 | 理事長 |
| 委　員 | 新井　高広 | NPO法人ひたかみ水の里 | 代表理事 |
| 委　員 | 近藤　　修 | 国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所 | 所　長 |
| 委　員 | 斉藤　喜浩 | 国土交通省東北地方整備局 北上川下流河川事務所 | 所　長 |
| 委　員 | 小田桐 淳司 | 国土交通省東北地方整備局 北上川ダム統合管理事務所 | 所　長 |
| 委　員 | 馬場　　聡 | 岩手県県土整備部河川課 | 総括課長 |
| 委　員 | 長谷川 清人 | 宮城県土木部河川課 | 課　長 |
| 監　査 | 若林　治男 | 宮城建設株式会社 | 取締役副社長 |

## 運営委員

| | 氏　名 | 団　体　名 | 役　職 |
|---|---|---|---|
| 委員長 | 中村　　巌 | NPO法人北上川流域連携交流会 | |
| 副委員長 | 内田　尚宏 | 一般社団法人いわて流域ネットワーキング | 代表理事 |
| 委　員 | 菅原　惠子 | NPO法人奥州・いわてNPOネット | 理事長 |
| 委　員 | 佐藤 富美子 | 特定非営利活動法人ゆう・もあ・ねっと | 代　表 |
| 委　員 | 齋藤　一公 | NPO法人北上川流域連携交流会 | 事務局長 |
| 委　員 | 塚原　俊也 | くりこま高原自然学校 | 校　長 |
| 委　員 | 金野　和則 | NPO法人北上川サポート協会 | 事務局長 |
| 委　員 | 木村　　晃 | 国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所 | 副所長 |
| 委　員 | 前田　充典 | 国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所流域治水課 | 課　長 |
| 委　員 | 村上　智明 | 国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所流域治水課 | 流域連携係長 |
| 委　員 | 片山　一茂 | 国土交通省東北地方整備局 北上川下流河川事務所流域治水課 | 課　長 |
| 委　員 | 高橋　伸行 | 国土交通省東北地方整備局 北上川下流河川事務所流域治水課 | 流域連携係長 |
| 委　員 | 山中　彰人 | 国土交通省東北地方整備局 北上川ダム統合管理事務所調査課 | 課　長 |
| 委　員 | 菊地　　博 | 岩手県県土整備部河川課 | 河川海岸担当課長 |
| 委　員 | 石達　直樹 | 宮城県土木部河川課 | 技術副参事兼総括課長補佐 |
| 事務局長 | 小山　隆春 | NPO法人北上川流域連携交流会 | 理　事 |
| 事務局 | 和賀　匡彦 | ガイア展勝の会 | |
| 事務局 | 佐井　　守 | 一般社団法人いわて流域ネットワーキング | |
| 事務局 | 菊池　拓巳 | 一般社団法人いわて流域ネットワーキング | |

# 私達は
# 北上川流域の活動を
# 応援します

みちのく民俗村指定管理者

みちのく民俗村
MICHINOKU FOLKLORE VILLAGE

展勝地レストハウス

岩手県北上市立花14-21-1
TEL0197(64)2110　FAX0197(64)2210
営業時間AM10:00～PM5:00　定休日/月曜日

令和５年度

# 北上川『流域圏』推進交流会議　報告書


北上川「流域圏」フォーラム実行委員会（構成機関）

ＮＰＯ法人北上川流域連携交流会、（一社）いわて流域ネットワーキング、北上川に舟っこを運航する盛岡の会、
をんな川会議、川を知る会、北上川フィールドライフクラブ、ガイア展勝の会、
ＮＰＯ法人奥州・いわてＮＰＯネット、NPO 法人北上川サポート協会、水と緑の環境フォーラム・ものう、
くりこま高原自然学校、ＮＰＯ法人りあすの森、NPO 法人ひたかみ水の里、
国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所・北上川下流河川事務所・北上川ダム統合管理事務所、
岩手県、宮城県

事務局：㈱展勝地　みちのく民俗村管理運営事業部

〒024-0043 岩手県北上市立花14-62-3　　TEL 0197-72-5067／FAX 0197-72-5074

E-mail: info.river@kitakamigawa.or.jp